

地域保育学科

2024年4月1日 更新

2024年5月24日 更新

2024年9月12日 更新

科目名	日本国憲法		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	わたなべ のぶひさ 渡辺 演久
ナバリングコード	PUL21101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	憲法はなぜ存在するのかを理解し、憲法は国家権力を縛ることによって、人権を保障していることを説明していく。また子どもの権利条約などの国際法や教育基本法との関連性についても講義していく。最終的には子どもにまつわる憲法上の諸問題について考えられる講義とする方針である。							
到達目標	1. 憲法の制定目的について説明できる。 2. 主権者として政策を選択する力を身につけている。 3. 子どもの人権について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1,2,4 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス、憲法はなぜあるのか（立憲主義）	予習	憲法の前文を読む	復習	憲法の目的を理解する	
	第2回	内容	憲法は素晴らしいが、何の役に立つのだろうか？（憲法は誰に遵守義務があるのか）	予習	憲法は誰を縛っているのか調べる	復習	憲法尊重擁護義務について理解する	
	第3回	内容	戦後の日本はへそによって作られた（日本国憲法の制定過程）	予習	民間の憲法案を調べる	復習	民間の憲法案がどう反映されたかを理解する	
	第4回	内容	天皇の給料はお仕事にみあっているか（象徴天皇制）	予習	女性天皇、女性宮家について調べる	復習	現在の皇室をとりまく状況を理解する	
	第5回	内容	ウルトラマンは地球を守るために戦う？（平和主義と自衛隊）	予習	平和のための戦いはありうるのか考える	復習	平和主義について理解する	
	第6回	内容	自由が先か、平等が先か（法の下での平等）	予習	一票の格差とは何か調べる	復習	選挙制度について理解する	
	第7回	内容	大岡政談にみる黙秘権と無罪の推定（刑事司法における人権保障）	予習	冤罪事件について調べる	復習	無罪推定の意義について理解する	
	第8回	内容	言論の自由は「言いたいことを言う権利」ではない（言論の自由）	予習	民主政治には何が必要か調べる	復習	言論の自由の意義を理解する	
	第9回	内容	教育の主体は国家？それとも国民？（教育を受ける権利）	予習	学校教育の誕生について調べる	復習	教育を受ける権利について理解する	
	第10回	内容	幸福追求権の中身と自己決定（幸福追求権）	予習	トランスジェンダーの問題について調べる	復習	幸福追求権が人権の源になりうることを理解する	
	第11回	内容	参政権があるだけでは民主主義とはいえない（参政権と民意）	予習	自分の選挙区の選挙結果を調べる	復習	多数が民意とは限らないことを理解する	
	第12回	内容	統治機構は人権を守る手段である（法の支配）	予習	国家を支配しているのは誰か考える	復習	法の支配について理解する	
	第13回	内容	国会と国会議員の実像（立法機関）	予習	国権とは何か調べる	復習	三権分立について理解する	
	第14回	内容	内閣と議員内閣制の不思議（内閣）	予習	憲法の行政について読んでおく	復習	行政権の範囲について理解する	
	第15回	内容	まとめとレポート作成	予習	憲法にまつわる新聞記事を調べる	復習	憲法の視点から政治問題を考える	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	レポート作成後にまとめと講評を行う							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（ 90 %）、授業態度【積極的参加】（ 10 %）							
教科書	『憲法のおもしろさ第3版』（山本聡・渡辺演久、北樹出版）							
参考文献	授業時に適宜紹介する							
補足事項	新聞記事等を通じて子どもをとりまく人権状況を取り上げるので、新聞などの報道に興味をもってほしい。							

科目名	体育実技		単位数	1	授業時間数	44	担当教員	つだ まきこ 津田 麻希子
ナバリングコード	DMB21101		授業形態	実技	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	子どもの体力・運動能力は長期的に低下傾向にあるとされている中で、スポーツや運動・外遊びに親しむ事が望ましいとされる昨今、幼児教育者が正しい知識を身に付ける事で子どもたちの運動能力や体力の増加が見込まれる。本授業では、幼児教育者を目指す学生自らが運動・スポーツの楽しさや大切さ、基礎的技術や知識を習得することを狙いとする。							
到達目標	1. 体育実技を通し、規律を理解したり、協調性や社会性を身に付けている。 2. 自身の健康維持・増進について考え、健康管理が出来る知識を身に付けている。 3. 幼児教育者として必要な運動に関する基本的な知識や技能を習得している。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(2、4、5) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス、野外・環境教育実習について			予習	シラバスで本授業の内容・目標等を理解する。	
					復習	授業内容から履修方法を選択する。		
	第2回	内容	ドッチボール、ドッチビー等			予習	ドッチビーについて調べる。	
					復習	ルールについてノートにまとめる。		
	第3回	内容	鬼ごっこ			予習	いろいろな鬼ごっこについて調べる。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第4回	内容	ソフトバレーボール			予習	必要なストレッチを調べる。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第5回	内容	新聞紙を使って動く			予習	新聞紙を準備しておく。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第6回	内容	バレーボール			予習	ルールについて調べる。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第7回	内容	大縄跳び、縄跳び			予習	色々な跳び方を調べる。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第8回	内容	アルティメット			予習	ルールについて調べる。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第9回	内容	バスケットボール			予習	ルールについて調べる。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第10回	内容	目隠しして行うゲーム			予習	どのような物があるか調べる。	
					復習	授業内容をノートにまとめる。		
	第11回	内容	バドミントン			予習	ルールについて調べる。	
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第12回	内容	フットサル			予習	ルールについて調べる。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第13回	内容	タッチフットボール①ルールを学び練習、作戦会議発表 ※グループワーク			予習	ルールについて調べる。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第14回	内容	タッチフットボール②ゲーム ※グループワーク			予習	作戦会議の内容を見直しておく。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第15回	内容	リズム体操・レクダンス①創作 ※グループワーク			予習	動きをイメージしておく。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第16回	内容	リズム体操・レクダンス②創作、練習 ※グループワーク			予習	前回の動きを思い出す。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第17回	内容	リズム体操・レクダンス③発表前半 ※グループワーク			予習	動き全体を練習する。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第18回	内容	リズム体操・レクダンス③発表後半 ※グループワーク			予習	動き全体を練習する。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第19回	内容	ミニ運動会①企画			予習	出来そうな事を調べる。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
第20回	内容	ミニ運動会②種目考案 ※グループワーク			予習	企画内容を見直す。		
				復習	授業内容をノートにまとめる。			
	内容				予習	種目内容を見直す。		

	第 21 回		ミニ運動会③本番に向けての準備 ※グループワーク	復習	授業内容をノートにまとめる。
	第 22 回	内容	ミニ運動会本番	予習	本番に向け体調を整える。
				復習	授業内容をノートにまとめる。
	第 23 回	内容		予習	
				復習	
	第 24 回	内容		予習	
				復習	
	第 25 回	内容		予習	
				復習	
	第 26 回	内容		予習	
				復習	
	第 27 回	内容		予習	
復習					
第 28 回	内容		予習		
			復習		
第 29 回	内容		予習		
			復習		
第 30 回	内容		予習		
			復習		
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	発表の際は講評をする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【積極的参加】（30%）				
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 必要に応じて資料を配布				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） なし				
補足事項	1. 実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 2. 意欲を持って積極的に取り組む姿勢を評価する。				

科目名	体育講義		単位数	1	授業時間数	16	担当教員	つだ まきこ 津田 麻希子
ナンバリングコード	DMB21102		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他( )							
授業の内容	心身の健康保持増進は、豊かなライフスタイルを送る上で必要不可欠である。健康と運動との関わりに関する正しい知識を身に付け、理解を深めることを目的とする。また、自身の身体の仕組みについて知識を深め、自らの健康維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことを狙いとする。							
到達目標	1. 健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 2. 各年齢に適した食事や運動実践方法について理解をしている。 3. 自己管理や、子どもの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう、基礎知識を習得している。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(1、2、4) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	受講上の留意事項について 現代社会と健康、食事について	予習	教科書 p5～18 を読んでおく。	復習	授業内容をノートにまとめる。	
	第2回	内容	心の健康と運動	予習	教科書 p21～26 を読んでおく。	復習	授業内容をノートにまとめる。	
	第3回	内容	青年期の性について	予習	教科書 p27～32 を読んでおく。	復習	授業内容をノートにまとめる。	
	第4回	内容	運動と健康	予習	教科書 p35～41 を読んでおく。	復習	授業内容をノートにまとめる。	
	第5回	内容	体力について	予習	教科書 p43～50 を読んでおく。	復習	授業内容をノートにまとめる。	
	第6回	内容	トレーニングの基礎理論	予習	教科書 p51～56 を読んでおく。	復習	授業内容をノートにまとめる。	
	第7回	内容	スポーツ傷害と応急処置	予習	教科書 p57～63 を読んでおく。	復習	授業内容をノートにまとめる。	
	第8回	内容	まとめ	予習	今までの授業内容を見直す。	復習	講義内容を全て見返し、理解を深める。	
	第9回	内容		予習		復習		
	第10回	内容		予習		復習		
	第11回	内容		予習		復習		
	第12回	内容		予習		復習		
	第13回	内容		予習		復習		
	第14回	内容		予習		復習		
	第15回	内容		予習		復習		
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストや復習問題等で解説をする。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験(50%)、レポート・課題(20%)、作品・発表( )%、実技( )%、授業態度【積極的参加】(30%)							
教科書	『書名』(著者名、出版社名) 『大学生のための体育講義-今日つくる未来・今日を生きる知恵-』(茗井香保里他、推敲舎)							
参考文献	『書名』(著者名、出版社名) 必要に応じてプリントを随時配布。							
補足事項	授業は11月頃より開始予定、毎回教科書とプリント、ノートを必ず持参すること。							

科目名	短大基礎講座		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文 他
ナンバリングコード	EDU21101		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	本授業では、これから三年間の短大教育を始めるに当たって、必要な基礎学力や学ぶための姿勢について講義を行う。また、地域保育学科の理念を理解し、特色を持った保育者となるための教育も行う。							
到達目標	1. 短期大学の学びを理解している。 2. 地域保育学科の教育理念を理解し、特色を持った保育者になることを目指している。 3. 発表を人前でを行うことができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1,2）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション（全員）4/10			予習	シラバスを読んでおく	
					復習	資格取得必要事項の確認		
	第2回	内容	学科長講話（加賀谷）4/17			予習	事前に伝える	
					復習	講話内容を整理する		
	第3回	内容	大学での学び①（教科書・ノートについて）（伊能）入学前課題解説（星野）4/24			予習	教科書を読んでおく（P.31～73）	
					復習	授業内容の確認		
	第4回	内容	大学での学び②（自分の意見の伝え方・発表について）（味田）5/1			予習	教科書を読んでおく（P.97～113、179～190）	
					復習	授業内容の確認		
	第5回	内容	発表について（橋本）5/8			予習	第3回、4回の内容を整理する	
					復習	発表の方法を確認する		
	第6回	内容	大学での学び③（論文の書き方・プレゼンテーションの方法）（伊能）5/15			予習	教科書を読んでおく（P.133～176、179～190）	
					復習	授業内容の確認		
	第7回	内容	レジュメ提出・発表準備（星野）5/22			予習	レジュメを作成する	
					復習	発表の準備をする		
	第8回	内容	発表①（加賀谷、橋本、伊能、星野、味田）5/29			予習	発表の練習	
					復習	他の学生の発表を振り返る		
第9回	内容	発表②（加賀谷、橋本、伊能、星野、味田）6/5			予習	発表の練習		
				復習	他の学生の発表を振り返る			
第10回	内容	学園歌練習、サクラタウン説明（長谷川）6/12			予習	学園歌を調べる		
				復習	歌えるよう練習する			
第11回	内容	サクラタウン研究（秋山）6/19			予習	サクラタウンについて調べる		
				復習	学外学習について整理する			
第12回	内容	女性としての学び①（味田）6/26			予習	事前に伝える		
				復習	授業内容を確認する			
第13回	内容	女性としての学び②（橋本）7/3			予習	事前に伝える		
				復習	授業内容を確認する			
第14回	内容	サクラタウン報告会（橋本・加賀谷）7/10			予習	報告準備		
				復習	他の学生の報告を振り返る			
第15回	内容	学外活動（サクラタウン）（担任、秋山、加賀谷）6/29			予習	施設の概要を知っておく		
				復習	見学時の感想を整理する			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	Google Classroom等を用いて適宜行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（□）しない 成績評価の方法： 作品・発表（50%）授業態度【出席、課題への取り組みなど】（50%）							
教科書	『改増版 大学基礎講座』（藤田哲也ほか、北大路書房）							
参考文献	必要に応じて伝える。							
補足事項	この授業は教員のオムニバス方式で行われる。各回の担当者は授業内容欄に記載してある。 加賀谷6回、橋本7回、長谷川3回、伊能5回、秋山3回、星野5回、味田5回							

科目名	基礎学力講座		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しみず すみこ 清水 澄子
ナバリングコード	EDU21102		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	① 中学校や高校時代の復習として、読む力、考える力、発表する力を身につける。 ② 社会人になるための一般的な常識の基本を身につける。 ③ 保育士として働く際に知っておくべき基礎知識を身につける。							
到達目標	1. 中学生、高校生時代に学んだ知識を身につけている。 2. 今、社会で起きていることに興味を持ち自分なりの考えをまとめる力を習得している。 3. 保育士の仕事とはどのようなものかについて基本を知っている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1、2、4、5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	93歳の元秋草卒業生からのメッセージ	予習	秋草学園の学生便覧を読んでおく。			
				復習	過去の苦勞と努力をもう一度考える。			
	第2回	内容	子育てや保育に関わる課題の概略を学ぶ。	予習	毎日のニュースに目を通す。			
				復習	子育て現場や保育現場の苦勞を復習する。			
	第3回	内容	少子化問題の現状や課題を学ぶ。	予習	自分が感じる少子化を予習しておく。			
				復習	なぜ急激に少子化が進んでいるのかを知る。			
	第4回	内容	世界の子育てについて学ぶ。	予習	多産から少子化への急激な変化を調べる。			
				復習	先進国で進む少子化の原因を復習する。			
	第5回	内容	保育士として働くことの現実を学ぶ。	予習	ネットや書物から保育士の現実を学んでおく。			
				復習	保育士の楽しさと苦勞を考える。			
	第6回	内容	子育てについての行政の政策	予習	子ども家庭庁のホームページを読む。			
				復習	国や都道府県、市町村の政策を復習する。			
	第7回	内容	明治時代以降の女性の歴史を学ぶ	予習	母親や身近な女性から仕事の話聞く。			
				復習	女性が苦勞して獲得した権利を復習する。			
	第8回	内容	子どもへの虐待の現状を学ぶ。	予習	新聞やネットで虐待のニュースを読む。			
				復習	虐待に気が付く保育士になる方法を考える。			
第9回	内容	女性と子供の貧困について学ぶ。	予習	子どもの貧困について調べておく。				
			復習	貧困を防ぐためにどうすべきかをまとめる。				
第10回	内容	小学校や学童保育での子どもの現状を学ぶ。	予習	学童保育の仕事について調べておく。				
			復習	保育の仕事としての学童保育を復習する。				
第11回	内容	子どもについての金銭的負担を学ぶ。	予習	子育てにかかるお金を調べておく。				
			復習	だれがどの程度負担すべきかを考えまとめる。				
第12回	内容	障害児を育てることの苦勞を学ぶ。	予習	障害児保育について調べておく。				
			復習	障害児保育士としての心がけを知る。				
第13回	内容	児童文学、児童図書を読む。	予習	図書室で児童文学書を3冊は読む。				
			復習	児童文学の持つ深さを知る。				
第14回	内容	保育時事のまとめを学ぶ。	予習	毎日の子育て関連ニュースを見ておく。				
			復習	保育をとりまく現状を復習し頭に留める。				
第15回	内容	1回目から14回目までの学習を総復習する。	予習	今までのプリントを復習する。				
			復習	自分が知ったことをかみしめる。				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	2回に1回は簡単なレポート、8回目と15回目には長いレポートの提出を求める。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（50%）、作品・発表（50%）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）							
教科書	なし。毎回、資料を配布する。							
参考文献	新聞記事、雑誌からの抜粋記事							
補足事項								

科目名	情報処理	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	ほしのおさむ 星野 治
ナバリングコード	EDT21101	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )						
授業の内容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア (Word)、表計算用ソフトウェア (Excel) およびプレゼンテーション用ソフトウェア (PowerPoint) の基本的な取り扱い方を学ぶ。 第2回～第14回の授業では、相隣り合う2～3コマずつの授業をペアとして進行する。各ペアの前半ではソフトウェアの基本操作を主に講義形式で、同じく後半ではソフトウェアの応用操作を主に自習形式で学びつつ、2～3コマの授業時間を使って1つの課題を仕上げる。						
到達目標	1. 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用方法を習得している。 2. パソコン初心者には、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 3. パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科 ( ) 地域保育学科 ( 1, 2 ) 文化表現学科 ( )						
授業計画	第1回	内容	ガイダンス 情報リテラシー、サインイン・サインアウト、Windows の基礎知識、日本語入力、Gmail、Classroom、その他	予習	シラバスを読んでおく。	復習	パソコンの基本操作を確実に行う。
	第2回	内容	Word の学習(1a) やさしい文書の作成、その他	予習	Word の編集画面の内容を理解する。	復習	教科書を用いて入力練習をする。
	第3回	内容	Word の学習(1b) 表の取り扱い、文章の修飾(フォント、下線、網かけ、レイアウト、等々)、その他	予習	表の取り扱い (Word の場合) について確認する。	復習	指定された課題 (表付き文書) を作成する。
	第4回	内容	Word の学習(2a) 文章の修飾 (クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線)、その他	予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。	復習	指定された課題 (修飾付き文書) を作成する。
	第5回	内容	Word の学習(2b) やや高度な文書加工 (ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換)、その他	予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。	復習	指定された課題 (応用修飾付き文書) を作成する。
	第6回	内容	Excel の学習(1a) 基本的な表 (数表) の作成、その他	予習	Excel の編集画面の内容を理解する。	復習	表作成を通して Word の操作との違いを理解する。
	第7回	内容	Excel の学習(1b) 表 (数表) の作成 (関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々)、その他	予習	教科書などを通して組み込み関数を確認する。	復習	指定された課題 (計算付き数表) を作成する。
	第8回	内容	Excel の学習(2a) データ処理の応用 (条件判定、セル参照、グラフ)、その他	予習	条件判定の指定方法について確認する。	復習	指定された課題 (条件付き数表) を作成する。
	第9回	内容	Excel の学習(2b) より高度なデータ処理 (簡単なデータベース、フィルタリング)、その他	予習	入力値の並べ替え方法について確認する。	復習	指定された課題 (入力値の抽出処理) を作成する。
	第10回	内容	PowerPoint の学習(1) スライド作成の基本 (文字入力、スライドの編集(挿入・削除・置換))、その他	予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。	復習	指定された課題 (簡単なスライド) を作成する。
	第11回	内容	PowerPoint の学習(2) スライド作成の応用 (図表・画像の挿入、マルチメディア効果)、その他	予習	スライドの応用的な修飾方法について確認する。	復習	指定された課題 (前回の成果物の改良) を作成する。
	第12回	内容	ソフトウェアの応用(1) 長文レポート (鑑賞文など) の作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。	復習	指定された課題 (両ソフトの同時利用) を作成する。
	第13回	内容	ソフトウェアの応用(2) Excel を用いた数学問題の求解、その他	予習	各ソフトウェアの応用操作を再確認する。	復習	指定された課題 (数学問題の求解など) を作成する。
	第14回	内容	ソフトウェアの応用(3) Word や Excel を併用したスライドの作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。	復習	指定された課題 (授業時に指示する) を作成する。
	第15回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報リテラシーに関する各自の見解のまとめ	予習	これまでの課題全般に目を通しておく。	復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。
	予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。						
課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施 ( ) する / ( ) しない 成績評価の方法： レポート・課題 (50%)、授業態度【積極的参加】(50%)						
教科書	『Windows10 対応 30 時間でマスター Office2019』(実教出版企画開発部、実教出版株式会社)						
参考文献	必要に応じて紹介する。						

補足事項	<p>授業の進行状況に応じて、授業計画の内容を適宜変更する場合がある。</p> <p>パソコンの操作はピアノの演奏と同様に、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。また、パソコンとスマートフォンとは、用途も使い勝手も互いに全く異なるIT機器同士である。スマートフォンの操作はできる反面パソコンに対して苦手意識があるという人は、時間の許す限り、たとえば授業時間外にネットサーフィンを行う等して、パソコンの取り扱いに慣れ親しむようにしてほしい。</p>
------	---

科目名	英語	単位数	2	授業時間数	60	担当教員	はまな なな 浜名 那奈
ナバリンクコード*	ENL21101	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	たとえ英語に対する苦手意識をもっていたとしても、保育者は、日本語を母国語としない子どもたちが安心して楽しい園生活を送れるよう、彼らやその保護者を支える人であってほしい。この授業では、楽しく英語に親しみながら、多文化への理解と、積極的にコミュニケーションをとる勇気を身に付けることをねらいとする。						
到達目標	1. 様々な文化的背景の人々がいることを理解し、受け入れられる。 2. 日本語を母国語としない相手とも、積極的にコミュニケーションがとれる。 3. 英語のアクティビティに関する知識をもち、楽しんで取り組める。 4. 保育者として必要な英語力を有している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1,2,3,4 ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	英語での自己紹介 英語の名前について	予習	シラバスを読んでおく。		
				復習	英語での自己紹介を声に出して練習する。		
	第2回	内容	英語圏の3・4月の行事 アクティビティ①	予習	イースターとは何か、調べておく。		
				復習	授業で行ったアクティビティを練習する。		
	第3回	内容	英語圏の5月の行事 アクティビティ②	予習	母の日について調べておく。		
				復習	授業で行ったアクティビティを練習する。		
	第4回	内容	英語で話しかけられたときの対応	予習	英語で話しかけられたらどうするか、考える。		
				復習	英語で話しかけられたときの対応を練習する。		
	第5回	内容	ベビーシャワーについて 妊婦さんと赤ちゃん	予習	ベビーシャワーとは何か、調べておく。		
				復習	妊婦や乳幼児に関する表現を練習する。		
	第6回	内容	登園時の会話	予習	日本語での登園時の挨拶を調べておく。		
				復習	登園時の会話を声に出して練習する。		
	第7回	内容	降園時の会話	予習	日本語での降園時の挨拶を調べておく。		
				復習	降園時の会話を声に出して練習する。		
	第8回	内容	英語圏の6月の行事 アクティビティ③	予習	父の日について調べておく。		
				復習	授業で行ったアクティビティを練習する。		
	第9回	内容	子どもの体調不良	予習	子どもが体調不良の際の対処法を考えておく。		
				復習	体調不良に関する表現を声に出して練習する。		
	第10回	内容	保護者との電話	予習	日本語での電話のマナーについて調べておく。		
				復習	英語での電話の表現を声に出して練習する。		
	第11回	内容	排泄に関する会話	予習	排泄の発達の個人差について調べておく。		
				復習	排泄に関する表現を声に出して練習する。		
	第12回	内容	英語圏の7・8月の行事 オノマトペを楽しもう	予習	アメリカ独立戦争について調べておく。		
				復習	オノマトペを声に出して練習する。		
	第13回	内容	園での食事・アレルギー	予習	子どもの食物アレルギーについて調べておく。		
				復習	食事に関する表現を声に出して練習する。		
	第14回	内容	お制作	予習	「製作」と「制作」の違いを調べておく。		
				復習	お制作の表現を声に出して練習する。		
	第15回	内容	英語ではがきを書く	予習	宛先を決め、住所を調べ、はがきを用意する。		
				復習	別の相手にも英語ではがきを書く。		
	第16回	内容	英語圏の9・10月の行事 アクティビティ④	予習	ハロウィンについて調べておく。		
				復習	授業で行ったアクティビティを練習する。		
	第17回	内容	英語の絵本読み聞かせの練習（グループワーク）	予習	10分以内で音読できる英語の絵本を用意する。		
				復習	ポイントを意識して読み聞かせの練習をする。		
	第18回	内容	発表：英語の絵本読み聞かせ①	予習	発表の準備をする。		
				復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。		
	第19回	内容	発表：英語の絵本読み聞かせ②	予習	発表の準備をする。		
				復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。		
	第20回	内容	発表：英語の絵本読み聞かせ③	予習	発表の準備をする。		
				復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。		

第21回	内容	英語圏の11月の行事 子どものケガ	予習	子どものケガにどう対処すべきか考える。
			復習	ケガに関する表現を声に出して練習する。
第22回	内容	子どものケンカ：前半	予習	子どものケンカにどう対処すべきか考える。
			復習	ケンカに関する表現を声を出して練習する。
第23回	内容	子どものケンカ：後半	予習	子どものケンカにどう対処すべきか考える。
			復習	ケンカに関する表現を声に出して練習する。
第24回	内容	障害のある子	予習	「障害」「障がい」「障壁」について調べる。
			復習	障害に関する表現を声に出して練習する。
第25回	内容	英語圏の12月の行事 園外保育	予習	ユダヤ教とキリスト教について調べておく。
			復習	園外保育に関する表現を声に出して練習する。
第26回	内容	英語で冬のお便りを書く	予習	宛先を決め、住所を調べ、カードを用意する。
			復習	別の相手にも冬のお便りを書く
第27回	内容	英語圏の1・2月の行事 アメリカ手話（ASL）に挑戦しよう	予習	手話が各国で異なることについて調べておく。
			復習	授業で行ったアメリカ手話を練習する。。
第28回	内容	発表：英語のアクティビティ①	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第29回	内容	発表：英語のアクティビティ②	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第30回	内容	発表：英語のアクティビティ③	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。				
課題へのフィードバック	発表に対して講評する。 小テストについて解説を行い、リフレクション・ペーパーにコメントを付す。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない ※各回、ふり返りの小テストを実施する。 成績評価の方法：作品・発表（50％）授業態度【積極的参加】（50％）			
教科書	なし			
参考文献	配布プリントで、その都度紹介する。			
補足事項	毎回、A4サイズのプリントを配布する。30回分のプリントを収納できるよう、A4サイズのファイルを用意すること。発表の準備をすること。			

科目名	心理学入門	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いとう あきよし 伊藤 明芳
ナンバリングコード	PSY3111	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	本講義では、発達を中心に心理学の領域全般を概観し、心理学の基礎的知識の習得と将来の社会生活や職場で活かせる基本的な心理学の考え方の育成を図ることを目的とする。						
到達目標	1. 心理学の基礎的知識を正確に習得している。 2. 心理学的に社会の事象を考えられる。 3. 学んだ知識を自己の社会生活に活かすことができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1、4 ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	イントロダクション	予習	シラバスを読んでおく。		
				復習	講義の過程と内容を理解する。		
	第2回	内容	心理学とは何か	予習	心理学について調べる。		
				復習	心理学の概要を整理する。		
	第3回	内容	生理心理学	予習	生理心理学について調べる。		
				復習	特に脳と心の関係を整理する。		
	第4回	内容	人格心理学	予習	人格心理学について調べる。		
				復習	パーソナリティーの成り立ちを整理する。		
	第5回	内容	認知心理学	予習	認知心理学について調べる。		
				復習	心的過程を整理する。		
	第6回	内容	ディスカッション1(心の機能)	予習	各自の発表の観点を整理しておく。		
				復習	新たに得た知見をまとめる。		
	第7回	内容	発達心理学①(親子関係)	予習	親子の絆を考える。		
				復習	親子関係の理論を整理・理解する。		
	第8回	内容	発達心理学②(ライフサイクル)	予習	発達心理学について調べる。		
				復習	発達段階と発達課題について整理する。		
第9回	内容	学習心理学	予習	学習心理学について調べる。			
			復習	学習の形態を整理する。			
第10回	内容	ディスカッション2(心の発達)	予習	ディスカッション2(心の発達)			
			復習	新たに得た知見をまとめる。			
第11回	内容	臨床心理学①(心の基礎理論)	予習	臨床心理学について調べる。			
			復習	臨床心理学の考え方を整理する。			
第12回	内容	臨床心理学②(心理療法の考え方とその過程)	予習	心理療法について調べる。			
			復習	各心理療法の特徴を整理する。			
第13回	内容	社会心理学	予習	社会心理学について調べる。			
			復習	代表的な社会心理学の考え方を整理する。			
第14回	内容	ディスカッション③(心の理解と対応)	予習	各自の発表の観点を整理しておく。			
			復習	新たに得た知見をまとめる。			
第15回	内容	まとめと今後へのアドバイス	予習	これまで学んだことを振り返っておく。			
			復習	学んだことを今後に活かせるように心がける。			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	講義の中で発表やレポートについての講評をおこなっていく。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する 成績評価の方法：筆記試験（40%）、レポート・課題（60%）						
教科書	特に指定しない。						
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する						
補足事項	講義とディスカッションを中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、受講生と教員の双方向でのやり取りも活発におこないたい。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加し発言する態度が求められる。						

科目名	マンガ・イラスト表現	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いいだ こういちろう 飯田 耕一郎
ナバリンクコード	ART21101	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面・遠隔・その他( )						
授業の内容	マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。イラストもまた物語性を理解することによって創作の幅が広がるものと考えて大きな区別はありません。						
到達目標	1. 1絵を描くための基本を理解してキャラクターを描けるようになっている。 2. キャラクターの感情表現が出来るようになっている。 3. 人物に合わせて背景も描けるためのパースの基礎を理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 1 ) 文化表現学科( )						
授業計画	第1回	内容	【○と□を描こう】円と四角を描けることが基本の基本。	予習	シラバスを確認する。		
				復習	円と四角を描いてみる。		
	第2回	内容	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。	予習	シラバスを確認しておく。		
				復習	いろんな表情を描いてみる。		
	第3回	内容	【感情の表現を描こう】感情表現を理解する。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。		
				復習	感情の表現をあらためて描いてみる。		
	第4回	内容	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。		
				復習	喜怒哀楽の表情をあらためて描いてみる。		
	第5回	内容	【色んな顔の向きを描こう】色んな角度の顔を描けるようにする。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。		
				復習	色んな顔の向きのバリエーションを描いてみる。		
	第6回	内容	【自画像を描こう】対象をしっかりと描く。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。		
				復習	自画像の課題のバリエーションを描いてみる。		
	第7回	内容	【顔と表情を決める】顔を構築する。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。		
				復習	顔と表情を決める課題のバリエーションを描いてみる。		
	第8回	内容	【透視図法の基礎を学ぼう】パースを理解する。	予習	遠近のある物を描いてみる。		
			復習	透視図法の基礎のバリエーションを描いてみる。			
第9回	内容	【一点透視図法から二点透視図法】パースを理解する。	予習	遠近のある物を描いてみる。			
			復習	パースの課題のバリエーションを描いてみる。			
第10回	内容	【透視図法のまとめ】透視図法を再確認。	予習	遠近のある物を描いてみる。			
			復習	透視図法のバリエーションを描いてみる。			
第11回	内容	【人物と背景】人物と背景のイラストを完成させる。	予習	背景のイメージを固めておこう。			
			復習	人物と背景のバリエーションを描いてみる。			
第12回	内容	【全身で感情表現してみよう】感情と動きを全身で描く。	予習	全身の動きを描いてみる。			
			復習	全身で感情表現の課題のバリエーションを描いてみる。			
第13回	内容	【シワの描き方を学ぼう】シワの描き方を理解する。	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。			
			復習	シワの描き方の課題のバリエーションを描いてみる。			
第14回	内容	【私の部屋を描こう】人物と背景を合わせて書く練習課題となります	予習	課題を元にイメージスケッチしてみる。			
			復習	私の部屋を描いてみる。			
第15回	内容	【私の部屋を描こう】人物と背景を合わせて書く練習課題となります	予習	課題を完成させる。			
			復習	私の部屋の課題のバリエーションを描いてみる。			
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題作品にたいしてのアドバイスによる修正点、上達ポイントを指摘することでより向上を目指します。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/ (○)しない 成績評価の方法：筆記試験(0%)、レポート・課題(30%)、作品・発表(20%)、実技(30%)、授業態度【集中力・居眠り】(20%)						
教科書	なし						
参考文献	なし						
補足事項							

科目名	日本語表現		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	はまな なな 浜名 那奈
ナバリングコード	EDU21103		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもがことばの発達とともに日本語を獲得していくとき、保育者はそのよき手本でありたい。この授業では、保育者に必要な日本語表現を習得するとともに、発表を通じて、ことばで伝える力を磨く。また、子どもたちにことばのもつ面白さ、魅力を伝えられるよう、優れた日本語表現を味わい、ことば遊びを楽しむ。							
到達目標	1. ことばでわかりやすく伝える技術を習得している。 2. 保育者として必要な漢字、熟語等の語彙を習得している。 3. 優れた日本語表現を味わう鑑賞力を身につけている。 4. 緊張していても人前で発表できる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1,2,3,4 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	発表：子どもに覚えてもらうための自己紹介	予習	シラバスを読んでおく。			
				復習	授業で紹介した方法での自己紹介を考える。			
	第2回	内容	詩を鑑賞する	予習	詩が好きか嫌いか、理由も含めて考える。			
				復習	詩の朗読の練習をする。			
	第3回	内容	実践敬語①書く	予習	敬語について調べる。			
				復習	正しい敬語の書き方を覚える。			
	第4回	内容	実践敬語②話す	予習	正しい敬語の話し方を調べる。			
				復習	正しい敬語の話し方を覚える。			
	第5回	内容	間違えやすい表記・熟語・漢字	予習	間違えやすい表記・熟語・漢字を調べる。			
				復習	正しい表記、熟語、漢字の書き方を覚える。			
	第6回	内容	ことば遊び	予習	日本語のことば遊びについて調べる。			
				復習	ことば遊びの作品を作ってみる。			
	第7回	内容	なぜなぞとクイズ	予習	なぜなぞとクイズの違いを調べる。			
				復習	なぜなぞとクイズを作ってみる。			
	第8回	内容	文章を書くときのポイント	予習	文章を書くときの留意点を考えてみる。			
				復習	ポイントを意識して文章を書く。			
第9回	内容	連絡帳を書く	予習	連絡帳の書き方について調べる。				
			復習	連絡帳を書く練習をする。				
第10回	内容	発表：子どもに文字を教える	予習	文字の教え方について調べる。				
			復習	文字を教える練習をする。				
第11回	内容	子どもの質問に答える	予習	子どもの質問の答え方について調べる。				
			復習	子どもの質問に答える練習をする。				
第12回	内容	発表：好きなものを伝える①：課題テーマ	予習	発表の準備をする。				
			復習	発表のふり返りをする。				
第13回	内容	発表：好きなものを伝える②：課題テーマ	予習	発表の準備をする。				
			復習	発表のふり返りをする。				
第14回	内容	手紙を書く	予習	宛先を決め、住所を調べ、内容を考える。				
			復習	別の相手にも手紙を書く。				
第15回	内容	発表：好きなものを伝える③：自由テーマ	予習	発表の準備をする。				
			復習	発表のふり返りをする。				
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストの解説を行い、リフレクション・ペーパーにコメントを付す。 発表に対する講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 作品・発表（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）							
教科書	なし							
参考文献	配布プリントで、その都度紹介する。							
補足事項	発表の回以外は、授業内で小テストやミニ発表を行う。発表は緊張して当然なので、この授業で場数を踏んで少しずつ慣れていってほしい。 毎回プリントを配布するので、収納用にA4サイズのファイルを用意すること。							

科目名	データサイエンス		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
カンパリコード	STS21101		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面 ・ <u>遠隔</u> ・ その他 ( )							
授業の内容	本授業では、教科書を通してデータサイエンスの基本を学習するとともに、パソコンの表計算ソフトウェアを使用して実データ（学外事業者が公開提供している集計データなど）の数値処理業務の一端を模擬的に体験し、情報リテラシー（情報倫理や情報セキュリティなどを前提とする、業務上の判断能力）の在りかたを具体的に考察する。 この授業は各年度一年生（学科不問）向けの選択科目として開講されるが、在学生（二年生以上／学科不問）も履修することができる。							
到達目標	1. テキスト読解やデータ処理演習を通して、データが内包する様々な情報の意味を理解している。 2. パソコンを積極的に活用する作業について、その利便性や問題点を理解している。 3. 今後の社会に必要とされる基本的な数理的思考や、データの分析・活用ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科 ( ) 地域保育学科 ( 2, 3, 5 ) 文化表現学科 ( )							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス：ようこそデータサイエンスへ	予習	シラバスを読み、授業全体の流れを把握する。			
				復習	教科書第1章の内容を再度精読して理解し、授業全体の学習に向けた心構えを行う。			
	第2回	内容	AIにサポートされる社会	予習	教科書第2章を通読する。			
				復習	教科書第2章の内容を再度精読し理解する。			
	第3回	内容	情報をめぐる世の中の潮流	予習	教科書第3章を通読する。			
				復習	教科書第3章の内容を再度精読し理解する。			
	第4回	内容	広がるデータ活用の幅	予習	教科書第4章を通読する。			
				復習	教科書第4章の内容を再度精読し理解する。			
	第5回	内容	AI開発の歴史といま	予習	教科書第5章を通読する。			
				復習	教科書第5章の内容を再度精読し理解する。			
	第6回	内容	情報倫理とセキュリティ	予習	教科書第6章を通読する。			
				復習	教科書第6章の内容を再度精読し理解する。			
	第7回	内容	データの種類とその活用	予習	教科書第7章を通読する。			
				復習	教科書第7章の内容を再度精読し理解する。			
	第8回	内容	データリテラシー (パソコンを用いた数値処理演習①)	予習	教科書第8章を通読する。			
				復習	教科書第8章の内容を再度精読し理解する。			
第9回	内容	データの収集と視覚化 (パソコンを用いた数値処理演習②)	予習	教科書第9章を通読する。				
			復習	教科書第9章の内容を再度精読し理解する。				
第10回	内容	データの解析方法 (パソコンを用いた数値処理演習③)	予習	教科書第10章を通読する。				
			復習	教科書第10章の内容を再度精読し理解する。				
第11回	内容	情報の利活用と方法	予習	教科書第11章を通読する。				
			復習	教科書第11章の内容を再度精読し理解する。				
第12回	内容	AIによる生活のアップデート	予習	教科書第12章を通読する。				
			復習	教科書第12章の内容を再度精読し理解する。				
第13回	内容	AIによる社会のアップデート	予習	教科書第13章を通読する。				
			復習	教科書第13章の内容を再度精読し理解する。				
第14回	内容	秩序あるデータの重要性	予習	教科書第14章を通読する。				
			復習	教科書第14章の内容を再度精読し理解する。				
第15回	内容	全体のまとめ：これからの学びに向けて	予習	教科書第15章を通読する。				
			復習	教科書第15章の内容を再度精読して理解し、情報リテラシーに関する今後の学びに備える。				
予習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業開講期間中、授業内容に関するリアクションペーパーを作成し提出する。 授業開講期間中、実在の集計データに対する統計処理を行い、その処理結果から得られる解釈・考察の内容をレポート化する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施 ( ) する / ( ○ ) しない 成績評価の方法： レポート・課題 (75%)、授業態度【積極的参加】(25%)							
教科書	『大学基礎 データサイエンス』(伊藤 大河ほか、実教出版株式会社)							
参考文献	『やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書』(羽山 博、株式会社インプレス刊)							
補足事項	1. この授業は新入生向けの授業であるが、履修計画に余裕のある在学生も受講することができる（実習期間中の授業の開講については、別途指示する）。 2. 本授業で取り上げる数値処理演習では、Microsoft Excelの標準搭載機能を利用する。 3. 上記「授業計画」の内容は、授業の実際の進行具合などに応じて、適宜変更されることがある。 4. 担当教員の業務都合などの理由により授業の開講日時が変更される場合、教務課掲示板等にて通知する。							

科目名	SDGs 入門		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	ほしの おさむ 星野 治他
ナバリングコード*	SES21101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	この授業は、所属学科を問わず、誰でも履修することができる。 SDGs (Sustainable Development Goals/日本語訳「持続可能な開発目標」)の具体的な内容の学習を通して、日本および世界の現状を知るとともに、社会の一員としての自己啓発意識を育てる。この授業では全17個ある目標のうち、特に本学の学生に必要な14個の目標について学ぶ。							
到達目標	1. SDGsの提唱意義および内容を理解している。 2. SDGsへの理解を通して、日本および世界の現状を見抜く洞察力を習得している。 3. SDGsの学習を通して、社会人としての自覚を持ち、社会への貢献に係る考察力を身に付けている。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 2,3,5 ) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	総論(授業の進め方、MDGsからSDGへ、SDGs制定の歴史的背景、MDGsとSDGsの相違、その他)[北野・星野]	予習	シラバスに目を通しておく。	復習	授業の目的を理解する。	
	第2回	内容	目標1:あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる[加賀谷]	予習	SDGsの「目標1」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第3回	内容	目標2:飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する[橋本]	予習	SDGsの「目標2」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第4回	内容	目標3:あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する[関]	予習	SDGsの「目標3」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第5回	内容	目標4:すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する[伊澤]	予習	SDGsの「目標4」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第6回	内容	目標5:ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る[信田]	予習	SDGsの「目標5」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第7回	内容	目標6:すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する[北野]	予習	SDGsの「目標6」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第8回	内容	目標7:すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する[北野]	予習	SDGsの「目標7」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
				復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。			
	第9回	内容	目標8:すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する[信田]	予習	SDGsの「目標8」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。	
復習				配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第10回	内容	目標11:都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする[河崎]	予習	SDGsの「目標11」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第11回	内容	目標12:持続可能な消費と生産のパターンを確保する[北野]	予習	SDGsの「目標12」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第12回	内容	目標13:気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る[北野]	予習	SDGsの「目標13」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第13回	内容	目標14:海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する[中村]	予習	SDGsの「目標14」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第14回	内容	目標15:陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物の多様性損失の阻止を図る[中村]	予習	SDGsの「目標15」について概要を把握する。	復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
第15回	内容	目標16:持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある法相的な制度を構築する[鈴木] 総括(全体のまとめ、その他)[北野・星野]	予習	SDGsの「目標16」について概要を把握する。	復習	これまでの全配布資料などを通して授業全体を理解するとともに、今後の履修者自身のSDGsへの貢献について考察する。		
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。				
予習に要する学習時間:概ね60分を目安とする。 復習に要する学習時間:概ね120分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎回の授業におけるリアクションペーパー等の記述および提出(詳細は各回の担当教員が指示する)を通して、SDGs全般への理解を深める。							

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）
教科書	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
補足事項	この授業は新入生向けの授業であるが、履修計画に余裕のある在生も受講することができる。 この授業は、複数の教員が共同担当するオムニバス形式の対面授業である。取り扱うテーマごとに、担当教員は異なる。 2024（令和6）年度開講分の担当教員[授業担当コマ数]は、次のとおりである（担当順。各教員の担当授業回は「授業計画」欄を参照）。 北野大[6]、加賀谷崇文[1]、橋本洋子[1]、関維子[1]、伊澤永修[1]、信田理奈[2]、河崎由美子[1]、中村陽一[2]、鈴木みなみ[1]、星野治[2] 教員によっては、リアクションペーパーとは別に、追加の課題を出題することがある（詳細は、各授業の担当教員の指示に従うこと）。

科目名	保育原理 I		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	EDU22105		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	<p>本講義では、主に次のような内容を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を学ぶ。</li> <li>2. 『保育所保育指針』・『幼稚園教育要領』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を踏まえて、生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や保育の計画といった保育の基本的な考え方を学ぶ。</li> <li>3. 保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考える。</li> </ol>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の制度や現状、保育の思想や歴史について学び、保育の意義を理解している。</li> <li>2. 生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や環境構成といった保育の基本的な考え方を理解している。</li> <li>3. 子どもの育ちにかかわる保護者・保育者にとっての保育の意義を理解している。</li> <li>4. 保育・子育てに関する現状や課題を理解し、今日的な課題について考える事ができる。</li> </ol>							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1, 2, 3, 4, 5） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション/子ども観	予習	教科書の全体に目を通す			
				復習	幼稚園教育要領や家庭の役割を考える			
	第2回	内容	保育と家庭福祉	予習	気になる社会問題を挙げ、理由を述べる			
				復習	子どもの育ちと家庭との関係を考える			
	第3回	内容	保育の社会的役割と責任	予習	身近な法律を考える			
				復習	社会的責任の観点からの保育の重要性を考える			
	第4回	内容	保育に関する法令及び制度（1）	予習	ガイドライン、法令とは何か調べる			
				復習	保育のあるべき姿と法令の必要性を考える			
	第5回	内容	保育に関する法令及び制度（2）	予習	保育とは何か考える			
				復習	現場で必要となる法令を考える			
	第6回	内容	法令からみる保育の意義及び目的	予習	保育士として大切にしたい保育内容を説明する			
				復習	法令を踏まえた保育の意義及び目的を考える			
	第7回	内容	保育の内容	予習	子どもが遊べる条件を考える			
				復習	5領域ごとの具体的なあそびを提示する			
	第8回	内容	保育の方法及び形態	予習	あそびが豊かになる環境について考える			
				復習	4つの保育形態の長短所をまとめる			
第9回	内容	保育の環境	予習	子どもを理解するとはどういうことか考える				
			復習	子どもにとっての環境について考える				
第10回	内容	子どもの理解に基づく保育の過程	予習	子どもを理解するとはどういうことか考える				
			復習	子どもの発達を踏まえるとは何かをまとめる				
第11回	内容	保育の思想と歴史の変遷（1）諸外国編	予習	海外の保育を調べる				
			復習	具体的なあそびの提供を考える				
第12回	内容	保育の思想と歴史の変遷（2）日本編	予習	日本の保育に影響した人についてまとめる				
			復習	諸外国の保育の日本の保育への影響をまとめる				
第13回	内容	保育の現状と課題	予習	保育観をまとめる				
			復習	「保育の現状と課題」をまとめる				
第14回	内容	文献からの学び（グループワーク・討議・発表）	予習	参考文献を探し、読んでくる				
			復習	参考文献をまとめる				
第15回	内容	保育者に求められるもの、まとめ	予習	これまでの内容を整理する				
			復習	学んだ内容を整理する				
	予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題や小テストのフィードバックを行う							
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない</p> <p>成績評価の方法： 小テスト（ 50%）、レポート・課題（ 50%）</p>							
教科書	『保育原理』（小田豊・神津美津子・箕輪潤子編著）光全館							
参考文献	『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）、『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府、フレーベル館）							
補足事項	課題については授業内のものもあることから、出席を要する							

科目名	保育原理Ⅱ		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナバリングコード	EDU22106		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他( )							
授業の内容	保育原理Ⅰでの学びを踏まえ、以下の内容をさらに深める。 1. 現代における子どもや保護者を取り巻く現状及び課題 2. 「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」を踏まえた保育の基本 3. 保育の思想と歴史							
到達目標	1. 「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」を踏まえた保育の実践、内容や方法を理解している 2. 保育の様々な現状や課題について学ぶ姿勢を身に付けている 3. 子どもを理解する姿勢を身に付けている 4. 保育の思想と歴史についての基礎知識を身に付けている							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(1・2・3・4・5) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	保育の意義と目的：人間発達の特質と子育て	予習	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」を読む			
				復習	「発達をふまえる」ことについてまとめる			
	第2回	内容	保育の理念と概念：初期体験の重要性	予習	「保育の理念」について考える			
				復習	「保育」とは何か考えをまとめる			
	第3回	内容	子どもの最善の利益と保育	予習	「子どもの最善の利益」とは何か考える			
				復習	子どもの理解に必要な能力をまとめる			
	第4回	内容	家庭の役割と保育の役割	予習	家庭の役割を考える			
				復習	家庭での体験についてまとめる			
	第5回	内容	「保育所保育指針」における発達と運動(1)	予習	健康と運動の関係を考える			
				復習	子どもの体力の特徴を踏まえた遊びを考える			
	第6回	内容	「保育所保育指針」における発達と運動(2)	予習	運動の効果について調べる			
				復習	戸外遊び・戸外運動の方法を考える			
	第7回	内容	「保育所保育指針」における保育の基本： 基本的な生活習慣の育成(1)	予習	0歳1歳の発達の姿を調べる			
				復習	基本的な生活習慣の重要性をまとめる			
	第8回	内容	「認定こども園教育・保育要領」における保育の基本： 基本的な生活習慣の形成(2)	予習	2・3・4歳児の発達の姿を調べる			
				復習	基本的な生活習慣の自立とは何かをまとめる			
第9回	内容	「幼稚園教育要領」における保育の基本： 基本的な生活習慣の形成(3)	予習	5歳児・就学前後の発達の姿を調べる				
			復習	子どもの主体的な生活についてまとめる				
第10回	内容	育てにくさ・軽度発達障害的傾向をもつ子どもや保護者の理解(1)	予習	育てにくさの事例を調べる				
			復習	軽度発達障害的傾向の子どもの家庭支援を考える				
第11回	内容	育てにくさ・軽度発達障害的傾向をもつ子どもや保護者の理解(2)	予習	育てにくさの症状を調べる				
			復習	早期発見・早期療育の有効性をまとめる				
第12回	内容	子どもの理解：計画・実践・評価・改善の循環 (グループワーク・討議・発表)	予習	保育の質とは何かを考える				
			復習	自己評価表を作成する				
第13回	内容	保育の思想と歴史から学ぶ現状と課題(1) (グループワーク・討議・発表)	予習	日本の保育思想史を調べる				
			復習	日本の保育の現状と課題をまとめる				
第14回	内容	保育の思想と歴史から学ぶ現状と課題(2) (グループワーク・討議・発表)	予習	海外の保育思想史を調べる				
			復習	海外の保育で参考になる点をまとめる				
第15回	内容	まとめ	予習	本授業のまとめをする				
			復習	本授業の学びを振り返る				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎授業に課題をかし、次回の授業に返却し、解説をする							
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する／(○)しない 成績評価の方法：筆記試験(10%)、レポート・課題(90%)、作品・発表( )%、実技( )%、授業態度【 】( )%							
教科書								

参考文献	『こころがめばえるとき』(明和政子,NTT出版)『幼児心理学幼児心理学』(内田伸子、サイエンス社)『やさしく学ぶ保育の心理学』(浜崎隆司他、中西や出版)
補足事項	毎回の授業に課題提出を求めることから出席は必須である

科目名	教育原理		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナバリングコード	EDU22104		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	本授業では、「教育」の根源的な性質を理解することから始める。そのうえで、教育に対する考え方の歴史的变化、及び学校教育の制度化を学んでいく。これにより今日的な教育課題へと視野を広げ、子どもをとりまく現状を見つめ、自己の教育観を深めていく。							
到達目標	1. 人間の教育における諸要素を理解している。 2. 子どもの教育における歴史的・制度的な変遷を理解している。 3. 現代の日本社会の教育問題について意識を向けている。 4. これまで受けてきた教育経験を教育学の基礎的な諸概念を用いて説明することができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	「教育」とは何か	予習	シラバスを読み、授業計画を把握する			
				復習	授業の評価方法や注意事項を確認する			
	第2回	内容	教育の目的①：西欧の教育思想史	予習	海外の教育者を1人選び、調べる			
				復習	調べた教育者のどの点を取り入れるべきかまとめる			
	第3回	内容	教育の目的②：日本の教育思想史	予習	日本の教育者を1人選び、調べる			
				復習	調べた教育者のどの点を取り入れるべきかまとめる			
	第4回	内容	教育の目的③：西欧の近代学校教育制度の成立と展開	予習	日本の教育者を一人選び調べる			
				復習	西欧の近代の教育者を一人あげ実践をまとめる			
	第5回	内容	教育の歴史①：日本の近代学校教育制度の成立と展開	予習	教科書「学校とは何か（1）」を読む			
				復習	日本の近代学校教育制度の変遷をまとめる			
	第6回	内容	教育の歴史②：日本の教育思想史（1）	予習	就学全教育とは何かまとめる			
				復習	学校の成立を踏まえ、寺子屋や私塾の役割をまとめる			
	第7回	内容	教育の歴史③：日本の教育思想史（2）	予習	教科書「教師とは何か」を読みまとめる			
				復習	日本の就学全教育の在り方を考える			
	第8回	内容	教育と社会①：教育における家庭と社会の役割	予習	教科書「社会居育」を読みまとめる			
復習				現代における子育て家庭をめぐる問題をまとめる				
第9回	内容	教育と社会②：地域教育と支援	予習	教科書「心と体を育てる」を読む				
			復習	地域における子育て支援の役割をまとめる				
第10回	内容	教育の理念①：心と体を育てる	予習	認知の重要性をまとめる				
			復習	教科書「心と体を育てる」をまとめる				
第11回	内容	教育の理念②：心と体を育てる（0歳児支援）	予習	教科書「教育における文化と言葉」を読む				
			復習	教科書「教育における文化と言葉」をまとめる				
第12回	内容	教育の理念③：心と体を育てる（1歳児支援）	予習	1歳児の援助をまとめる				
			復習	1歳児の感覚遊びをまとめる				
第13回	内容	教育の理念④：心と体を育てる（2・3歳児支援）	予習	2・3歳児の援助をまとめる				
			復習	2・3歳児のごっこ遊びの大切さをまとめる				
第14回	内容	教育の理念④：心と体を育てる（4・5歳児支援）	予習	認知発達援助のポイントをまとめる				
			復習	認知発達の具体的支援をまとめる				
第15回	内容	保育・教育の専門家資質 (グループワーク・討議・発表) 全体のまとめ	予習	教育とは何かまとめる				
			復習	自分の考えをまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内課題はコメントをつけて返却する							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：小テスト（40%）、レポート・課題（60%）							
教科書	『やさしい教育原理』（田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二、2021、有斐閣アルマ）							
参考文献								
補足事項	・授業毎に課題を提出すること。 ・返却した課題はファイルにまとめて保管しておくこと。							

科目名	子ども家庭福祉		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22203		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や子ども家庭福祉の歴史の変遷、理念や意義について学ぶ。子どもの人権擁護についてや制度や実施体系等について理解する。子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。							
到達目標	1. 専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題を理解している。 2. 相談援助活動や家族支援のための施策等について理解している。 3. 児童福祉関係法とサービス体系の供給を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1・4 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	現代社会と子ども家庭	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	子どもの育ち、子育てのニーズ	予習	教科書「現代児童福祉」章の前半を読んでおく			
				復習	プリントを中心に現代児童福祉をまとめる			
	第3回	内容	子ども家庭福祉とは何か	予習	教科書「現代児童福祉」章の後半を読んでおく			
				復習	プリントを中心に子どもの環境内容をまとめる			
	第4回	内容	子どもと家庭の権利保障	予習	教科書「子どもの権利擁護」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に子どもの権利擁護をまとめる			
	第5回	内容	子ども家庭福祉にかかわる法制度	予習	教科書「児童福祉法体系」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に児童福祉法体系をまとめる			
	第6回	内容	子ども家庭福祉の実施体制	予習	教科書「実施体系」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に実施体系についてまとめる			
	第7回	内容	子ども家庭福祉の専門職	予習	教科書「専門職」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に専門職についてまとめる			
	第8回	内容	子ども家庭にかかわる福祉・保健	予習	教科書「母子保健」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に内容をまとめる			
第9回	内容	児童健全育成	予習	教科書「健全育成」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に母子保健についてまとめる				
第10回	内容	ひとり親家庭の福祉	予習	教科書「子育て家庭支援」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に子育て家庭支援をまとめる				
第11回	内容	児童虐待対策	予習	教科書「要保護児童支援」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に要保護児童についてまとめる				
第12回	内容	非行児童・情緒障害児への支援	予習	教科書「少年非行」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に非行少年についてまとめる				
第13回	内容	子どもと家庭にかかわる女性福祉	予習	教科書「保育サービス」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に保育サービスについてまとめる				
第14回	内容	子ども家庭への援助活動	予習	教科書「連携支援」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に連携支援についてまとめる				
第15回	内容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する				
			復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。							
教科書	『新版子育てとケアの原理』（高橋貴志監修、望月雅和編著、北樹出版）、『保育・教育ネオシリーズ[6] 子ども家庭福祉の新展開 第二版』（岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹 監修・才村純・加藤仁 編著、同文書院）							
参考文献	なし							
補足事項	なし							

科目名	社会福祉		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22102		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。さらに、社会福祉における子ども家庭支援の視点についても理解する。							
到達目標	1. 福祉政策を理解している。 2. 現代における福祉課題を理解している。 3. 社会の変化について理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1・4 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	社会福祉の新たな展開	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	福祉政策理解の枠組み	予習	自身の生活と福祉のつながりを考えてくる			
				復習	現代生活と福祉の関係を理解する			
	第3回	内容	社会の変化と福祉	予習	教科書「生活と社会福祉」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に現代社会の変化をまとめる			
	第4回	内容	福祉と福祉政策	予習	教科書「生活保護」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に福祉政策についてまとめる			
	第5回	内容	福祉の思想と哲学	予習	教科書「社会福祉の歴史」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に福祉思想についてまとめる			
	第6回	内容	社会政策と福祉政策	予習	教科書「社会福祉の法律」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に福祉関連法をまとめる			
	第7回	内容	福祉政策の民間活動	予習	教科書「民間活動」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に民間活動についてまとめる			
	第8回	内容	保育と社会福祉	予習	教科書「保育と社会福祉」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に保育と福祉についてまとめる			
第9回	内容	福祉政策における必要と資源	予習	教科書「利用者保護」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に社会資源についてまとめる				
第10回	内容	障がい者福祉	予習	教科書「障がい者福祉」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に障がい者福祉の内容をまとめる				
第11回	内容	福祉政策の関連領域	予習	教科書「社会福祉従事者」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に福祉従事者についてまとめる				
第12回	内容	社会福祉制度の体系	予習	教科書「行政組織」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に福祉制度内容をまとめる				
第13回	内容	児童家庭福祉	予習	教科書「児童家庭福祉」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に児童家庭福祉の内容をまとめる				
第14回	内容	福祉教育	予習	教科書「福祉教育」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に福祉教育についてまとめる				
第15回	内容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する				
			復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る				
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう							
教科書	『社会福祉の基本体系 第5版』（井村圭壯編著、勁草書房）							
参考文献	なし							
補足事項	なし							

科目名	子ども家庭支援論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いしかわ まどか 石川 円
ナンバリングコード	SWS22103		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	本講義では、保育士による子ども家庭支援の基本について学ぶ。子育て家庭の状況やニーズを理解し、その状況やニーズに応じた支援の展開や保育士の行う相談や支援の意義、役割について学んでいく。グループワークを取り入れて、意見交換や考察を行う。							
到達目標	1. 家族の意義と役割について理解している 2. 家族の諸相と社会状況の変化について理解している 3. 子育て支援体制の変遷と多様化について理解している 4. 保育士や幼稚園教諭による家庭支援の意義と内容について理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1, 2, 4） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	子ども家庭支援の意義と役割 グループワークを行う	予習	現代家族の特徴をまとめておく	復習	GWで出した意見について考える	
	第2回	内容	子育て家庭を支える社会資源① ワークシートの作成	予習	子育て家庭に関する法律を調べる	復習	法整備の変遷についてまとめる	
	第3回	内容	子育て家庭を支える社会資源② ワークシートの作成	予習	子どもに関する専門職を調べる	復習	興味のある専門職をテーマとする漫画を探す	
	第4回	内容	子育て支援策の変遷 グループワークを行う	予習	あなたの幼少期の子育て支援策について調べる	復習	予習の内容と現行の支援策との違いをまとめる	
	第5回	内容	保育士による子ども家庭支援 グループワークを行う	予習	実習で得た知見をまとめる	復習	GWで出した意見について考える	
	第6回	内容	子ども家庭支援とソーシャルワーク① グループワークを行う	予習	ソーシャルワーカーについて調べる	復習	GWで出した意見について考える	
	第7回	内容	子ども家庭支援とソーシャルワーク② 個人でワークシートの作成	予習	ジェノグラムやエコマップの書き方の確認	復習	課題の作成	
	第8回	内容	子ども家庭支援の展開 グループワークを行う	予習	子育て支援が必要な家庭についてイメージする	復習	GWで出した意見について考える	
	第9回	内容	保育所などを利用する家庭への支援 自宅近くで行われている支援を調べる	予習	実習で見た子ども家庭支援をまとめる	復習	自宅付近の保育所の掲示板を見に行く	
	第10回	内容	関係機関・専門職との連携 グループワークを行う	予習	授業で扱う事例を読んでおく	復習	GWで出した意見について考える	
	第11回	内容	多様な支援を必要とする子育て家庭への支援① グループワークを行う	予習	社会的養護について復習しておく	復習	GWで出した意見について考える	
	第12回	内容	多様な支援を必要とする子育て家庭への支援② グループワークを行う	予習	あなたの好きな外国の文化について調べる	復習	GWで出した意見について考える	
	第13回	内容	事例の分析① グループワークを行う	予習	授業で扱う事例を読んでおく	復習	GWで出した意見について考える	
	第14回	内容	事例の分析② グループワークを行う	予習	授業で扱う事例を読んでおく	復習	GWで出した意見について考える	
	第15回	内容	これからの子育て支援	予習	現行の子育て支援について復習する	復習	授業で学んだことをまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	毎回ワークシートを回収したうえで、翌週の講義時間内にフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（70%）、授業態度【グループワークへの積極的な参加】（30%）							
教科書	使用しない							
参考文献	「そだちあい」のための子ども家庭支援（吉村美由紀他編著、ミネルヴァ書房、2022年）							
補足事項	配布資料はファイリングして持参すること。							

科目名	社会的養護 I		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	まんどろ あきお 萬燈 章雄
ナンバリングコード	SWS22101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。課題を抱えながら生活する子どもたちに、本来もつ権利を守りながら保育士としてどのように関わり、支援していくのかを学習する。							
到達目標	1. 社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解している。 2. 「子どもの最善の利益」とは何かを知り、支援者がどのようなスタンスで望めばよいのかを習得している。 3. 社会的養護に携わる保育士の倫理と責務について身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 1・4 ) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション～事例提供 社会的養護に携わる支援者のあり方	予習	シラバスに目を通すこと	復習	支援者の基本的スタンスについて理解する	
	第2回	内容	子ども観の変遷と社会的養護の歴史について	予習	子ども観とは何かについて調べる	復習	社会的養護の歴史についてまとめる	
	第3回	内容	社会的養護の仕組み 児童相談所と「措置」制度について	予習	措置制度について調べる	復習	児童相談所の機能と役割についてまとめる	
	第4回	内容	児童福祉施設について 児童福祉法で定める施設の概要について	予習	児童福祉施設の根拠規定について調べる	復習	児童福祉施設の種類についてまとめる	
	第5回	内容	里親制度・親権と養子縁組について	予習	里親制度について調べる	復習	里親や養子縁組制度についてまとめる	
	第6回	内容	児童虐待と社会的養護 虐待の現状と子どもの気持ちについて	予習	虐待による重大事件について調べてみる	復習	被虐待児の気持ちについて考えてみる	
	第7回	内容	社会的養護の概念及び仕組みについて 中間まとめ 理解度チェック	予習	これまでの内容について復習する	復習	具体的な課題について整理する	
	第8回	内容	アタッチメントについて考えよう 「子どもの安全基地」とは	予習	ジョン・ボウルビイについて調べる	復習	「心の安全基地」についてまとめる	
	第9回	内容	施設養護と家庭養護 「施設の小規模化」について	予習	施設の小規模化について調べる	復習	小規模化の特徴についてまとめる	
	第10回	内容	ジェノグラム・エコマップについて 記録の書き方・情報の整理など	予習	ジェノグラムについて調べる	復習	「情報共有」についてまとめてみる	
	第11回	内容	社会的養護実践のための専門的技術について 社会的養護に関わる専門職について	予習	施設の生活について調べておく	復習	専門的な技術について概要をまとめる	
	第12回	内容	情報の整理と共有について 事例を情報整理してみんなで共有してみよう	予習	記録作成の意義について考えてみよう	復習	「情報の共有」についてまとめてみる	
	第13回	内容	真実告知と里親養育について 里親養育体験談を読んで	予習	ライフストーリーワークについて調べる	復習	里親委託プロセスについてまとめる	
	第14回	内容	「子どもの最善の利益」と権利擁護 子どもの権利条約批准とその後について	予習	アドボケートについて調べる	復習	子どもの権利擁護についてまとめる	
	第15回	内容	今後の社会的養護の方向性について 最終まとめ 理解度チェックとレポート	予習	これまでの内容について今一度復習する	復習	具体的な課題について整理する	
	予習に要する学習時間：概ね 60分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね120分を目安とする。							
課題へのフィードバック	作成したレポート、事例整理、中間まとめチェックについてはコメントをつけて原則各自に返却します。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/ (○)しない 成績評価の方法： レポート・課題 (60%)、授業態度【積極性】(40%)							
教科書	なし							
参考文献	「社会的養護 I」 相澤 仁・林浩康 編集 中央法規；その他必要に応じて紹介します。							
補足事項	授業をとおりて子どもの命・生活・権利を守る支援者の基本的スタンスを学んで欲しい。 受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。							

科目名	社会的養護Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	まんどろ あきお 萬燈 章雄
ナンバリングコード	SWS22201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。							
到達目標	1. アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 2. 様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 3. より困難な場面でも、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 2・4 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション～ 演習1 ある施設に就職した友人の愚痴	予習	シラバスに目を通しておくこと	復習	事例検討の方法についてまとめる	
	第2回	内容	演習2 障害児と母親の気持ち（在宅・ショートステイ） 「障害受容」についての考察	予習	障害児者施設体系について調べる	復習	障害受容についてまとめる	
	第3回	内容	演習3 障害児の処遇事例（学校・学童） 本人のこだわりと周囲のストレス。折り合いの付け方など	予習	障害者の権利条約について調べる	復習	障害児の自立支援についてまとめる	
	第4回	内容	演習4 被虐待児への支援について（保育所・幼稚園） 愛着に問題がある子への処遇について	予習	虐待のサインについて調べる	復習	愛着障害についてまとめる	
	第5回	内容	演習5 乳児院の生活と措置変更（乳児院） 乳児院での処遇において大切なものは	予習	社会的養護に必要な施設について調べる	復習	「措置変更」についてまとめる	
	第6回	内容	演習6 日常生活支援（児童養護施設） 入所支援。アドミッションケアについて	予習	「親子分離」について調べる	復習	施設入所時の子ども支援についてまとめる	
	第7回	内容	演習7 日常生活支援（児童養護施設） インケアについて（ルールと日課）	予習	様々な施設の日課について調べてみる	復習	ルールと日課のあり方についてまとめてみる	
	第8回	内容	演習8 日常生活支援（児童養護施設） インケアについて（愛着に課題のある子の処遇1）	予習	養護施設の入所事由について調べてみる	復習	被虐待児の気持ちについて理解する	
	第9回	内容	演習9 日常生活支援（児童養護施設） インケアについて（愛着に課題のある子の処遇2）	予習	愛着障害について調べる	復習	処遇困難な子への対処方法についてまとめる	
	第10回	内容	事例10 里親への委託（乳児院・里親） 里親委託と保育士の役割	予習	里親制度について今一度復習する	復習	里親委託のプロセスについてまとめる	
	第11回	内容	演習11 家族関係調整事例（児童養護施設）FSWの仕事 なかなか約束通りに面会にこない保護者事例	予習	ファミリーソーシャルワーカーについて調べる	復習	関係諸機関との連携についてまとめてみる	
	第12回	内容	演習12 自立支援計画について（児童養護施設）Ⅰ 事例の情報を整理する	予習	情報の共有について調べる	復習	事例についてアセスメントしてみる	
	第13回	内容	演習12 自立支援計画について（児童養護施設）Ⅱ 自立支援計画を作成する	予習	ケース事例について、課題を整理してみる	復習	自立支援計画についてまとめてみる	
	第14回	内容	ビデオ学習 施設からの自立支援について	予習	リビングケアについて調べる	復習	スタッフの支援内容について振り返る	
	第15回	内容	講義 まとめ 子どもの目線で対応することとは 子どもの権利擁護について	予習	子どもの権利条約について調べる	復習	子どもの権利擁護についてまとめてみる	
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	原則、事例ごとに全員課題についての意見など記載してレポートとして提出。簡単ですがコメントと評価をつけてできるだけ返却していくつもりです。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、作品・発表（20%）、授業態度【積極性】（30%）							
教科書	なし							
参考文献	「社会的養護Ⅱ」 相澤 仁・村井美紀・大竹 智編 中央法規 その他授業中に紹介します。							
補足事項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。なお、回答の正誤についてあまり問いません。							

科目名	保育者論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おがわ かつとし 小川 勝利
ナバリンコード	EDU22202		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	保育とは、我が国の社会を創り上げ、更には人類（以下、ホモサピエンス）のより良い存続を担っていく営みである。20万の歳月を引き継いできた私たちホモサピエンスの望ましい子どもの育ちを進化からひもとき、その特性を理解したうえで、保育者として好ましい人間像を追求する。なお、授業は5～6名前後のグループで毎回出題されるテーマについて、スマートフォンやタブレットを使って、WEBから情報を収集し、それをもとにグループディスカッション後、発表を行う。							
到達目標	1. 保育環境を構築する上で、子どものより良い育ちを考慮しながら自身の考えを他者に説明することができる。 2. 人類及びその子育ての特徴を理解し、迷える保護者に自ら考えをもって支援することができる。 3. 保育における連携と協同の重要性を知り、チームで保育を行い自身の考えを述べるすることができる。 4. 学ぶことを楽しいと思えるようになっている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1.2.3.4.5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	担当教員の自己紹介と本授業の趣旨を説明する。全ての授業においてグループワーク、発表を行うのでそのグループ分けを行う。	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	本授業の進め方及び習得すべきことを理解する。本授業に望む事柄をまとめる。			
	第2回	内容	「昭和の保育士と平成・令和の保育士の役割・職務内容の違い」について、グループで調査発表後、解説する。	予習	「昭和の保育士と平成・令和の保育士の役割・職務内容の違い」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「昭和の保育士と平成・令和の保育士の役割・職務内容の違い」について、自身の考えの変容をまとめる			
	第3回	内容	保育士の制度的位置づけ：児童福祉法における保育士の定義、保育士の資格・要件、欠格事由、信用失墜行為、秘密保持義務について、グループで調査発表後、解説する。更に、保育士の処遇改善について、手当を含め解説する。	予習	保育士の制度的位置づけについて、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「保育士の制度的位置づけ」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第4回	内容	「現代社会の問題」と「子どもたちの変化（若者の問題）」及びその解決のための保育のあり方について、グループで調査発表後、解説する。	予習	「現代社会の問題」と「子どもたちの変化（若者の問題）」及びその解決のための保育のあり方について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「現代社会の問題」と「子どもたちの変化（若者の問題）」及びその解決のための保育のあり方に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第5回	内容	「チンパンジーの子育て」に対比させ、「人類の子育ての特徴」を踏まえ、保護者支援を行う。「0歳から保育所に預けるのは赤ちゃんが可愛そう？」という疑問に対して、グループで調査発表後、解説する。	予習	「チンパンジーの子育て」に対比させ、「人類の子育ての特徴」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「人類の子育ての特徴」について、自身の考えの変容をまとめる			
	第6回	内容	「異年齢保育」「担任制保育」とは、どのような保育形態か？更に、人類の特性を踏まえて、あなたならどのような保育が人類の子育てに適合していると思うか、グループで調査発表後、解説する。	予習	「異年齢保育」「担任制保育」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「異年齢保育」「担任制保育」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第7回	内容	「子育てを放棄したい」と言って来たママに、あなたはどの向き合いますか？「現代のママたちは非常事態です」グループで調査発表後、解説する	予習	「子育てを放棄したい親」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「子育てを放棄したい親」に対する自身の考えの変容をまとめる			
	第8回	内容	「シナプスの刈り込み」とは何か？調査発表後、乳幼児期が大切な時期と言われる根拠を解説する。更に、子どものトラブル。保育士として、どのように解決するのが良いのだろうか？グループで調査発表後、解説する。	予習	「シナプスの刈り込み」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「シナプスの刈り込み」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第9回	内容	偏食の多い子どもたちに、保育所の給食は「定量配膳」か？「バイキング形式」か？栄養士との連携を考える。	予習	子どもの偏食と保育所の給食の在り方について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「保育所の給食在り方」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第10回	内容	資質向上に関する組織的取り組みを保育士としてどのようなものがあったら良いと思うか？グループで話し合い発表後、実在する取り組みを紹介する。 保育室にはアナログ時計？それともデジタル時計？	予習	「保育士の資質向上」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「保育士の資質向上」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第11回	内容	チームワークとは？ チーム保育と担任制保育の具体例をグループで調査発表後、解説する。	予習	チーム保育と担任制保育について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「チーム保育と担任制保育」に関する自身の考えの変容をまとめる			

	第12回	内容	保育所における組織の実態とリーダーシップ。リーダーに求められる素質とはどのようなものか？グループで調査発表後、解説する。	予習	リーダーに求められる素質について、自身の考えをまとめておく	
				復習	授業後のリーダーに求められる素質に関する自身の考えの変容をまとめる	
	第13回	内容	秋草学園保育者論学会と題し、興味を持っているテーマについて、パワーポイントにまとめ学会形式で発表後、質疑応答し、講評する。	予習	今までの授業の中で興味をもったテーマについて、発表できるようにパワーポイントで資料を作成しておく	
				復習	発表したチームの内容をまとめる	
	第14回	内容	秋草学園保育者論学会と題し、興味を持っているテーマについて、パワーポイントにまとめ学会形式で発表後、質疑応答し、講評する。	予習	今までの授業の中で興味をもったテーマについて、発表できるようにパワーポイントで資料を作成しておく	
				復習	発表したチームの内容をまとめる	
	第15回	内容	第13回、14回で発表できなかったチームが出た場合、その発表を行い、その後、教員から示されるテーマについて、自身の考えをまとめる。	予習	今までの授業で考察したテーマについて振り返り、自身の考えを記述できるようにしておく	
				復習	教員から示されたテーマについて、過去の授業を振り返りまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
	課題へのフィードバック	基本的に、授業時間内に解説する。				
	成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（80%）、作品・発表（20%）				
	教科書	2冊 『0・1・2歳の「保育」』（藤森平司、世界文化社）、『保育における「行事」』（藤森平司、世界文化社）				
参考文献	保育の起源 保育を巡る今日的論考 （藤森平司、世界文化社）					
補足事項						

科目名	福祉施設の現状		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	かたがい はるお 片貝 晴夫
ナンバリングコード	SWS22209		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	福祉施設の利用者は、時代状況を背景に社会的養護を必要としている子どもたちや障害を持った子どもたち（成人施設を含む）である。そこで、時代状況を理解しその利用者の理解を深め、施設でどのような生活をし、将来自立して生活を行うために保育士や職員はどのような支援を行っているのか、保育士の役割など事例を通して自立支援のあり方を理解する。さらに、課題を整理しながら実践の場で活用できるようにする。							
到達目標	1. 福祉施設に入所している子どもたちについて説明ができる。 2. 福祉施設の入所から退所までの流れを説明できる。 3. 各福祉施設の支援内容、職員としての支援について説明ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1.4.5） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	社会的養護が必要な子どもの現状及び福祉施設はどのような役割を担っているか	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で修得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	福祉施設の入所から退所までの手続きおよび措置機関である児童相談所等の役割	予習	措置について調べる			
				復習	子どもの人権についてまとめる			
	第3回	内容	乳児院の現状と課題及び子どもたちの生活と保育士の役割・具体的な愛着関係の形成方法	予習	乳児院について調べる			
				復習	愛着についてまとめる			
	第4回	内容	児童養護施設の現状と課題及び保育士の役割や被虐待児への支援・自立に向けた支援のあり方	予習	保育士の役割について調べる			
				復習	自立に向けた支援のあり方についてまとめる			
	第5回	内容	児童心理治療施設の現状と課題及び保育士の役割と家族支援のあり方	予習	児童心理治療施設について調べる			
				復習	保育士の役割をまとめる			
	第6回	内容	児童自立支援施設の現状と課題及び入所児童の事例から非行と虐待の関係について検証する	予習	少年少女の非行について調べる			
				復習	非行と虐待の関係について調べる			
	第7回	内容	母子生活支援施設の現状と課題及び事例を通して保育士の役割と支援のあり方を考える	予習	母子生活支援施設について調べる			
				復習	保育士の役割をまとめる			
	第8回	内容	障害児（者）施設の現状と課題及び障害児（者）の自立と社会参加について事例を通して考える	予習	障害児（者）施設について調べる			
				復習	障害児（者）施設の支援のあり方をまとめる			
	第9回	内容	児童発達支援施設の現状と課題及び施設内での訓練や保育士の役割を理解する	予習	児童発達支援センターについて調べる			
				復習	保育士の役割をまとめる			
	第10回	内容	里親制度の現状と課題及び被虐待児の増加と里親制度の意義について事例を通して考える	予習	里親制度について調べる			
				復習	里親の抱える課題についてまとめる			
	第11回	内容	企業主導型保育園の現状と課題及び保育環境と保育者の期待や不安	予習	企業主導型保育園について調べる			
				復習	望ましい保育環境についてまとめる			
	第12回	内容	小規模保育園や夜間保育園の現状と課題及び子どもの発達と保育環境について考える	予習	小規模保育園・夜間保育園について調べる			
				復習	保育士が抱える課題についてまとめる			
	第13回	内容	福祉施設の倫理及び児童養護施設での体罰事例を通して子どもの人権や権利擁護を考える	予習	子どもの権利ノートについて調べる			
				復習	体罰の防止策をまとめる			
	第14回	内容	認可外保育施設の現状と課題及び民間事業者参入に伴う認可外保育施設の増加について考える	予習	認可外保育施設について調べる			
				復習	事故防止についてまとめる			
	第15回	内容	福祉施設の現状に大きな影響を与えている、時代背景への理解と、その課題を考える。	予習	福祉施設の時代状況について調べる			
				復習	福祉施設の現状についてまとめる			
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。							
課題へのフィードバック	作成したレポートの解説説明を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（60%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【課題作成や発言】（40%）							
教科書	なし							
参考文献	授業中、スマホはバック等に保管する							
補足事項	福祉施設の現状は時代を常に反映していますので、新聞を中心にして日々の時代状況に関心を持つこと。							

科目名	保育の心理学		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おおくま みかこ 大熊 美佳子
ナンバリングコード	EDP22102		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの心身の発達について、代表的な理論を踏まえ、発達概念を理解し、具体的な発達や学習の過程に関する基礎知識を習得し、教育や保育、子育て支援に生かしていけるように、学びを深めていくことを目的とします。							
到達目標	1. 保育に関わる心理学の基本用語を正確に理解している 2. 子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている 3. 子どもの主体的な活動を支えるための基礎となる考え方を理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1, 2 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	子どもの発達の理解	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	子どもの発達の理解についてまとめる			
	第2回	内容	子どもの発達と環境	予習	遺伝と環境の影響について考えてくる			
				復習	発達に関わる遺伝と環境の考え方をまとめる			
	第3回	内容	発達観・子ども観と保育観	予習	自分自身の子ども観、保育観をまとめてくる			
				復習	発達に関する考え方の変遷をまとめる			
	第4回	内容	身体的機能と運動機能の発達	予習	乳幼児の身体・運動機能の発達について調べてくる			
				復習	乳幼児の身体・運動機能の発達について学んだことをまとめる			
	第5回	内容	社会情動的発達① (感情・情動の発達)	予習	感情・情動の発達について調べる			
				復習	感情・情動の発達を年齢ごとに整理する			
	第6回	内容	社会情動的発達② (アタッチメント理論)	予習	ボウルヴィのアタッチメント理論について調べてくる			
				復習	アタッチメント理論について整理する			
	第7回	内容	社会情動的発達② (他者理解の発達)	予習	乳幼児の他者理解について調べてくる			
				復習	人間関係の発達を年齢ごとに整理する			
	第8回	内容	パーソナリティの発達	予習	フロイトの理論について調べてくる			
				復習	フロイトの理論を年齢ごとに整理する			
第9回	内容	認知発達① (ピアジェの認知発達理論)	予習	ピアジェについて調べてくる				
			復習	ピアジェの認知発達理論を整理する				
第10回	内容	認知発達② (言葉の発達とヴィゴツキーの認知発達理論)	予習	言葉の発達について調べてくる				
			復習	ヴィゴツキーの認知発達理論を整理する				
第11回	内容	学習理論① (学習とは何か)	予習	学習の意味について調べてくる				
			復習	学習・条件づけについてまとめる				
第12回	内容	学習理論② (社会的学習理論について)	予習	社会的学習理論について調べる				
			復習	現場への応用の仕方について考える				
第13回	内容	子どものやる気① (動機づけ理論について)	予習	子どものやる気について考える				
			復習	動機づけ理論についてまとめる				
第14回	内容	子どものやる気② (褒めること・叱ること)	予習	子どもの褒め方・叱り方について考える				
			復習	よりよい褒め方・叱り方をまとめる				
第15回	内容	子どもの個性を理解する	予習	個性とは何かを考える				
			復習	保育現場に必要な心理学的視点をまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内で小テストを実施し、テスト後、解説を行います。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	なし							
参考文献	講義の中で適宜紹介します							
補足事項								

科目名	子ども家庭支援の心理学		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	みよし ちから 三好 力
ナバリンクコード	EDP22103		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。							
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと			
				復習	授業の内容を整理する			
	第2回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと			
				復習	ライフサイクルとライフコースを整理する			
	第3回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと			
				復習	発達理論について整理してまとめる			
	第4回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと			
				復習	未就学児の特徴をまとめる			
	第5回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと			
				復習	学童期の子どもの特徴をまとめる			
	第6回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと			
				復習	青年期の特徴をまとめる			
	第7回	内容	小テスト（1～6） 青年期の精神世界を見る	予習	1～6回目の復習			
				復習	テストの間違ったところを再学習する			
	第8回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと			
				復習	成人期の特徴をまとめる			
第9回	内容	老年期における発達	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと				
			復習	老年期の特徴をまとめる				
第10回	内容	子育てを取り巻く社会的状況	予習	教科書の子育て環境の箇所を事前に読むこと				
			復習	現代の子育て環境について考える				
第11回	内容	家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の家族の箇所を事前に読むこと				
			復習	家族機能について考える				
第12回	内容	子育ての経験と親としての育ち、ライフコースと仕事・子育て	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと				
			復習	親の成長を考える				
第13回	内容	多様な家庭形態とその理解 特別な配慮を要する家庭	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと				
			復習	多様性について考える				
第14回	内容	子どもの精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと				
			復習	子どもの精神保健について整理する				
第15回	内容	小テスト（7～14） 振り返り	予習	7～14回目の復習。テスト勉強をする				
			復習	テストの間違ったところを再学習する				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	小テストの後に、答え合わせと解説を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（100%）、レポート・課題（ %）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 】（ %）							
教科書	『子ども家庭支援の心理学』（青木喜久代編、みらい）							
参考文献								
補足事項								

科目名	子どもの理解と援助		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いまい ゆみ 今井 由美
ナバリングコード	EDP22104		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの心身の発達や環境・状況を把握し、それらに基づいた保育援助の在り方について、より実践的な力を身に付ける。 演習課題や事例検討、グループワークを通して、子どもの理解を踏まえた多様な保育援助の方法について、具体的に考えていく。							
到達目標	1. 子ども一人一人の発達や状況を把握することの意義を理解し、さまざまな保育援助方法を身につけている 2. 子どもを理解するための方法について、具体的にイメージしながら説明できる 3. 子ども理解に基づく援助や態度について、自分なりに考えることができる							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1,2,4 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション / 子どもを理解するとは	予習	子どもを理解することのイメージをしておく	復習	習得する内容を整理する	
	第2回	内容	子ども理解の意義	予習	子どもを理解する必要性について考えておく	復習	子ども理解の意義について理解する	
	第3回	内容	子どもの発達と理解	予習	乳幼児の発達段階をイメージしておく	復習	発達過程に応じた援助についてまとめる	
	第4回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解①	予習	子どもに共感する時のイメージしておく	復習	共感的理解について整理しておく	
	第5回	内容	子どもに対する関わりと共感的理解② グループワーク	予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく	復習	グループワークの内容を整理する	
	第6回	内容	子どもを理解する視点① 保育者としての関わり グループワーク	予習	保育者としての関わり方について考えておく	復習	グループワークの内容を整理する	
	第7回	内容	子どもを理解する視点② いざこざや葛藤	予習	いざこざや葛藤場面をイメージしておく	復習	いざこざや葛藤場面での援助方法をまとめる	
	第8回	内容	子どもを理解する視点③ 保育環境	予習	さまざまな環境変化をイメージしておく	復習	環境に応じた理解と援助方法を整理する	
	第9回	内容	子どもを理解する方法① 観察・記録・評価	予習	観察した姿を記録するイメージをしておく	復習	子どもの姿を思い浮かべ記録する	
	第10回	内容	子どもを理解する方法② 保育者間の連携 グループワーク	予習	保護者同士の関わりをイメージしておく	復習	グループワークの内容を整理する	
	第11回	内容	子どもを理解する方法③ 保護者との関わり	予習	保護者対応をイメージしておく	復習	保護者対応と子ども理解の繋がりをまとめる	
	第12回	内容	発達課題や個人差に応じた援助	予習	どんな発達課題があるか考えておく	復習	一人一人に応じた理解と援助について理解する	
	第13回	内容	気になる子への理解と援助①	予習	どんな子が気になるのかイメージしておく	復習	気になる子への理解と援助についてまとめる	
	第14回	内容	気になる子への理解と援助② グループワーク	予習	事前配布するグループワーク資料を読んでおく	復習	グループワークの内容を整理する	
	第15回	内容	発達の連続性と就学支援 ロールプレイング	予習	就学時のイメージをしておく	復習	就学に向けての援助方法をまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	提出された課題は、添削して返却し解説を行う。 グループワークやロールプレイングは、発表後に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（ 30 %）、作品・発表（ 30 %）、授業態度【積極的参加】（ 40 %）							
教科書	なし							
参考文献	『子どもの理解と援助 新・基本保育シリーズ⑩』（公益財団法人児童育成協会：監修、清水益治・森俊之：編集、中央法規） 『シードブック子どもの理解と援助』（飯島典子・本郷一夫：編著、建帛社）							
補足事項								

科目名	子どもの保健		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナバリングコード	AHS22101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの健康と保健の意義について理解する。 身体や心の基本的知識について習得するとともに、子どものかかりやすい病気とその予防・対応法について学び、援助できる力をみにつけることを目的とする。							
到達目標	1. 子どもの発育・発達についての基礎知識を習得し、一人ひとりに応じた評価ができる。 2. 子どもの病気とその予防、適切な対応について理解している。 3. 子どもの心身の健康状態を把握し、その対応方法が理解できている。 4. 保健活動において、保護者および多職種間の連携・協働の重要性を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1、2、4、5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション I、子どもの健康と保健の意義	予習	P1～11まで読んでおく			
				復習	子どもの健康に関する現状と課題についてまとめる			
	第2回	内容	II、子どもの身体的発育と生理機能の発達 身体発育と保健	予習	家族から自分の「妊娠～出生までの経過」を聞く			
				復習	身体の発育についてまとめておく			
	第3回	内容	生理機能の発達と保健	予習	P20～25まで読んでおく			
				復習	生理機能についてまとめておく			
	第4回	内容	運動機能の発達 精神機能の発達	予習	P25～33まで読んでおく			
				復習	反射・発達について、月齢をおってまとめる			
	第5回	内容	子どもの食と栄養	予習	P34～48まで読んでおく			
				復習	母乳と人工乳の違いについてまとめる			
	第6回	内容	III、子どもの健康状態の把握 観察・健康診断	予習	P49～52まで読んでおく			
				復習	乳幼児の観察方法についてまとめる 乳幼児健診の内容についてまとめる			
	第7回	内容	― 振り返り確認テスト No1― IV、子どもの疾病予防と適切な対応 子どもの病気の特徴	予習	自分と家族の体温と脈拍を測定する			
				復習	子どもの病気の特徴についてまとめる			
	第8回	内容	感染症	予習	P69～76まで読んでおく			
				復習	主な感染症についてまとめる			
	第9回	内容	免疫・アレルギー性疾患 消化器疾患	予習	アレルギーの事例について調べる			
				復習	アレルギー疾患の対応について調べる			
	第10回	内容	循環器疾患 血液系疾患	予習	一般的にみられる症状はどのようなものがあるか考える			
				復習	症状の対応についてまとめる			
	第11回	内容	内分泌・代謝性疾患 神経系の疾患	予習	P61～73まで読んでおく			
				復習	症状の対応についてまとめる			
	第12回	内容	腎・泌尿器疾患 先天性の疾患	予習	先天性疾患にはどのようなものがあるか調べる			
				復習	慢性疾患についてまとめる			
	第13回	内容	学校保健安全法 予防接種	予習	自分の母子健康手帳の内容を確認しておく			
				復習	自分が行ったことのある予防接種を確認する			
	第14回	内容	― 振り返り確認テスト No2― 子どもの疾病に対する福祉	予習	小児慢性特定疾患について調べる			
				復習	自立支援事業についてまとめておく			
	第15回	内容	インクルーシブ教育・合理的配慮 まとめ	予習	合理的配慮の意味について調べる			
				復習	子どもの保健の到達目標を振り返る			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内で質問できる時間を設ける。課題（各授業終了時、確認ポイントチェック）・提出物においては、採点后または必要に応じてコメントを添えて返却する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（70%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	「保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健～健康と安全～」大澤真木子・小國美也子 へるす出版、							
参考文献	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 小林美由紀・森脇浩一 診断と治療社							
注意事項	授業はじめに前回授業の振り返りを行い、授業中は、ペアワークやグループワークなどを行いながら、知識の共有・定着を図っていく。							

科目名	子どもの食と栄養		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
ナバリングコード	EAH22201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身に付いた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する。食事はたんに栄養素を摂取するだけではなく、心身の順調な発育、発達を促し健康な生活を営むための基礎となることを理解し、保育者として必要な食・栄養の知識を身につける。子どもの発達段階における食事の問題点について理解を深め、保育者としての乳幼児への関わりを考察する。子どもを取り巻く食環境や課題を理解し、この授業を通して自身の適切な食生活も考えて欲しい。							
到達目標	1. 健康な生活を営むために必要な体と栄養に関する基本的知識を習得し、説明することができる。(知識・理解) 2. 子どもの心身の発達段階と食生活の関連を理解し、子どもがよく噛んで美味しく味わうために必要な知識、実践力を身につけている。(知識・理解・技能・表現) 3. 子どもを取り巻く食の様々な課題・問題点を理解し適切な食生活について説明することができる。(知識・理解・思考) 4. 保育者として食教育の重要性を理解し実践する力を身につけている。(知識・理解・技能・表現)							
学位授与方針	地域保育学科(1・2・4)							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 健康・栄養の定義 栄養クイズ	予習	シラバスを読んでおく	復習	栄養の基礎知識を確認しておく	
	第2回	内容	子どもを取り巻く食環境 心身の健康と食生活、SDGsについて	予習	自分自身の食生活を振り返る	復習	栄養素の名称と働きについて調べる	
	第3回	内容	からだと栄養① 栄養・健康に関する基礎知識	予習	健康について考える	復習	栄養素の役割と食品をまとめる	
	第4回	内容	からだと栄養② 栄養の概念と栄養素の役割	予習	栄養と栄養素の違いを理解する	復習	栄養の重要性を理解する	
	第5回	内容	からだと栄養③ 食べ物のゆくえ 消化・吸収のいとなみ【ビデオ】	予習	からだに必要な栄養を考える	復習	栄養素の体内での営みと役割を理解する	
	第6回	内容	からだと栄養④ 発育・発達と栄養、まとめ・小テスト	予習	発育・発達の意味を調べる	復習	発育・発達に必要な栄養を理解する	
	第7回	内容	からだと栄養⑤ 食事摂取基準と献立作成・調理の基本	予習	栄養所要量、食事摂取基準について調べる	復習	食事摂取基準とその利用を理解する	
	第8回	内容	妊娠期・授乳期の食生活① からだの変化と必要な栄養 【ビデオ】	予習	妊娠期・授乳期について調べておく	復習	妊娠期・授乳期の母体の変化をまとめる	
	第9回	内容	妊娠期・授乳期の食生活② 食生活の配慮点	予習	妊娠期・授乳期の栄養について考える	復習	妊娠期・授乳期に必要な栄養をまとめる	
	第10回	内容	子どもの発育・発達と食生活① 乳汁栄養：母乳と免疫、人工栄養	予習	乳汁栄養について調べる	復習	母乳の利点、人工栄養についてまとめる	
	第11回	内容	子どもの発育・発達と食生活② 哺乳動作の発達・原始反射 【ビデオ】	予習	哺乳、原始反射について調べる	復習	ビデオから学んだ原始反射についてまとめる	
	第12回	内容	子どもの発育・発達と食生活③ 摂食機能(捕食・咀嚼・嚥下)の発達 【ビデオ】	予習	哺乳から摂食へ移行する意味を考える	復習	ビデオから学んだ摂食機能をまとめる	
	第13回	内容	子どもの発育・発達と食生活④ 排泄のいとなみ・腎臓の機能 【ビデオ】	予習	排泄の定義と重要性を考える	復習	食事と排泄についてまとめる	
	第14回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑤ まとめ・小テスト	予習	からだの仕組みと必要な栄養をまとめる	復習	摂食機能の発達(月齢ごと)をまとめ理解する	
	第15回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑥ 離乳の意義と進め方	予習	離乳の必要性を考える	復習	離乳を進めるためのポイントをまとめる	
	第16回	内容	子どもの発育・発達と食生活⑦ 離乳期の食生活(ビデオ)	予習	離乳の進め方を理解しておく	復習	ビデオから学んだ離乳食の形態と調理方法をまとめる	
	第17回	内容	幼児期の発育・発達と栄養	予習	幼児期の食生活の問題点について調べる	復習	幼児期の特徴と必要な栄養をまとめる	
	第18回	内容	学童期の栄養	予習	学童期の食生活、問題点について調べる	復習	必要な栄養と食教育についてまとめる	
		内容	給食	予習	給食の意義を調べる			

	第19回		児童福祉施設の食事、学校給食	復習	給食の目的、種類、利点を理解する
	第20回	内容	アレルギー：アレルギーの種類 食物アレルギーと対応・エビペンの使用方法	予習	アレルギーについて調べる
				復習	アレルギーを持つ子どもへの対応をまとめる
	第21回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養① 障がいのある子どもへの対応	予習	食べる機能の障がいを考える
				復習	障がいをもつ子どもへの食支援をまとめる
	第22回	内容	特別な配慮が必要なこどもの食と栄養② 疾病、体調不良の子どもへの対応	予習	子どもの体調不良について調べる
				復習	子どもの体調に応じた食事と対応をまとめる
	第23回	内容	食教育① 日本の栄養教育の歴史・食育基本法の目的と概要	予習	食教育の意義と食関連の法律をまとめる
				復習	保育者に必要な食育の環境と内容を理解する
	第24回	内容	食教育② 食育のための環境、食育計画の立案、小テスト	予習	対象年齢の子どもに必要な食教育を考える
				復習	食教育のための環境と必要性をまとめる
	第25回	内容	食教育演習① 食育計画 資料収集・グループディスカッション	予習	食育計画の立案、実践の意義と配慮点
				復習	子どもの年齢に応じた食育計画を立案する
	第26回	内容	食教育演習② 制作 対象年齢に合わせた食育媒体制作	予習	媒体制作に必要な資料、材料を準備する
				復習	年齢・ねらいに合わせた媒体制作をすすめる
	第27回	内容	食教育演習③ 食教育媒体制作・発表準備	予習	媒体制作をすすめる
				復習	媒体制作をすすめる
	第28回	内容	発表① グループディスカッション	予習	発表準備をする
				復習	発表を振り返る
	第29回	内容	発表② グループディスカッション	予習	発表準備をする
				復習	発表を振り返る
	第30回	内容	発表③ 食教育の評価・グループディスカッション まとめ	予習	食教育プランの評価を行う（PDCA）
				復習	子どもにとっての食の意義と重要性をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。				
課題へのフィードバック	授業内でふりかえりクイズ、小テストを実施し解説を行う。課題等にコメントを行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：小テスト（70%）、課題・発表（20%）、授業態度【積極的参加】（10%）				
教科書	『子どもの食と栄養 演習』（岡崎光子編、同文書院）				
参考文献	『子どもの食と栄養演習書』（小川雄二編、医歯薬出版株式会社）他、授業内で随時紹介する				
補足事項	前期・後期を通した1年間の科目である。テキスト・ビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが食育媒体制作等も含む演習科目である。授業内で指示する事前学習を前提として授業をすすめるため、授業までにテキストの指示された箇所を必ず熟読すること。随時、振り返りクイズ（Google Classroom）を実施する。子どもを取り巻く食環境や自身の生活習慣に関するワークを通し課題や発表に積極的に取り組むとともに、授業を通して自身の食生活・健康を振り返り、望ましい生活習慣の確立にも取り組んで欲しい。				

科目名	子どものための食育実習		単位数	1	授業時間数	45	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
ナバリングコード	EAH22202		授業形態	実習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもは、乳・幼児期の短期間にめざましい摂食機能の発達を遂げる。この食育実習では、1年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を実際に調理し試食することにより咀嚼機能の発達を理解し、乳幼児に関わる専門職としての適切な食指導・食支援の方法を学ぶ。基本的な調理の知識・技術を習得する。							
到達目標	1. 準備（計る・洗うなど）から片付けにいたる調理に必要な知識と技術を身につけている。 2. たんに「空腹を満たす食事」ではない、子どもの年齢（月齢）と咀嚼機能に応じた食品の選択、調理方法（適切な量・調理形態）を理解し、主体的に実践することができる。 3. 「美味しく」「楽しい」かつ「安全な」食事を提供するために必要な環境を整備することができる。 4. 乳幼児に正しい食具の持ち方を指導することができる。							
学位授与方針	地域保育学科（ 1・2・4・5 ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：調理室の使い方・授業の進め方 SDGsの目標設定・グループディスカッション	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	授業内容を理解しグループの目標を確認する			
	第2回	内容	基本調理 調理の基本、包丁の使い方	予習	調理室、調理器具等の使い方を理解する			
				復習	調理に必要な知識、技術を整理する			
	第3回	内容	調乳・赤ちゃん人形のお世話	予習	前年度のテキスト「人工栄養」を復習する			
				復習	調乳の意義と配慮すべき内容をまとめる			
	第4回	内容	離乳食① 準備食～初期（5、6か月）	予習	準備食、離乳の意義について考える			
				復習	離乳食を作る際の留意点をレポートにまとめる			
	第5回	内容	離乳食② 中期（7～8か月）、間食	予習	離乳初期の食事形態を確認しておく			
				復習	離乳中期における調理のポイントをレポートにまとめる			
	第6回	内容	離乳食③ 後期（9～11か月）	予習	離乳中期の食事形態を確認しておく			
				復習	離乳後期における調理のポイントをレポートにまとめる			
	第7回	内容	離乳食④ 完了期（12～18か月）	予習	離乳後期の食の形態・量を確認しておく			
				復習	移行期の食事を考える			
	第8回	内容	幼児食① 1～2才、3～5才	予習	離乳食との違いを調べる			
復習				幼児期の前期・後期の食事の違いを理解する				
第9回	内容	幼児食② お弁当・アレルギー対応おやつ	予習	お弁当の目的について調べる				
			復習	お弁当の留意点をレポートにまとめる				
第10回	内容	妊産婦の食事	予習	妊産婦の食事の特徴を調べる				
			復習	妊産婦に必要な栄養を理解し留意点をレポートにまとめる				
第11回	内容	幼児食③ 間食 食育媒体制作（グループワーク）	予習	アレルギーについて調べる				
			復習	アレルギー対応の調理の配慮点をレポートにまとめる				
第12回	内容	幼児食④ 行事食	予習	日本の行事・伝統食を調べる				
			復習	子どもにとっての行事食の重要性をレポートにまとめる				
第13回	内容	まとめ レポート提出 【第13週で終了】	予習	レポートを整理し内容を確認する				
			復習	子どもの食事内容と食教育についてまとめる				
第14回	内容		予習					
			復習					
第15回	内容		予習					
			復習					
予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。								
課題へのフィードバック	実習内容・調理法を理解しているか、実際の調理の様子を確認し指導する。実習レポートを確認し、講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：ワークブック（70%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加・演習ルール】（20%）							
教科書	独自に作成したワークブックを配布する。実習前に指示された該当箇所を読んでから授業に臨むこと。							

参考文献	必要に応じて紹介する
補足事項	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 本演習は全13回（毎回2時間連続で実施）です。2/3以上の出席が必要となるため注意してください。</li><li>2. 実習内容および注意事項は初回のオリエンテーションで説明します。</li><li>3. 初回授業から、調理実習となるため、エプロン、三角巾、ハンドタオルを持参してください。</li><li>4. 感染症対策として、調理実習室への入室時に検温および手指の消毒、調理前の手洗い、手袋の使用を義務付けています。</li><li>5. 火気を扱う実習室であり、指導に従わない場合は、授業には参加できない場合があります。</li><li>6. 授業中の私語は円滑な実習および感染症対策のため禁止しています。指示に従わない場合は履修を中止する場合があります。</li></ol>

科目名	臨床心理学		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文
ナバリンクコード	CLP22201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考えをどう活かしていくか考えていきたい。							
到達目標	1. 臨床心理学という学問分野を理解している。 2. 保育と臨床心理学の接点を考えることができる。 3. 人の心の動きを理解している。 4. 自分自身について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1, 2, 4 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	臨床心理学とは	予習	シラバスを読んでおく。			
				復習	教科書全体に目を通してみる。			
	第2回	内容	臨床心理学の研究領域	予習	臨床心理学で何をあきらかに出来るか考える。			
				復習	授業内容の整理。			
	第3回	内容	臨床心理学の歴史：古代における心のとらえ方	予習	平安時代以前の日本の文化について調べる。			
				復習	授業内容の整理。			
	第4回	内容	臨床心理学の歴史：キリスト教と心の癒し	予習	キリスト教の考え方を調べる。			
				復習	授業内容の整理。			
	第5回	内容	臨床心理学の歴史：フランス革命と自然科学	予習	フランス革命について調べておく。			
				復習	授業内容の整理。			
	第6回	内容	臨床心理学の歴史：メスメルと催眠療法	予習	催眠療法について調べておく。			
				復習	授業内容の整理。			
	第7回	内容	臨床心理学の歴史：フロイトと精神分析	予習	フロイトの人物像を知っておく。			
				復習	授業内容の整理。			
	第8回	内容	臨床心理学の歴史：心理学の発展	予習	現代の心理療法の考え方を調べておく。			
				復習	授業内容の整理。			
	第9回	内容	ユングのグリム童話分析	予習	グリム童話をいくつか読んでおく。			
				復習	読んでおいた童話を分析してみる。			
	第10回	内容	乳児期の発達	予習	乳児期の子どもの行動を整理しておく。			
				復習	実際の乳児の例に当てはめてみる。			
第11回	内容	メラニー・クラインとウィニコットの理論	予習	対象関係論について調べておく				
			復習	実際の母子の例に当てはめてみる。				
第12回	内容	幼児期前半の発達	予習	1歳から3歳の子どもの行動を整理しておく。				
			復習	実際の幼児の例に当てはめてみる。				
第13回	内容	幼児期後半の発達	予習	3歳から5歳の子どもの行動を整理しておく。				
			復習	実際の幼児の例に当てはめてみる。				
第14回	内容	児童期の発達	予習	小学生の行動を整理しておく。				
			復習	実際の小学生の例に当てはめてみる。				
第15回	内容	青年期から老年期の発達	予習	青年期以降の変化を調べておく。				
			復習	実際の人物の例に当てはめてみる。				
第16回	内容	クライアント中心療法の実践	予習	理想的な相談スタイルを調べておく。				
			復習	ビデオ内容を振り返ってみる。				
第17回	内容	クライアント中心療法の理論	予習	自己理論について調べておく。				
			復習	授業内容の整理。				
第18回	内容	クライアント中心療法の技法	予習	受容と共感の方法を考えてみる。				
			復習	授業内容の整理。				
第19回	内容	心理アセスメント	予習	心理アセスメントの意味を考えておく。				
			復習	授業内容の整理。				
第20回	内容	言語による情報収集	予習	友人の情報をどこまで知っているか考えてみる。				

			復習	周囲の人物で考えてみる。
第 21 回	内容	非言語による情報収集	予習	友人の様子を観察しておく。
			復習	周囲の人物で考えてみる。
第 22 回	内容	心理テスト	予習	自分の性格傾向を考えてみる。
			復習	心理テストの結果を振り返ってみる。
第 23 回	内容	健康な人の心理療法	予習	健康な悩みとは何か考える。
			復習	授業内容の整理。
第 24 回	内容	神経症水準の心理療法	予習	不安障害やパニック障害について調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第 25 回	内容	人格障害水準の心理療法	予習	人格障害とは何か調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第 26 回	内容	境界性人格障害について	予習	境界性人格障害とは何か調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第 27 回	内容	精神病水準の心理療法	予習	精神障害について調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第 28 回	内容	統合失調症とは	予習	統合失調症の特徴を調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第 29 回	内容	統合失調症の正しい理解	予習	精神病院の現状を調べておく。
			復習	授業内容の整理。
第 30 回	内容	催眠療法	予習	自己暗示とは何か調べておく。
			復習	授業内容の整理。
予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	テストや提出物を返却する。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（90%）、授業態度【積極的参加】（10%）			
教科書				
参考文献	なし			
補足事項	本授業内では Google Classroom などを用いて、適宜アクティブラーニングやグループワークを行います。			

科目名	親子関係論	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	こんどう まゆこ 近藤 麻由子
ナンバリングコード	SWS22106	授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	地域で「親子のふれあい」を伝えることが必要な社会的背景や産後の母親の支援の重要性について理解する。 ベビーマッサージ指導を通して親子の絆を深める援助ができることを目的とする。						
到達目標	1. 地域における親子関係の支援の必要性と方法について理解している 2. ベビーマッサージの利点や効果を説明できる 3. ベビーマッサージの手技の指導を行う力を身につけている						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 3、4 ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション、ベビーマッサージとは	予習	シラバスを読んでおく	復習	この科目で習得すべき内容を理解する
	第2回	内容	ベビーマッサージの歴史と始める時期	予習	ベビーマッサージについて調べてくる	復習	テキスト「ベビーマッサージの歴史」を読む
	第3回	内容	「許可を得て触れる」こと、お人形の扱い方、 ベビーマッサージの基本、グループワーク	予習	動画をみてベビーマッサージのイメージを掴む	復習	「始めるよ」マッサージの許可を得る練習
	第4回	内容	ベビーマッサージの10の利点、 脚、お腹のベビーマッサージ	予習	動画「脚とお腹のマッサージ」を見て練習	復習	脚とお腹のマッサージ指導ができるよう練習
	第5回	内容	産後のお母さんの変化、産後うつ予防と産前産後ケアに ついて、胸のマッサージ	予習	テキスト「産後のお母さんの身体」を読む	復習	胸のマッサージ指導ができるよう練習
	第6回	内容	赤ちゃんの皮膚について、植物オイルと オイルパッチテストについて、オイル体感ワーク	予習	植物オイルの種類について調べる	復習	オイルパッチテストの台本作成
	第7回	内容	「脚・お腹・胸」実技チェック（ロールプレイング）、 腕のマッサージ	予習	動画「腕のマッサージ」を見て練習	復習	腕のマッサージ指導ができるよう練習
	第8回	内容	赤ちゃんの神経発達と自律神経、ベビーマッサージで 育てる感覚（触覚）	予習	テキスト「赤ちゃんの神経発達」を読む	復習	神経発達や感覚を育てることへの効果まとめ
	第9回	内容	赤ちゃん体操と感覚（前庭感覚・固有受容覚）、 背中・顔のマッサージ	予習	動画「背中・顔のマッサージ」を見て練習	復習	背中・顔のマッサージ指導ができるよう練習
	第10回	内容	赤ちゃんの運動発達とベビーマッサージ、「腕・背中・ 顔」実技チェック（ロールプレイング）	予習	テキスト「運動機能の発達」を読む	復習	運動発達への効果まとめ
	第11回	内容	ベビーマッサージ10の利点まとめ、 身体・心理・社会的効果グループディスカッション	予習	プレゼン課題ベビーマッサージの利点を決める	復習	プレゼン課題作成
	第12回	内容	地域講座の目的と組み立て方	予習	地域のベビーマッサージ講座について調べる	復習	地域講座計画の作成
	第13回	内容	保育中の「触れること」、乳幼児期に育てる接触の ルール	予習	保育中での「触れる」場面について考える	復習	保育者として子どもに触れる場面の配慮まとめ
	第14回	内容	ベビーマッサージの利点グループ発表、ベビーマッサージ デモクラス	予習	マッサージ実技総復習	復習	地域講座計画のまとめ
	第15回	内容	参観日等への応用、ストーリータッチ（発表）	予習	使用する絵本を選ぶ	復習	仕事等に資格をどう活かしていくかまとめる
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。						
課題へのフィードバック	作成されたレポートへのコメントを行う。実技部分はグループごとによる実技チェックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加】（30%）						
教科書	『ベビーマッサージテキスト講義編』『ベビーマッサージテキスト実技編』（JABC 日本ベビー&チャイルド協会）						
参考文献	『幸せになる脳は抱っこで育つ』（山口創、廣済堂出版）						
補足事項	グループワークや意見の発表など積極的な態度での受講を望みます。						

科目名	在宅保育論		単位数	2	授業時間数		担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	SWS22111		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	本授業では、国の子育て支援制度において、居宅訪問型保育として正式に位置付けられた保育サービスを理解し、家庭訪問保育者の役割と責務、発達に即した援助及び保育内容、家庭における子どもや保護者の支援、子育てのアドバイスの方法などを学ぶ。そして、制度上の居宅訪問保育者及び認定ベビーシッター資格保持者として働くための基礎知識や技術を身に付けることを目指す。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベビーシッターの職務について理解している。</li> <li>2. ベビーシッターとして働くための知識を身に付けている。</li> <li>3. ベビーシッター業務の実践力を身につけ、認定資格を取得する。</li> </ol>							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1・2・3・4・5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：家庭訪問保育の体系と研修内容	予習	ベビーシッターの仕事調べる			
				復習	「家庭訪問保育の体系と研修内容」をまとめる			
	第2回	内容	保育者として身につけたい保育マインド	予習	「保育の原点」を読む			
				復習	「保育の専門性と保育マインド」をまとめる			
	第3回	内容	居宅訪問型保育の概要	予習	「居宅訪問型保育の実態」を読む			
				復習	「居宅訪問型保育の概要」をまとめる			
	第4回	内容	乳幼児の生活と遊び	予習	「子どもの発達と生活」を読む			
				復習	「子どもの遊びと環境」をまとめる			
	第5回	内容	乳幼児の発達と心理（1）	予習	「子どもの発達」を読む			
				復習	「子どもの発達」をまとめる			
	第6回	内容	乳幼児の発達と心理（2）	予習	「乳幼児の発達過程」を読む			
				復習	「乳幼児の発達過程」をまとめる			
	第7回	内容	乳幼児の発達と心理（3）	予習	「言葉とコミュニケーション」を読む			
				復習	「自分と他者」をまとめる			
	第8回	内容	乳幼児の食事と栄養	予習	「乳幼児期の食育」を読む			
				復習	「食物アレルギー、健康状態を考慮した食事」をまとめる			
第9回	内容	小児保健	予習	「乳幼児期の健康観察のポイント」を読む				
			復習	「発育と発達」についてまとめる				
第10回	内容	居宅訪問型保育の保育内容及び環境整備	予習	「居宅訪問型保育の特徴と配慮事項」を読む				
			復習	「居宅訪問型保育における環境整備」をまとめる				
第11回	内容	家庭訪問保育における保護者への対応	予習	「保護者支援の意義と必要性」を読む				
			復習	「居宅訪問型保育における相談援助」をまとめる				
第12回	内容	居宅訪問型保育の運営	予習	「居宅訪問型保育の業務の流れ」を読む				
			復習	「居宅訪問型保育の運営」についてまとめる				
第13回	内容	安全確保とリスクマネジメント	予習	「子どもの事故の予防、保育上の留意点」を読む				
			復習	「安全確保とリスクマネジメント」についてまとめる				
第14回	内容	居宅訪問保育者の職業倫理と配慮事項	予習	「居宅訪問型保育者としての基本姿勢と職業倫理」を読む				
			復習	「居宅訪問保育の職業倫理と配慮事項」をまとめる				
第15回	内容	まとめ：家庭訪問保育の理論と実際	予習	「一般型家庭訪問保育の業務の流れ」を読む				
			復習	「様々な家庭訪問保育」をまとめる				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎時間前回の授業に関する小テストを行い、添削して返却することですべての受講者に理解が深まるようにフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（50%）							
教科書	『家庭訪問保育の理論と実際 第3版』（公益社団法人全国保育サービス協会 監修/ 中央法規）							
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『認定こども園教育・保育要領』							
注意事項	保育士資格取得者としてのベビーシッター認定資格取得を目的とする授業であることを自覚して受講すること。万一欠席した場合は、予習課題に記載してある教科書の部分を読み、レポート（A4・2枚）提出必須。							

科目名	母性と子どもの看護		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナバリングコード	AHS22102		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	女性の特性や妊産婦、新生児の生理的特徴について学び、対象を理解する。子どもを取り巻く環境を踏まえながら、子どもの看護とは何かを考え、対人援助者として保育者に求められる基本的態度等を問いながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、支援の実際を学ぶ。※本授業は、大学病院・保健センターにおいて助産師、看護師として携わった実務経験のある教員が経験を生かし、実践に即した授業を行う。							
到達目標	1. 女性が直面する諸問題について、自分の意見をもつことができる。 2. 妊娠、出産、新生児について理解し、保育者として対象に寄り添うことができる。 3. 疾病を持つ子どもの症状と対応について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1.2.4 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 母性の概念	予習	P3～12 までを読んでおく			
				復習	現代の女性を取り巻く環境についてまとめる			
	第2回	内容	母性とヘルスプロモーション チームとその連携、子育て支援ネットワーク	予習	P13～17 まで読み、居住している子育て支援ネットワークについて調べる			
				復習	母性看護の課題についてまとめる			
	第3回	内容	母子保健の現状と動向 沿革、動向、対策、女性の意思決定支援	予習	P18～30 まで読んでおく			
				復習	母子健康手帳の歴史についてまとめる			
	第4回	内容	ライフサイクル各期の特徴① 胎児期～思春期	予習	P36～43 まで読んでおく			
				復習	子どもの心理・社会的特徴についてまとめる			
	第5回	内容	ライフサイクル各期の特徴② 成熟期～老年期	予習	P43～56 まで読んでおく			
				復習	成年女性の体と病気についてまとめる			
	第6回	内容	小テスト No1 妊娠の理解	予習	P59～83 まで読んでおく			
				復習	妊婦の生理的変化を理解する			
	第7回	内容	分娩の理解	予習	P84～106 まで読んでおく			
				復習	分娩の3要素についてまとめる			
	第8回	内容	産褥の理解 マタニティーブルーズ	予習	P106～118 まで読んでおく			
				復習	産褥期の心理を理解する			
第9回	内容	新生児の理解	予習	P118～129 まで読んでおく				
			復習	新生児期に必要な観察ポイントをまとめる				
第10回	内容	小テスト No2 子どもの看護と取り巻く環境	予習	P213～218 まで読んでおく				
			復習	母子保健施策、子育て支援策についてまとめる				
第11回	内容	疾病・障害が子どもと家族に与える影響 プレパレーション	予習	P269～276 まで読み、病児への環境・支援について考える				
			復習	病児のより良い環境についてまとめる				
第12回	内容	子どもの主な症状と看護 ポスター作成	予習	P289～297 まで読み、主な症状を考える				
			復習	興味のある症状についてまとめる				
第13回	内容	子どもの主な症状と看護 ポスター発表、評価	予習	発表の準備を行う				
			復習	発表内容について振り返る				
第14回	内容	特殊な状態にある子どもの看護 終末期の子どものケア	予習	P298～309 まで読み、特殊な状態にある子どもの寄り添い方について考えてくる				
			復習	子どもの生命の大切さについて考える				
第15回	内容	その他の疾患 ① SIDS ② SBS	予習	P461～462 まで読んでおく				
			復習	最近話題の疾患について、保育者として必要な対応策についてまとめておく				
	予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストについては、解説を行いながら振り返り、フィードバックする。 提出物は、コメントをつけ返却する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（70%）、レポート・課題（10%）、作品・発表（10%）、授業態度【積極性】（10%）							
教科書	『母子看護』（海野信也 他、医学書院）							
参考文献								
補足事項	授業中は、自由な雰囲気でもペアワークやグループワークなどを行いながら、知識の共有・定着を図っていく。							

科目名	保育・教育課程論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おおしま おりえ 大嶋 織江
ナンバリングコード	EDU22203		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	関係法令や幼稚園教育要領に基づき、教育課程や長期・短期の指導計画の作成・立案について理解する。教育課程からどのように指導計画（長期指導計画）が具体化されていくのかについて、実際の教育課程や指導計画をいくつか事例として取り上げながら、子どもの実態に即した計画の立て方や環境構成のあり方について考え、指導計画を作成できる力を養う。							
到達目標	1. 教育課程編成の考え方・手順を知り、PDCA サイクルの考え方を理解している。 2. 指導計画の基本や考え方を理解している。 3. ねらいや子どもの姿から、経験させたい具体的な活動をすぐに思い浮かべることができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1・2・4 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション～授業内容の説明と予定について～ ～教育課程・全体的な計画とは何か？	予習	教育課程と全体的な計画の違いの確認			
				復習	教育課程と全体的な計画とは何かを整理			
	第2回	内容	保育における計画と評価の意義について	予習	保育に計画が必要な理由を考える			
				復習	保育における計画と評価の意義について整理			
	第3回	内容	カリキュラムの基礎理論について	予習	カリキュラムとは何かを確認			
				復習	3つのカリキュラムを説明できるように整理			
	第4回	内容	教育課程・保育課程の変遷について	予習	教育課程・保育課程の変遷を教科書で確認			
				復習	教育課程・保育課程の歴史の変遷を整理			
	第5回	内容	改訂幼稚園教育要領と「育みたい資質・能力」について	予習	「育みたい資質・能力」を確認			
				復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認			
	第6回	内容	幼稚園・保育所・認定こども園における関係法令について	予習	幼稚園・保育所・認定こども園の違いを確認			
				復習	幼稚園・保育所の関係法令についての整理			
	第7回	内容	教育課程および全体的な計画等の編成の方法と手順について	予習	教育課程の編成の方法と手順を教科書で確認			
				復習	教育課程の編成の方法と手順についての理解			
	第8回	内容	指導計画の作成① ～長期の指導計画の編成について～	予習	長期の指導計画の種類を確認			
				復習	長期の指導計画編成についての理解			
第9回	内容	指導計画の作成②～短期の指導計画の編成について～ ごっこ遊びの体験①（お寿司屋さんごっこ） ～グループワークと指導案の作成～	予習	製作に必要な準備物の用意				
			復習	作成した指導案の見直しを行う				
第10回	内容	ごっこ遊びの体験②（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（形づくり）	予習	製作に必要な準備物の用意				
			復習	環境に配慮した素材（粘土）を使う意味を考える				
第11回	内容	ごっこ遊びの体験②（続き）（パン屋さんごっこ） ～もくねんさんの粘土を使ってのパン作り（色塗り）とグループワーク～	予習	製作に必要な準備物の用意				
			復習	グループワークで考えた内容についての理解				
第12回	内容	食育と食育カリキュラムについて	予習	幼稚園などで食育を行う意義を考える				
			復習	食育を行う意義についての整理				
第13回	内容	子育て支援としての延長保育 ～長時間保育の実践について～	予習	延長保育の現状について調べる				
			復習	延長保育のメリットとデメリットの整理				
第14回	内容	保育の記録および省察について	予習	保育の記録および省察を行う理由を考える				
			復習	保育の記録および省察を行う意義を整理				
第15回	内容	保育の評価と改善～PDCA サイクルの考え方について～	予習	保育のPDCA サイクルとは何かを確認				
			復習	保育のPDCA サイクルの意義を整理				
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	グループワークなどの後に講評を行い、必要な資料などを配布する。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（40%）、レポート・課題（40%）、作品・発表（10%）、授業態度【授業への貢献】（10%）							
教科書	『保育の計画と評価』—豊富な例で1からわかる— 宮川萬寿美 編著 啓文書林 2019 第2版							
参考文献	平成29年告示『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社							
補足事項	私語を慎み、質問があるときには、遠慮せずに聞くようにしてください。							

科目名	保育内容総論		単位数	1	授業時間数	30	担当教員 おおしま おりえ 大嶋 織江
ナンバリングコード	EDU22201		授業形態	演習	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	幼児教育は総合的な指導をするという考えから、5領域、幼児期に育みたい資質・能力・幼児期までに育てほしい姿それぞれを理解し、また、それらの関係性を理解した上で保育を構築できるようにする。そのために具体的な子どもの姿を考えながら保育内容と指導法についてグループディスカッションし、理解を深める。						
到達目標	1. 「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」と保育内容の関連性を理解している。 2. 子どもの発達や社会的背景及び保育内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を理解し、具体的な保育の過程につなげて考えることができる。 3. 保育の多様な展開について具体的に理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1、2、4 ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	保育内容とは何か？		予習	保育内容とは何かを調べておく	
			保育内容の必要性と意義について		復習	保育内容の必要性と意義についての振り返りを行う	
	第2回	内容	保育内容の歴史の変遷と保育生活の全体的構造について		予習	保育内容が歴史の変遷をしてきた経緯を確認しておく	
			ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）(1)子ども理解 グループディスカッション及び発表		復習	保育内容の歴史の変遷について整理する	
	第3回	内容	発達のとらえ方と保育内容について		予習	保育者として子どもの発達をどう捉えていくのか自分なりに考えてみる	
			ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）(2)子どもの発達と生活 グループディスカッション及び発表		復習	1歳から6歳までの発達と保育内容を教科書を中心に整理する	
	第4回	内容	保育内容における遊びの意味について		予習	子どもにとっての遊びの意味を自分なりに考えてみる	
					復習	年齢による遊びの変化について教科書を中心に整理する	
	第5回	内容	保育の一日と内容について		予習	登園から降園までの保育の一日をイメージして子どもの生活の流れを確認しておく	
			ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）(3)子どもを取り巻く環境 グループディスカッション及び発表		復習	登園から降園までの保育の一日の流れを整理する	
	第6回	内容	多様な保育・子育て支援の展開について		予習	子育て支援について調べておく	
			ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）(4)子どもと遊び グループディスカッション及び発表		復習	「子ども・子育て支援新制度」について、教科書を中心に振り返りを行う	
	第7回	内容	乳児保育について		予習	乳児保育においての子どもや保護者への配慮について考えておく	
			ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）(5)「健康」と保育内容 グループディスカッション及び発表		復習	0.1.2歳児の子どもの発達について教科書を中心に整理する	
	第8回	内容	長時間の保育について		予習	長時間保育の現状について調べておく	
			異年齢保育での製作「どんぐりバッグづくり」		復習	長時間保育での保育内容の特徴を整理する	
	第9回	内容	病児・病後児保育について		予習	病児保育の意義について考えておく	
			製作「どんぐりバッグづくり」と発表用紙の作成		復習	病児保育における子どもと関わる上での配慮について整理する	
	第10回	内容	病児・病後児保育について（続き）		予習	「どんぐりバッグづくり」の発表用紙の作成	
			製作「どんぐりバッグづくり」の発表		復習	異年齢保育でできる製作について調べてみる	
	第11回	内容	特別な支援を必要とする子どもの保育について		予習	特別な支援とは何かについて調べておく	
			ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）(6)「人間関係」と保育内容 グループディスカッション及び発表		復習	特別な支援を必要とする子どもの課題について整理する	
	第12回	内容	お話の絵を描く「しずくのぼうけん」の活動		予習	授業で使用する製作の準備をする	
			「しずくのぼうけん」をきっかけにSDGSについて考える 水の大切さについてのグループワーク		復習	水の大切さについて改めて考えてみる	

	第13回	内容	お話の絵を描く「しずくのぼうけん」の活動(続き) 「しずくのぼうけん」の活動のアンケート調査	予習	You Tubeで「しずくのぼうけん」の読み聞かせをもう一度、聞いておく
				復習	「しずくのぼうけん」の活動の振り返りをする
	第14回	内容	多文化共生の保育について ケーススタディ(子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える)(7)「環境」と保育内容 グループディスカッション及び発表	予習	多文化共生保育とは何かについて調べておく
				復習	多文化共生保育の意義について整理する
	第15回	内容	保育内容と子ども理解について ケーススタディ(子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える)(8)「言葉」と保育内容 グループディスカッション及び発表	予習	保育の記録の意義について考える
				復習	保育の記録の意義についてまとめる
予習に要する学習時間:概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間:概ね 20 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	各回のケーススタディの発表の後に講評を行い、解説をする。				
成績評価	試験期間における定期試験:実施( )する/( )しない 成績評価の方法: 筆記試験( %)、レポート・課題( 50 %)、作品・発表( 20 %)、授業態度【参加度合】( 30 %)				
教科書	『コンパス 保育内容総論』第2版 咲間まり子編著 建帛社 2023年(令和5年)1月20日 第2版第4刷発行				
参考文献	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> チャイルド本社				
補足事項	私語を慎み、質問がある時は遠慮なくしてください。				

科目名	乳児保育 I		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	CHS22201		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	乳幼児期における発達の姿を、心、体、生活等といった細かい項目に分け、明確に捉えること、さらにその実践力の習得を目的とする。							
到達目標	1. 新生児期、乳児期、幼児期の発達を理解している。 2. 発達にあった保育援助の必要性を理解している。 3. 理論を実践につなげる力の獲得に取り組むことができる							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1・2・3・4・5 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	生涯発達という捉え方	予習	シラバスを読んでくる			
				復習	自己の成育歴を考える			
	第2回	内容	発達の法則と捉え方	予習	発達とは何かを調べる			
				復習	発達課題をまとめる			
	第3回	内容	新生児期と反射	予習	新生児期とは何かを調べる			
				復習	原始反射の意味をまとめる			
	第4回	内容	新生児期・乳児期の発達	予習	誕生1年の運動発達を調べる			
				復習	誕生1年の重要性をまとめる			
	第5回	内容	離乳食・食の重要性	予習	自己の食生活をふりかえる			
				復習	食の重要性をまとめる			
	第6回	内容	乳児期の母子相互作用	予習	母親の役割について考える			
				復習	母子相互作用を踏まえ保育士の役割をまとめる			
	第7回	内容	人との関わりの発達と保育援助	予習	保育援助とは何かを考える			
				復習	人間関係の発達と保育援助をまとめる			
	第8回	内容	「保育所保育指針」と保育援助	予習	「保育所保育指針」とは保育士にとってどういうものか考える			
				復習	「保育所保育指針」の援助ポイントをまとめる			
第9回	内容	「保育所保育指針」：養護の視点	予習	養護とは何かを考える				
			復習	養護のポイントをまとめる				
第10回	内容	「保育所保育指針」：教育の視点	予習	教育とは何かを考える				
			復習	教育のポイントをまとめる				
第11回	内容	安全管理：マニュアル作成 (グループワーク・討議・発表)	予習	安全とは何かを考える				
			復習	安全管理マニュアルを作成する				
第12回	内容	保育者資質：現場で求められる資質 (グループワーク・討議・発表)	予習	保育者の求められる資質は何かを考える				
			復習	自己を向上させる資質の磨き方をまとめる				
第13回	内容	保育者資質：ビジネスライティング	予習	保育者の求められる技術を考える				
			復習	自己を向上させる技術の磨き方をまとめる				
第14回	内容	乳児保育～文献からの学び～	予習	文献を探してくる				
			復習	文献からの学びをまとめる				
第15回	内容	乳児保育～まとめ～	予習	乳児保育とは何かを考える				
			復習	乳児保育の学びをまとめる				
予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎授業ごとの課題レポートにコメントし、返却する							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（ 100%）							
教科書	『保育者のための0・1・2歳児の子育て支援』（伊能恵子著 中央法規出版）							
参考文献	『実習育児学』（吉岡毅著、日本小児医事出版）、『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会） 『保育と保健』（日本保育保健協議会）							
補足事項	毎授業に課題提出を求める為、出席は必須である。							

科目名	乳児保育Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	CHS22107		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	乳幼児の重要性と支援の重要性を理解する。特に、保育現場におけるトラブルやその解決を含め、理論と実践力を結びつけることを目標とし、乳児保育の理解と実践力の習得を目的とする。							
到達目標	1. 乳幼児期の重要性を理解している 2. 発達にあった保育援助力習得の土台を育むことができる 3. 発達を支援する方法を理解している 4. 理論と実践をつなぎ、自己を向上させる力を獲得している							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1・2・3・4・5 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	発達の姿	予習	シラバスを読んでくる			
				復習	発達を支援することをまとめる			
	第2回	内容	睡眠の発達と保育援助	予習	0才児、1才児の理想的生活リズムを調べる			
				復習	睡眠の重要性をまとめる			
	第3回	内容	視覚の発達と保育援助	予習	目の機能を調べる			
				復習	視覚の発達を促す保育援助をまとめる			
	第4回	内容	聴覚の発達と保育援助	予習	耳の機能を調べる			
				復習	聴覚の重要性と支援をまとめる			
	第5回	内容	知覚の発達と保育援助	予習	感覚とは何かを調べる			
				復習	固有感覚のプロセスをまとめる			
	第6回	内容	情緒の発達と保育援助	予習	感情・情緒とは何かを調べる			
				復習	情緒発達の支援をまとめる			
	第7回	内容	言葉の発達と保育援助：言葉、語彙の発達	予習	言葉とは何かを調べる			
				復習	言葉の重要性をまとめる			
	第8回	内容	言葉の発達と保育援助：絵本の力	予習	自分の好きな絵本を推薦する			
				復習	絵本の重要性をまとめる			
第9回	内容	発達を支援する窓口（グループワーク、発表、討議）	予習	発達とは何かを考える				
			復習	スクリーニングの窓口をまとめる				
第10回	内容	乳児期の重要性①：乳幼児の脳	予習	臨界期とは何かを調べる				
			復習	乳児期の育ちに必要環境をまとめる				
第11回	内容	乳児期の重要性②：知能の成り立ち	予習	脳を育む必要性について調べる				
			復習	乳児期の重要性をまとめる				
第12回	内容	人間的発達の契機（グループワーク、発表、討議）	予習	人間とは何かを考える				
			復習	人への保育補助をまとめる				
第13回	内容	あそびの重要性（グループワーク、発表、討議）	予習	昔あそびについて調べる				
			復習	あそびの重要性をまとめる				
第14回	内容	乳児保育～文献からの学び～	予習	参考文献を探してくる				
			復習	文献からの学びをまとめる				
第15回	内容	乳児保育～まとめ～	予習	乳児保育の学びをまとめる				
			復習	乳児保育の大切さをまとめる				
予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎授業ごとの課題レポートにコメントし、返却する							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（ 100%）							
教科書	『保育者のための0・1・2歳児の子育て支援』（伊能恵子著 中央法規出版）							
参考文献	『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会）、『実習育児』（吉岡毅著、日本小児医事出版） 『幼児教育と脳』（澤口俊之著、文芸春秋）、『子どもの脳の発達臨界期敏感期』（榎原洋一著、講談社）							
補足事項	毎授業に課題提出を求める為、出席は必須である。							

科目名	子どもの健康と安全		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナンバリングコード	AHS22103		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健」で得た知識を実践できるように演習を行い、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。感染を含めた事故防止の知識を深める。							
到達目標	1. 子どもの健康状態の評価ができる。 2. 病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。また予防のための対策を理解している。 3. 集団保育における環境と安全対策を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（2、3、4、5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション			予習	教科書 P104～113 を読む	
			子どもの健康と保育環境 演習 室温・湿度計、CO <sub>2</sub> 計測器、熱中症計測器 測定			復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	保育における健康および安全管理① 衛生管理			予習	教科書 P114～121 を読む	
			演習 嘔吐処理方法			復習	保育所における保育環境・衛生管理をまとめる	
	第3回	内容	保育における健康および安全管理② 事故防止及び安全対策			予習	教科書 P122～132 を読む	
			演習 幼児視野体験メガネ・チャイルドマウス作成			復習	安全教育・安全管理についてまとめる	
	第4回	内容	保育における健康および安全管理③ 危機管理と災害の備え/避難訓練・安全教育			予習	教科書 P132～137 を読む 避難訓練指導案を考えてくる	
			演習 避難訓練			復習	災害時、避難誘導のポイントをまとめる	
	第5回	内容	体調不良や障害が発生した場合の対応 体調不良、傷害①創傷②打撲③出血④火傷			予習	教科書 P138～145 を読む 子どもの保健で学んだバイタルサインについて復習しておく	
			演習 バイタルサイン測定、包帯法、三角巾の使い方			復習	症状についての対応方法をまとめる	
	第6回	内容	小テスト①（第1回～第5回） 感染症の集団発生・予防対策			予習	教科書 P154～166 を読む	
			演習 手洗い、歯磨き（染め出しチェック）			復習	感染症対策ガイドラインを再確認する	
	第7回	内容	応急処置：誤飲・誤嚥、熱中症、溺水、SIDS			予習	教科書 P145～149 を読む	
			演習 背部叩打法 ハイムリック法 与薬方法			復習	演習でのポイントをまとめる	
	第8回	内容	救急処置と蘇生法			予習	教科書 P150～154 を読む	
			演習 心肺蘇生法 AED（ロールプレイング）			復習	演習のポイントについてまとめる	
	第9回	内容	個別的な配慮を要する子どもへの対応			予習	教科書 P173～183 を読む	
			演習 車椅子介助法 エビペン			復習	発達障害の支援方法についてまとめる	
	第10回	内容	病児保育 保育における保健的対応の基本的考え方			予習	教科書 P166～171 を読む	
			映像学習 病後児保育室の一日・グループ討議			復習	病児保育のポイントについてまとめる	
	第11回	内容	3歳未満児への対応			予習	教科書 P121、P171～173 を読む	
			演習 オムツ交換、抱っこ・おんぶ			復習	3歳未満児の発育・発達についてまとめる	
	第12回	内容	演習 沐浴			予習	教科書 P173～175 を読む	
			提出 身体計測と評価 ※母子健康手帳の確認			復習	3歳未満児の発育・発達についてまとめる	
	第13回	内容	小テスト②（第7～第11回） 保育者間の連携・協同、協同と組織の取り組み 事故防止・ヒヤリハット記録・グループ討議（事例検討）			予習	教科書 P184～189 を読む	
						復習	保育者間の連携のポイントについてまとめる	
	第14回	内容	保育における保健活動の計画と評価			予習	教科書 P189～193 を読む	
			提出 保健だより作成			復習	自分の誕生月の保健だよりを作成する	
	第15回	内容	母子保健・地域保健の計画と評価			予習	教科書 P193～202 を読む	
			家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携			復習	居住区の保健関係専門機関を調べる	

	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。
課題へのフィードバック	レポート・課題は採点后、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 実技または筆記試験（ 70%）、レポート・課題（ 20%）、授業態度【演習：積極性、身だしなみ】（ 10 %）
教科書	『子どもの保健 健康と安全』（岩田力・細井香、光生館）
参考文献	『これならわかる！子どもの保健演習ノート』（小林美由紀、診断と治療社）
注意事項	1、演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、髪をまとめ、爪は短くするなどの身だしなみを整える。 2、演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価する。 3、主にグループ毎での活動となるため、演習がスムーズ行くように自分の役割を考え積極的に行動する。

科目名	特別支援教育論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	あだち けいこ 安達 敬子
ナバリングコード	SNE22201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	障害児保育に至る歴史の変遷、理念や意義を紹介し、「特別支援教育」に関する基礎的知識・理解を深める。多様な障害種の事例にふれ、自ら具体的な支援を発見できるような学習を展開する。その中で、障害のある子どもたちと「ともに生きる」誠実な姿勢や「特別とは？」を考察する。最新データや絵本等を通して子どもを取り巻く現状を知り、すべての子どもの人権を尊重し、成長し続ける保育実践者としてのあり方を学ぶ。							
到達目標	1. 「特別支援教育」の歴史や「障害」に関する考え方を説明できる。(知識・理解) 2. 障害のある子どもの特性を学び、合理的配慮やインクルーシブ保育を理解している。(思考・判断) 3. 子どもや家庭への具体的な支援方法を選択して「個別支援計画」の簡易版を作成できる。(技術・技能) 4. 他機関との連携・協働の事例から、家庭および関係機関への適切な伝達方法を獲得している。(思考・表現)							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1, 4, 5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 「ふつう」と「生きづらさ」のあいだにあるもの 討議	予習	教科書の目次で授業を概観する 教科書 pp.2-17	復習	「ふつう」とは？自らふり返り考えをまとめる	
	第2回	内容	「障がい」の概念と「障害のある子どもの教育・保育」の歴史の変遷 「障がいがある」ということ 発表	予習	障害児保育の歴史の流れを知る pp.20-35	復習	子ども同士の関わりの事例を考える pp.144-168	
	第3回	内容	「インクルーシブ教育・保育」とは「すべての子どもたち」に伝えるということ 討議	予習	平等・公平や差別・偏見の課題を知る pp.36-48	復習	インクルージョンへの考え方を理解する	
	第4回	内容	「知的障害」のある子どもの理解と援助 「ゆっくり育つ」ということ	予習	知的障害の子どもの特性を調べる pp.73-88	復習	知的障害の子どもへの支援方法を整理する	
	第5回	内容	「自閉症スペクトラム障害」のある子どもの理解と援助 「僕が跳びはねる理由」を超えて	予習	発達障害の子どもの特性を調べる pp.92-101	復習	「跳びはねる理由」と「超えて」を省察する	
	第6回	内容	「注意欠陥・多動性障害」のある子どもの理解と援助 「ありのまま」を受けとめ深めるということ	予習	注意欠如・多動症の特徴を調べる pp.102-112	復習	「ありのまま」を「深める」意味を考える	
	第7回	内容	「学習障害」のある子どもの理解と援助 「学べない」のではなく「学び方がちがう」ということ	予習	学習障害の3つの分類を調べる pp.106-107	復習	「努力している姿」を事例から読み取る	
	第8回	内容	「言語障害」のある子どもの理解と援助 「共感する」ということ	予習	言語障害の分類と特徴を調べる pp.64-71	復習	子どもの心理的側面から支援を整理する	
	第9回	内容	「視覚障害」のある子どもの理解と援助 「みる」ということと「さわる」ということ 発表	予習	視覚障害の子どもの事例を調べる pp.59-63	復習	遊びを拡げる支援の例を考察する pp.68-71	
	第10回	内容	「聴覚障害」のある子どもの理解と援助 「聴く」と「聞こえる」ということ グループワーク	予習	聴覚障害の子どもへの支援を調べる pp.64-71	復習	身体でのコミュニケーションの手段をふり返る	
	第11回	内容	「肢体不自由」のある子どもの理解と援助 「自ら立つ」ということ	予習	肢体不自由と身体障害について調べる pp.50-59	復習	「自ら立つ」意味と支援方法を考える pp.68-71	
	第12回	内容	「病弱・身体虚弱」の子どもの理解と援助 「子どもからのメッセージ」をどう受けとめるか 発表	予習	病気の種類や公害の人的被害を調べる pp.68-71	復習	ケアの視点について考えをまとめる pp.208-242	
	第13回	内容	「新たな教育的ニーズ」のある子どもの教育・保育の実際 「声なき声」を社会全体で考えるということ	予習	貧困や虐待、外国にルーツのある子どもを知る	復習	障害の社会モデルについて整理する pp.243-255	
	第14回	内容	「家庭及び自治体・関係機関」との連携・協働 書きとめて「省察する」ということ	予習	記録する目的とその意義を検討する pp.114-143	復習	「個別指導計画」の下書きを作る pp.170-206	
	第15回	内容	「教育・保育の支援」にかかわる現状と課題 「ともに生きる」ということ グループディスカッション	予習	特別支援の子どもの就学後を調べる pp.208-242	復習	「特別」とは？保育の現状と課題をまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テスト（リアクションペーパー）等に記述された意見・感想・質問については、次時のスライド・プリント資料にて紹介 授業の「ふりかえり」にて解説し、フィードバック							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（60%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（5%）、授業態度【積極的参加】（5%）							
教科書	『障害児保育……子どもとともに成長する保育者を目指して……』（藤永保監修、萌文書林）							
参考文献	『障害とバリアフリー 子どもブックガイド』（障害と本の研究会編、かもがわ出版） 授業で、資料になる文献、絵本等を紹介							
補足事項	毎回、小テスト（リアクションペーパー）を行い、レポート・課題として評価 その他2～3回、授業のテーマに関連した課題を提出							

科目名	子育て支援		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	たなか てるゆき 田中 輝幸
ナバリングコード	SWS22202		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	地域における「子育て支援」の基幹施設としての保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の機能と役割について理解し、保育士が行う子育て支援のあり方について検討する。保育士が行う保護者に対する情報提供と相談及び助言等の支援の特性と展開を具体的に学び、様々な場面に即した支援の内容と方法及び技術を実践事例を通して具体的に理解することを目的とする。							
到達目標	1. 子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解している。 2. 様々な場面、対象に即した支援内容と方法・技術について、実践事例等を通して具体的に理解している。 3. 保育士が行う保育の専門性を理解し、多角的な視点を持った保育について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1, 3, 4 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援とは	予習	シラバスを読む。	復習	保育所保育指針解説の「子育て支援」を読む。	
	第2回	内容	子育て支援の意義	予習	実践実例 1-1「子育てへの悩みがあるかどうか、不明な保護者」を読む。	復習	子育て支援の意義についてまとめる。	
	第3回	内容	子育て支援の基本	予習	保育所保育指針（総則）を読む。	復習	保育士の倫理綱領についてまとめる。	
	第4回	内容	子育て支援の技術 グループワーク	予習	実践実例 1-1「感情が読み取りづらくて、話しかけづらい…」を読む。	復習	保護者に対する支援技術についてまとめる。	
	第5回	内容	保育士の日常と子育て支援	予習	実践実例 1-1「サチコ先生の1日と子育て支援」を読む。	復習	保育士の日常についてまとめる。	
	第6回	内容	園内での職員連携 ロールプレイ	予習	「保育カンファレンス」について調べる。	復習	園内のネットワークづくりについてまとめる。	
	第7回	内容	子どもの育ちを保護者に伝える方法とその効果 グループワーク	予習	「ドキュメンテーション」について調べる。	復習	子どもの育ちを伝える方法についてまとめる。	
	第8回	内容	保護者参加の方法とその効果 ロールプレイ	予習	「保育参加」について調べる。	復習	保護者の参加方法についてまとめる。	
	第9回	内容	地域の社会資源の活用と連携	予習	居住地の社会資源について調べる。	復習	地域の社会資源の連携についてまとめる。	
	第10回	内容	子ども虐待への対応と家庭への支援	予習	「児童虐待防止法」について調べる。	復習	虐待に対する保育士の役割についてまとめる。	
	第11回	内容	障害のある子どもとその家庭への支援	予習	「障害受容」について調べる。	復習	障害のある子どもの支援についてまとめる。	
	第12回	内容	貧困家庭への支援	予習	「子どもの貧困率」について調べる。	復習	貧困家庭への支援についてまとめる。	
	第13回	内容	外国につながる子どもをもつ家庭への支援 グループディスカッション	予習	「外国につながる子ども」について調べる。	復習	外国につながる子どもの支援についてまとめる。	
	第14回	内容	地域の子育て家庭に向けた支援	予習	「園庭開放」について調べる。	復習	地域の子育て支援拠点事業についてまとめる。	
	第15回	内容	子育て支援の今後に向けて グループディスカッション	予習	実践実例 1-1「コウタくんの家庭をきっかけに…」を読む。	復習	子育て支援の今後についてまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業の中で提出課題の解説及び講評をする。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）%、レポート・課題（40%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加】（20%）							
教科書	『新・子育て支援』（松井剛太、教育情報出版）							
参考文献	『保育者のための子育て支援ガイドブック』（武田信子、中央法規出版）							
補足事項	毎回、講義の最後に、双方向アンケート（シャトルカードの記入）を行い、講義の質問に対するフィードバックを行います。							

科目名	健康（指導法）		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナバリンクコード	CHS22101		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いを理解し、子どもの心と体の育ちを支える保育者として必要な専門知識・技術を修得する。子どもが健康で安全な生活を営むために必要な指導・援助、子ども自身が安全能力を育むための適切な指導・援助を学ぶとともに、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と保育者の役割を考える。							
到達目標	1. 幼児の発育・発達と運動の意義を理解し、適切な遊びを展開、指導することができる。 2. 安全な生活と怪我や病気を予防するために必要な知識をもち適切に援助することができる。 3. 指導計画の立案、模擬保育の実践を通して保育者に必要な視点を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1、2 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 乳児保育の3つの視点と健康	予習	P115～122 健康に関わる基礎知識のところを読んでおく			
				復習	乳幼児期の健康の意義と重要性をまとめる			
	第2回	内容	1歳以上3歳児未満の領域『健康』 3歳以上の領域『健康』	予習	p122～130をよく読み1年次に履修した「健康」ノートを確認する。			
				復習	子どもたちの健やかな心と体の成長につなげるための保育者の「在り方」について考える			
	第3回	内容	保幼小の連携・接続 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり	予習	P133の幼稚園要領を熟読してくる			
				復習	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿のそれぞれの項目について、具体例を考えてまとめておく			
	第4回	内容	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助	予習	P141～145を読んで、自分の健康を守る環境構成について考える			
				復習	健康と生活習慣の関連性についてまとめる			
	第5回	内容	健康管理と安全能力を育む援助	予習	P146～150 保育実践に生かす安全能力の育成を熟読しておく 保育現場で起こりうるケガや病気にはどのようなものがあるか考える			
				復習	子どもの事故事例について調べる ケガや病気について園でできることをまとめる			
	第6回	内容	運動遊びや生活の中の多様な動きお経験を促す援助	予習	P150～154を読み、自分の幼少期の遊びを思い出し、家族と話す			
				復習	ネイチャーゲームについて調べる			
	第7回	内容	小テスト（第1回～第6回） 領域『健康』の指導計画と評価	予習	P157～166を熟読してくる			
				復習	これまでの授業ポイントを振り返る			
	第8回	内容	発表方法、態度について考える 実習レポート配布	予習	安全教育関係の教材について調べてくる			
復習				指導計画をまとめ、模擬保育の準備を行う				
第9回	内容	グループ分け グループワーク①模擬保育の立案	予習	テーマに沿った指導計画を立ててくる				
			復習	模擬授業についてのポイントをまとめる				
第10回	内容	グループワーク②	予習	模擬保育の配慮点をまとめてくる				
			復習	模擬授業についてのポイントをまとめる				
第11回	内容	グループワーク③	予習	模擬保育の配慮点をまとめてくる				
			復習	模擬授業についてのポイントをまとめる				
第12回	内容	グループワーク④	予習	模擬保育の配慮点をまとめてくる				
			復習	模擬保育のリハーサルをする				
第13回	内容	発表①	予習	発表のための準備を行う				
			復習	発表の振り返り・評価				
第14回	内容	発表②	予習	発表のための準備を行う				
			復習	発表の振り返り・評価				
第15回	内容	まとめ	予習	「健康指導法」を学んで、今後の保育活動にどのように活かしていきたいかレポートにまとめてくる				
			復習	子どもの健康を守るために必要な保育者の役割についてまとめる				
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								

課題へのフィードバック	小テストにより理解度を確認し、解説を行いフィードバックする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（10%）、発表（20%）授業態度【積極性、協働性】（20%）
教科書	『子どもの姿からはじめる領域・健康』 秋田喜代美他、(株)みらい
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド本社） 必要に応じて随時紹介する
補足事項	幼稚園教諭二種免許と保育士資格に必須の科目です。1年次に履修した「健康」をベースにすすめます。必要に応じて資料を配布します。（Google Classroom に事前に配布する場合もある）指示に従って確認してください。グループワークも含む演習科目です。積極的に取り組んでください。

科目名	人間関係（指導法）		単位数	1	授業時間数	30	担当教員 いまい ゆみ 今井 由美
ナバリングコード	CHS22102		授業形態	演習	実務経験		
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を学び、乳幼児期における人間関係を育てていくなかでの指導や援助のあり方を考えていく。さまざまな事例の検討やロールプレイングを通して、具体的な保育の構想や方法を身につけることにより保育実践力の向上を目指す。						
到達目標	1. 領域「人間関係」を理解している 2. 乳幼児期の人間関係の育ちのための役割や援助方法を身につけている 3. 領域「人間関係」に関わる指導場面を想定した保育を構想する力を身につけている						
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1, 2, 4 ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション / 人間関係を指導するとは	予習	人間関係を指導することのイメージをしておく		
				復習	人間関係を指導することについて理解する		
	第2回	内容	要領や指針に「人間関係」がある意義	予習	なぜ「人間関係」があるのかを考えておく		
				復習	「人間関係」があることを説明できる		
	第3回	内容	乳児保育に関わるねらい及び内容	予習	ねらい及び内容（乳児）を読んでおく		
				復習	要領や指針を通して乳児の人間関係を理解する		
	第4回	内容	領域「人間関係」のねらい及び内容（1,2歳児）	予習	領域「人間関係」（1,2歳児）を読んでおく		
				復習	要領や指針から2歳までの人間関係を整理する		
	第5回	内容	領域「人間関係」のねらい及び内容（3歳児以上）	予習	領域「人間関係」（3歳児以上）を読んでおく		
				復習	領域「人間関係」を理解する		
	第6回	内容	遊びや生活の中で育つ人間関係① 子ども主体・主体的保育	予習	子ども主体の保育をイメージしておく		
				復習	主体的保育について整理する		
	第7回	内容	遊びや生活の中で育つ人間関係② 他領域との関連	予習	5領域を調べておく		
				復習	領域間の関連性を理解する		
	第8回	内容	遊びや生活の中で育つ人間関係③ 思いやり	予習	乳幼児の思いやり場面をイメージする		
				復習	年齢毎の思いやりの習得について整理する		
第9回	内容	遊びや生活の中で育つ人間関係④ 道徳性	予習	乳幼児の道徳的場面をイメージしておく			
			復習	指導や援助のあり方を整理する			
第10回	内容	保育者としての役割① 子ども同士をつなげる	予習	人間関係が広がる援助方法をイメージする			
			復習	事例から人間関係が広がる様子を整理しておく			
第11回	内容	保育者としての役割② 気になる子との関わり	予習	どんな子が気になる子なのかを考えておく			
			復習	気になる子への考え方や対応を理解する			
第12回	内容	保育者としての役割③ 保護者との関わり（ロールプレイング）	予習	保護者対応をイメージしておく			
			復習	ロールプレイングの内容を整理する			
第13回	内容	保育者としての役割④ 保育者同士の関わり	予習	保育者同士の関わりをイメージしておく			
			復習	保育者同士で構築される関係性を理解する			
第14回	内容	保育者としての役割⑤ 地域や社会との関わり	予習	地域との関わり方を調べておく			
			復習	地域や社会と関わる必要性や重要性を理解する			
第15回	内容	領域「人間関係」における今日的課題	予習	これまでを振り返り自身の学びを確認しておく			
			復習	領域「人間関係」の理解を深める			
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。						
課題へのフィードバック	課題・小テストは、添削して返却し、解説を行う。 ロールプレイングは、発表後に講評を行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（40%）、レポート・課題（30%）、授業態度【積極的参加】（30%）						
教科書	なし						
参考文献	『保育所保育指針』（厚生労働省） 『幼稚園教育要領』（文部科学省） 『人間関係』（高杉自子・岸井慶子、東京書籍） 『事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』（無藤隆・岩立京子、萌文書林）						
補足事項							

科目名	環境（指導法）		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	なかむら よういち 中村 陽一
ナバリングコード	CHS12206		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	「環境」で学んだ、幼児と環境とかかわりに関する学びと、幼稚園教育実習（前期）の体験の上に、実例に基づき、領域「環境」の「目的」「ねらい」「内容」の理解を深める。さらに、領域「環境」にかかわる具体的な指導場面を想定した指導方法を身につける。課題に応じて、グループを作り討論や発表を行う。							
到達目標	1. 「幼稚園教育要領」に示された「環境を通じた保育」の意義と、保育者に求められる援助について、具体的指導法を示すことができる。 2. 「環境を通じた保育」の意義と、保育者の援助について、具体例を挙げて自分の考えを述べることができる。 3. 領域「環境」に関わる幼児の自然体験や社会体験と、小学校教育の生活科への連続性について理解している。 4. 子どもの自然体験を深めるための、子どもの発達を見据えた長期的計画の重要性を理解しており、大まかな計画を示すことができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1.2.3.5） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり。「環境」の復習。	予習	幼稚園教育要領 保育内容「環境」を読む。	復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認。	
	第2回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室）。 グループ討論と発表。	予習	教科書9pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
				予習	教科書25pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	第3回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（園舎）。 グループ討論と発表。	予習	教科書41pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
				予習	教科書59pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
	第4回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。 グループ討論と発表。	予習	教科書59pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
				予習	教科書59pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。	
	第5回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境 グループ討論と発表。	予習	実習で体験した動物飼育についてまとめる。	復習	グループ討論のまとめ。	
				予習	教科書41pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	第6回	内容	子どもの生活と自然環境②－季節感と取り入れた保育 グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。	
				予習	教科書75pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	第7回	内容	子どもの生活と自然環境③－飼育動物の特徴と配慮 グループ討論と発表。	予習	実習で体験した子どもの数体験について。	復習	グループ討論のまとめ。	
				予習	教科書91pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。	
	第8回	内容	子どもの生活と社会①－施設との関わり グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。	
				予習	教科書75pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。	
	第9回	内容	子どもの生活と社会環境②－伝統的な行事との関わり グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。	
予習				教科書75pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。		
第10回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数 グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。		
			予習	教科書91pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。		
第11回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と文字 グループ討論と発表。	予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。		
			予習	教科書75pの演習課題3	復習	グループ討論のまとめ。		
第12回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながり グループ討論と発表。	予習	教科書109pの演習課題1	復習	グループ討論のまとめ。		
			予習	教科書109pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。		
第13回	内容	小学校教育への連続性－「環境」と「生活科」「総合学習」 グループ討論と発表。	予習	教科書109pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。		
			予習	教科書109pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。		
第14回	内容	授業の振り返りとまとめ。 グループ討論と発表	予習	教科書109pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。		
			予習	教科書109pの演習課題2	復習	グループ討論のまとめ。		
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（80％）、作品・発表（ ）％、実技（ ）％、授業態度【積極的参加等】（20％）							
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社） 『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）							
参考文献	なし							
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。							

補足事項	必要に応じて、授業の終わりに小レポートを提出する。
------	---------------------------

科目名	言葉（指導法）	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はまな なな 浜名 那奈
ナバリングコード	CHS22104	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	保育者は、①言葉で気持ちを表現する力、②相手の話す言葉を聞く力、③言葉の楽しさや美しさに気づく力、の3つがバランスよく養われるよう、子どもの言葉の発達を促していきたい。この授業では、子どもの発達に合わせ、豊かな言葉を育むための活動を構想する力、および活動に活かせる技術を身につけることをねらいとする。						
到達目標	1. 乳幼児の言葉の発達を理解している。 2. 乳幼児の言葉の発達を促すための援助や活動ができる。 3. 乳幼児のお手本として、自らが言葉を意識し、大切にすることができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1,2,3,4 ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	領域「言葉」の内容確認	予習	前期の授業「言葉」で学んだことをふり返る。		
				復習	領域「言葉」のねらいや用語を確認する。		
	第2回	内容	科学絵本からの主活動	予習	科学絵本とは何か、調べておく。		
				復習	科学絵本を探し、読んでみる。		
	第3回	内容	発表：科学絵本の紹介	予習	主活動につなげられる科学絵本を選ぶ。		
				復習	クラスメイトの紹介した科学絵本を読む。		
	第4回	内容	絵本の読み聞かせからの主活動	予習	絵本の読み聞かせと主活動の関係を考える。		
				復習	絵本の活動からつなげる主活動を考える。		
	第5回	内容	発表：活動につなげる絵本の紹介	予習	主活動につなげられる絵本を選ぶ。		
				復習	クラスメイトの紹介した絵本を読む。		
	第6回	内容	野菜と果物の主活動（グループワーク）	予習	野菜と果物の違いを考えておく。		
				復習	野菜と果物に関するクイズを考える。		
	第7回	内容	実習に向けた読み聞かせの指導案の書き方と実践練習（グループワーク）	予習	児童文化で学んだ実践のポイントをふり返る。		
				復習	授業で得たことをもとに作品を選び練習する。		
	第8回	内容	実習に向けた紙芝居の指導案の書き方と実践練習（グループワーク）	予習	児童文化で学んだ実演のポイントをふり返る。		
				復習	授業で得たことをもとに作品を選び練習する。		
	第9回	内容	実習園で行われていた領域「言葉」の実践をふり返る	予習	実習園での領域「言葉」の実践をふり返る。		
				復習	他園での実践例についてまとめる。		
	第10回	内容	ストーリーテリングの覚え方	予習	ストーリーテリングしたいお話を選んでおく。		
				復習	選んだお話の構造を分析し、内容を覚える。		
	第11回	内容	紙皿シアターを作ろう	予習	紙皿シアターとは何か調べる。		
				復習	紙皿シアターをさらに複数組制作する。		
	第12回	内容	言葉遊び	予習	言葉遊びには何かがあるか調べておく。		
				復習	自分でも言葉遊びを作ってみる。		
	第13回	内容	発表：ストーリーテリング①	予習	発表の準備をする。		
				復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。		
	第14回	内容	発表：ストーリーテリング②	予習	発表の準備をする。		
				復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。		
	第15回	内容	発表：ストーリーテリング③	予習	発表の準備をする。		
				復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。		
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	発表に対して講評する。 小テストについて解説を行い、リフレクション・ペーパーにコメントを付す。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない ※必要に応じて、ふり返りの小テストを行う。 成績評価の方法： 作品・発表（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）						
教科書	なし						
参考文献	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）※一年次の「児童文化」の授業で使用した教科書 その他については、配布プリントで、その都度紹介する。						
補足事項	毎回プリントを配布するので、収納できるよう、A4サイズのファイルを用意すること。 発表の準備をすること。						

科目名	造形表現（指導法）		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	たけだ まりえ 武田 真理恵
ナンバリングコード	CHS22105		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	<p>幼児期の造形表現とその指導法について、テキスト、資料からだけではなく、実際に保育現場で用いる多様な教材や用具に触れ、表現や指導を体験することから学ぶ。</p> <p>幼児の成長に合わせた造形表現活動や遊びを通して豊かな感性を育む道筋を学ぶ。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 制作活動を主体的に取り組み、自分らしい造形表現ができる</li> <li>2. 基礎的知識や技能をもとに多様に活用できる力と自信を身につけている</li> <li>3. 幼児の造形表現指導に必要な伝わりやすい指導法を身につけている</li> <li>4. 子供の発達に応じた表現活動の行動計画を考え構成できる</li> </ol>							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1245 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 造形表現（指導法）の取り組みについて			予習	シラバスを読んでおく	
						復習	授業内容、通年課題を理解する	
	第2回	内容	描く-1 技法を楽しむ クレヨンと絵の具			予習	クレヨン・絵の具について調べる	
						復習	技法について理解を深める / 折り紙	
	第3回	内容	立体-1 生活素材で手作りおもちゃを作る			予習	手作りおもちゃについて調べる	
						復習	おもちゃについて理解を深める / 折り紙	
	第4回	内容	立体-2 楽器を作る			予習	作品イメージを決めておく	
						復習	作品を完成させる / 折り紙	
	第5回	内容	感性・イメージを豊かにする-1 ひかりと遊ぶ			予習	ひかりについて調べる	
						復習	光を使った他の活動を考える / 折り紙	
	第6回	内容	遊びを豊かにする-1 人形遊びについて（ペープサート1）			予習	作品イメージを決めておく	
						復習	作品が仕上がる為に準備する / 折り紙	
	第7回	内容	人形遊びについて（ペープサート2）			予習	人形遊びについて調べる	
						復習	人形遊びについて理解を深める / 折り紙	
	第8回	内容	遊びを豊かにする-2 生活とあそびについて（ままごとあそび）			予習	作品イメージを決めておく	
						復習	ままごとあそびを深める / 折り紙	
第9回	内容	感性・イメージを豊かにする-2 自然物を使った製作 落ち葉のアート他			予習	落ち葉を拾いに行く		
					復習	自然物に興味を持つ / 折り紙		
第10回	内容	編む・織る 毛糸であそぶ（機織り1）			予習	編む・織るについて調べる		
					復習	編む・織るについて理解を深める / 折り紙		
第11回	内容	毛糸であそぶ（機織り2）			予習	作品が仕上がる為に準備をする		
					復習	作品を仕上げる / 折り紙		
第12回	内容	環境・行動を豊かにする-1 子供とつくる壁面構成1 グループワーク			予習	壁面構成について理解を深める / 折り紙		
					復習	作品イメージを話し合う		
第13回	内容	子供とつくる壁面構成2 グループワーク ※折り紙課題提出			予習	折り紙課題提出の準備をする		
					復習	壁面構成について理解を深める / 折り紙		
第14回	内容	遊びを豊かにする造形表現活動 指導計画をつくる			予習	指導計画の準備をする		
					復習	指導計画について理解を深める		
第15回	内容	造形表現指導実践（模擬演習）とフィードバック			予習	手作りおもちゃの指導法について調べる		
					復習	自分なりの指導法を考える/授業振り返り		
予習に要する学習時間：概ね 20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 25分を目安とする。								
課題へのフィードバック	作成した作品（随時、発表）やレポートにコメントを行う。 課題提出のフィードバック（10回目あたり）							
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する / （ ○ ）しない</p> <p>成績評価の方法： レポート（20%）、課題（20%）、作品・発表（40%）、授業態度【積極的参加、忘れ物の有無】（20%）</p>							
教科書	なし							
参考文献	<p>「クレヨンからはじめる幼児の描画指導」（松浦龍子 黎明書房） 「かわいく楽しいペープサート」（井上明美 自由現代社）</p> <p>「実習の日誌と指導案サポートブック」大元千種 ナツメ社</p>							
補足事項								

科目名	音楽・身体表現（指導法）	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はせがわ しおさき 長谷川・塩崎
ナバリングコード	CHS22106	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業内容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、ICTを活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいたる保育の構想の重要性を理解している。</li> <li>2. 領域「表現」及び音楽・身体表現の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができている。</li> <li>3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができている。</li> <li>4. 模擬保育とその振り返りを通して、音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育を改善する視点を身に付けている。</li> </ol>						
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1・2 ）文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	本授業の概要 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	テキストの指導篇を読んでくる。		
				復習	模擬保育で行いたい内容について決めてくる		
	第2回	内容	指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	行いたい活動内容についての指導の流れを考えてくる		
				復習	指導案を完成させる。		
	第3回	内容	豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉かけ・問いかけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案を見ながら言葉かけについて考える		
				復習	指導の言葉かけシートを書き上げてくる		
	第4回	内容	保育活動における保育者の動き、言葉かけ、太鼓の叩き方などについて実践的に学ぶ。	予習	模擬保育で使用する準備物などを用意する		
				復習	実際の保育活動をイメージしてリハーサルを行う		
	第5回	内容	生活を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う		
				復習	指導実践後の振り返りを Google フォームへ記入する。		
	第6回	内容	絵本や架空の世界を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	身体表現遊びで活用できる絵本を探す		
				復習	本時の指導実践の振り返りをフォームに記入する。		
	第7回	内容	自然を題材にした身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	自然を題材にした活動について考えてくる		
				復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる		
	第8回	内容	身体表現遊びの意義についてグループディスカッションし、指導法において重要な点についてまとめる	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる		
復習				指導法についてフォームへまとめ、提出する			
第9回	内容	音楽教育の理論および保育における音楽指導の基礎を学び、その意義について理解を深める。	予習	1年後期の授業のプリントを読んでくる			
			復習	本時の内容をノートにまとめ、保育における音楽表現の重要性について記述する			
第10回	内容	音楽指導におけるねらいの観点を理解し、達成するための指導方法を学ぶ。	予習	音楽指導の意義をふまえ、どのようなねらいが設定できるか調べる			
			復習	本時の内容をノートにまとめ、音楽活動を想定してねらいを立ててみる			
第11回	内容	音楽教育の意義と音楽指導のねらいをふまえ、幼児期の発達段階をふまえた指導を計画し、指導案を作成する。	予習	幼児期の発達段階について理解し、各年齢に即した題材を考える			
			復習	指導案を完成させ、シミュレーションをする			
第12回	内容	指導案をもとに3歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	3歳児の音楽表現について理解しておく			
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、3歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
第13回	内容	指導案をもとに4歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	4歳児の音楽表現について理解しておく			
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、4歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
第14回	内容	指導案をもとに5歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	5歳児の音楽表現について理解しておく			
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、5歳児の音楽指導案をノートにまとめる			
第15回	内容	歌唱による鑑賞活動の模擬保育を行い、子どもに音楽表現を	予習	子どもの各年齢に適した歌唱による鑑賞教材を検討し、提示の仕方を考える			

		伝える技術について検討する。	復習	模擬保育をふまえ、子どもへの歌唱表現の提示法の要点をノートにまとめる
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題返却時に評価及び課題点を記入する。 模擬保育については、仲間からの評価、教員からの評価を担当学生へフィードバックする。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ %）、レポート・課題（40%）、発表（40%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加、協働的な取り組み】（10%）			
教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎） 『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび からだとところを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）			
参考文献				
補足事項	身体表現の授業では、原則学校指定のジャージを着用して出席すること。 塩崎：15回、長谷川：15回 身体表現模擬保育ループリック評価表 <a href="https://drive.google.com/file/d/1XLgVxc8nPOU-dxn_qRdFrkw9EYs00ufK/view?usp=sharing">https://drive.google.com/file/d/1XLgVxc8nPOU-dxn_qRdFrkw9EYs00ufK/view?usp=sharing</a> 音楽表現模擬保育ループリック評価表 <a href="https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1aQuPrNHfCJ1rIU00E9ENDyXsQUwr2i0">https://drive.google.com/drive/u/2/folders/1aQuPrNHfCJ1rIU00E9ENDyXsQUwr2i0</a>			

科目名	健康		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はしもと みた 橋本・味田
ナバリングコード	CHS22108		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	健康な心と体を育くみ、子ども自らが健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」のねらいと内容を理解し、健康の指導に必要な知識と技能を身につける。具体的には、身体諸機能の発達、生活を通じた基本的な生活習慣の形成、乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、科学的根拠に基づく知識から、安全な生活および怪我や病気の予防、個々の発育・発達に即した適切な援助に必要な知識と技能を修得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康に関する基礎知識を修得し子どもの健康課題と健康の発達の意味を理解し適切に説明することができる。</li> <li>2. 乳幼児期の心と体の発育・発達と生活習慣の形成を理解し、健康教育に必要な知識を身につけている。</li> <li>3. 乳幼児期の運動機能の発達と意義、遊びを通して心と体を育む重要性を理解し説明することができる。</li> <li>4. 安全な生活と怪我や病気の予防等の安全教育について理解し、適切に説明することができる。</li> </ol>							
学位授与方針	地域保育学科（1・2）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション			予習	「健康」とは何か調べてくる	
			子どもの「姿」は未来を示す鏡 幼児教育・保育の基本からみた「資質・能力」の育成			復習	「健康」のねらい及び内容についてまとめる	
	第2回	内容	健康の定義			予習	「健康」の定義を調べてくる	
			近年の子どもたちの健康の実態と課題			復習	成人と子どもの健康の違いを考える	
	第3回	内容	乳幼児の身体の成長（身体・体重・体格の変化）			予習	テキスト p54-64 を読んでくる	
			生理的な機能の発達			復習	基本的欲求についてまとめる	
	第4回	内容	脳の機能と感覚の発達			予習	テキスト p64-69 を読んでくる	
			心の発達として情緒や社会性を育む 発達の基準・粗大運動と微細運動			復習	運動発達の特徴についてまとめる	
	第5回	内容	振り返り小テスト（第1回～第4回）			予習	テキスト p 48-51 を読んでくる	
			幼児期までに育ってほしい「健康な心と体」			復習	幼児期までに育ってほしい10の姿についてまとめておく	
	第6回	内容	乳幼児の基本的な生活（年齢区分）とねらい			予習	テキスト p 106-107 熟読しておく	
						復習	年齢ごとのねらいをまとめてくる	
	第7回	内容	基本的な生活習慣の獲得とその意義			予習	テキスト P107～110 を熟読しておく	
			乳幼児期の生活習慣（食事・排泄・睡眠・運動）			復習	子どもを取り巻く健康課題を調べてくる	
	第8回	内容	振り返りテスト（第5回～第7回）			予習	1週間分の食事と睡眠時間を記録してくる	
基本的な生活習慣の形成、自立に向けた取り組み グループディスカッション			復習	基本的な生活習慣を獲得することの意義・重要性をまとめてくる				
第9回	内容	乳幼児の運動発達と身体活動（運動遊び）			予習	幼児に適した遊びを考えてくる		
		グループディスカッション・指導計画の立案			復習	グループ発表に必要な指導計画をまとめてくる		
第10回	内容	グループ発表			予習	グループ発表の準備をしてくる		
		振り返り			復習	グループ発表の振り返りをまとめてくる		
第11回	内容	乳幼児の健康と安全①			予習	気になる子どもの食問題を調べまとめてくる		
		食育の推進とアレルギー対応			復習	乳幼児期に必要な食育への配慮をまとめてくる		
第12回	内容	乳幼児の健康と安全②			予習	子どもの事故にはどのようなものがあるか考えてくる		
		事故・けがの発生状況や種類と潜在危険			復習	子どもの事故についてまとめる		
第13回	内容	乳幼児の健康と安全③			予習	自宅における安全対策を家族と話しあう		
		災害時の対応			復習	災害時の対応についてまとめる		
第14回	内容	乳幼児の健康と安全④			予習	子どもの発達段階におけるの安全管理と安全指導の関係性について考えてくる		
		安全保育と健康、感染症と衛生管理			復習	保育現場でのリスク対応についてまとめる		
第15回	内容	振り返り小テスト（第11回～第14回）			予習	なぜ「健康」が必要かレポートにまとめてくる		
		まとめ・保育者に求められること、養成校の学びに求められること			復習	保育者としての役割を果たすために必要な資質についてまとめる		
予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概45分を目安とする。								
課題へのフィードバック	小テストにより理解度を確認し、フィードバックする。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、レポート・課題（10%）、ワーク（10%）、発表（10%）、授業態度【関心、意欲、態度】（20%）							

教科書	『【シリーズ知のゆりかご】子どもの姿からはじめる領域・健康』、秋田喜代美他（株）みらい
参考文献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド本社） 『健康の指導法』（宮崎豊・田澤里喜 編、玉川大学出版部）
補足事項	保育内容を学ぶ上での基礎であり、グループワーク（グループディスカッション等）を含む演習科目です。積極的な姿勢で取り組んで下さい。 Google Classroomを活用した小テストも実施します。 担当教員：橋本7回、味田10回ですが、そのうち2回は二人で行います。

科目名	人間関係		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	いまい あきやま 今井・秋山
ナンバリングコード	CHS22109		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	現代社会における諸問題を踏まえ、乳幼児の人間関係の育ちの基本や目的について理解し、乳幼児教育で保障すべき内容に関する知識を身につける。領域「人間関係」の指導基盤となるよう関係論的発達過程についても学び、他者や集団を通して人と関わる力が育つことを理解する。							
到達目標	1. 乳幼児の人間関係における現代的課題を理解している 2. 乳幼児の人間関係の発達について理解している 3. 乳幼児の人間関係を育むための知識を身につけている							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1, 4 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション / 人間関係を学ぶとは	予習	自身の人間関係を振り返っておく			
				復習	人間関係を学ぶ目的を理解する			
	第2回	内容	現代社会における保育と人間関係	予習	現代社会における諸問題を調べておく			
				復習	現代社会における人間関係の課題を整理する			
	第3回	内容	人間関係からみる乳幼児教育の基本	予習	乳幼児の生活をイメージしておく			
				復習	保育における人間関係の広がりを理解する			
	第4回	内容	人間関係からみる発達過程① 乳児	予習	乳児の発達過程を調べておく			
				復習	乳児の発達過程を整理する			
	第5回	内容	人間関係からみる発達過程② 幼児	予習	幼児の発達過程を調べておく			
				復習	乳幼児の発達過程を整理し理解する			
	第6回	内容	遊びの中での人との関わり① 遊びの広がり	予習	乳幼児の遊びをイメージしておく			
				復習	遊びながら学ぶことを理解する			
	第7回	内容	遊びの中での人との関わり② 遊びと人間関係	予習	遊びから生まれる人間関係を考えておく			
				復習	遊びながら人と関わる力が育つことを理解する			
	第8回	内容	遊びの中での人との関わり③ 遊びと援助支援	予習	乳幼児の遊びへの関わり方をイメージしておく			
				復習	人間関係を育むための援助方法を整理する			
第9回	内容	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿	予習	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を調べる				
			復習	指針や要領を踏まえながら整理する				
第10回	内容	幼児期に育みたい資質・能力	予習	幼児期に育みたい資質・能力を調べておく				
			復習	小学校との連携を考えながら理解する				
第11回	内容	人との関わりの基盤① 自立心の育ち	予習	保育でみられる自立場面をイメージしておく				
			復習	人間関係を通して自立心が育つことを理解する				
第12回	内容	人との関わりの基盤② 協同性の育ち（グループワーク）	予習	保育でみられる協同場面をイメージしておく				
			復習	グループワークの内容を整理する				
第13回	内容	人との関わりの基盤③ 道徳性・規範意識	予習	幼児にとっての道徳性・規範意識を調べておく				
			復習	人間関係を通しての道徳性の育ちを理解する				
第14回	内容	保育者としての役割① 家庭や社会との関わり	予習	家庭との関わりをイメージする				
			復習	家庭との関わりを必要性を理解する				
第15回	内容	保育者としての役割② 小学校との関わり	予習	小学校での生活をイメージする				
			復習	小学校との連携の重要性を整理する				
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題・小テストは、添削して返却し、解説を行う。 グループワークは、発表後に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（40%）、レポート・課題（30%）、授業態度【積極的参加】（30%）							
教科書	なし							
参考文献	『保育所保育指針』（厚生労働省） 『幼稚園教育要領』（文部科学省） 『人間関係』（高杉自子・岸井慶子、東京書籍） 『事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』（無藤隆・岩立京子、萌文書林）							
補足事項								

科目名	環境	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	ほしのおさむ 星野 治
ナバリングコード	CHS12104	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	子どもは家庭・幼稚園・各種施設（保育所、児童館、その他）・地域社会などの「環境」の中で生活し、その生活体験を通して、豊かな心情・思考力や想像力・意欲や態度などに代表される人格形成の基礎が培われる。この授業は、幼稚園教育要領等にて提示される五つの領域の一つ「環境」の内容を学び、もって保育者に求められる援助のありかたについて理解することを目的とする。						
到達目標	1. 子どもの成長にとって望ましい、自然体験と保育者の適切な援助方法とについて理解している。 2. 「環境を通した保育」の意義と保育者の援助とについて、自分の考えを述べることができる。 3. 自然と生命とを尊重する態度を身に付け、子どもに伝えることができる。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1, 2 ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	ガイダンス —授業全体の流れ—	予習	シラバスの内容を理解する。	復習	各自で今後の学習の見通しを立てる。
	第2回	内容	保育内容「環境」について	予習	テキスト(『コンパス 保育内容 環境』。以下同じ。「教科書」欄を参照)の pp. 1～11 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第3回	内容	園内の環境と保育	予習	テキストの pp. 11～26 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第4回	内容	園庭の環境と保育	予習	テキストの pp. 27～43 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第5回	内容	自然環境と保育	予習	テキストの pp. 45～60 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第6回	内容	社会環境と保育	予習	テキストの pp. 61～76 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第7回	内容	文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」(1/2) —保育における文字・数・図形に関する学びの位置付け—	予習	テキストの pp. 77～87 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第8回	内容	文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」(2/2) —文字・数・図形に関する学びの実際—	予習	テキストの pp. 87～92 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第9回	内容	これまでの振り返り(1/2) —学外実習を控えて—	予習	第8回授業までのキーワード全体を確認する。	復習	「環境」の観点から実習への準備を行う。
	第10回	内容	これまでの振り返り(2/2) —学外実習を終えて—	予習	実習中の諸活動を振り返る。	復習	「環境」の観点から実習の内容を整理する。
	第11回	内容	小学校教育との連携と保育内容「環境」(1/2) —小学校教育と保育—	予習	テキストの pp. 93～102 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第12回	内容	小学校教育との連携と保育内容「環境」(2/2) —保育内容「環境」の視点と小学校教育—	予習	テキストの pp. 102～110 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第13回	内容	子育て支援と保育内容「環境」	予習	テキストの pp. 111～121 を読む。	復習	必要なキーワードを確認する。
	第14回	内容	全体の振り返り(1/2) —教科書の内容を中心に—	予習	テキストの pp. 123～126 を読む。	復習	既出のキーワード全体を確認する。
	第15回	内容	全体の振り返り(2/2) —授業全体のまとめ—	予習	テキスト全体を概観する。	復習	今回の学習内容全体をレポートにまとめる。
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroomなどを用いて、課題に対するフィードバックを行う。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（100%）						
教科書	『コンパス 保育内容 環境』（高橋 貴志・目良 秋子編、建帛社） 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社）						
参考文献	なし						
補足事項	必要に応じて、授業終了時にリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。						

科目名	言葉	単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はまな なな 浜名 那奈
ナンバリングコード	CHS22111	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	保育者は、①言葉で気持ちを表現する力、②相手の話す言葉を聞く力、③言葉の楽しさや美しさに気づく力、の3つがバランスよく養われるよう、子どもの言葉の発達を促していきたい。この授業では、子どもの言葉の発達を理解し、子どもの豊かな言葉を育むために保育者としてどのように関わっていくべきかを学ぶ。						
到達目標	1. 言葉の意義や機能を理解している。 2. 乳幼児の言葉の発達を理解している。 3. 乳幼児の言葉の発達を促すため、保育者としてどのように関わっていくべきかを理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1,2,3,4） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	領域「言葉」のねらいと内容	予習	シラバスに目を通しておく。		
				復習	領域「言葉」のねらいをふり返る。		
	第2回	内容	子どもの言葉の発達①：0歳～1歳3か月頃	予習	0～1歳3か月頃の言葉の発達について調べる。		
				復習	0～1歳3か月頃の言葉の発達をまとめる。		
	第3回	内容	保育者の指導・支援①：0歳～1歳3か月頃	予習	保育者がどのように関わるべきか考える。		
				復習	0～1歳3か月頃の子への関わり方をまとめる。		
	第4回	内容	子どもの言葉の発達②：1歳3か月頃～2歳頃	予習	1歳3か月～2歳頃の言葉の発達を調べる。		
				復習	1歳3か月～2歳頃の言葉の発達をまとめる。		
	第5回	内容	保育者の指導・支援②：1歳3か月頃～2歳頃	予習	保育者がどのように関わるべきか考える。		
				復習	子どもの言葉を育てる関わり方をまとめる。		
	第6回	内容	子どもの言葉の発達③：3～6歳頃	予習	3～6歳頃の言葉の発達について調べる。		
				復習	3～6歳頃の言葉の発達についてまとめる。		
	第7回	内容	保育者の指導・支援③：3～6歳頃	予習	保育者がどのように関わるべきか考える。		
				復習	子どもの言葉を育てる関わり方をまとめる。		
	第8回	内容	子どもの言葉と環境（グループワーク→発表）	予習	子どもの言葉を育てる環境とは何か考える。		
				復習	子どもの言葉を育てる環境についてまとめる。		
	第9回	内容	話し言葉と書き言葉（グループワーク→発表）	予習	文字を書きたくなる遊びを考える。		
				復習	文字を書く遊びの指導案を書く練習をする。		
	第10回	内容	ごっこ遊び①（グループワーク→発表）	予習	ごっこ遊びには何があるか考える。		
				復習	ごっこ遊びの指導案を書く練習をする。		
	第11回	内容	ごっこ遊び②（グループワーク→指導案提出）	予習	ごっこ遊びの指導案の続きを考える。		
				復習	ごっこ遊びの指導案を完成させる。		
	第12回	内容	言葉の発達が気になる子どもや保護者への関わり方	予習	言葉の発達の遅れの原因について調べる。		
				復習	授業で学んだことをまとめ、理解を深める。		
	第13回	内容	外国語を母語とする子どもや保護者への関わり方	予習	外国語を母語とする子への対応を考える。		
				復習	授業で学んだことをまとめ、理解を深める。		
	第14回	内容	保育者の言葉	予習	自身の日頃の言葉遣いや日本語力をふり返る。		
				復習	自身の言葉を育むための取り組みを考える。		
	第15回	内容	小学校への接続	予習	保幼小接続の具体的な取り組みを調べる。		
				復習	小学校への接続に役立つ絵本を探し、読む。		
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	小テストについて解説を行い、リフレクションペーパーにコメントを付す。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない ※必要に応じて、ふり返りの小テストを行う。 成績評価の方法： 作品・発表（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）						
教科書	なし						
参考文献	配布プリントで、その都度紹介する。						
補足事項	毎回プリントを配布するので、収納できるよう、A4サイズのファイルを用意すること。						

科目名	造形表現		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	おぐち すぐる 小口 偉
ナバリンコード	CHS22112		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりとお興行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通じた表現について関心、理解を深める。							
到達目標	1. 子どもの造形表現の意義を理解している。 2. 年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容に応じた環境づくりができる。 3. 子どもと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1,2,4 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	素材体験1 紙について 質感で遊ぶ	予習	参考書等の紙の活動に関することを読み込む			
				復習	身近な紙の触り心地を確かめておく			
	第2回	内容	素材体験2 グループワーク 紙について2 空間を使って遊ぶ	予習	遊ぶことは何かノートに書き出し持参する。			
				復習	体験を通して空間を使って遊ぶことは何か自分なりに考え、まとめる。			
	第3回	内容	素材体験3 クレヨン、パスについて理解する	予習	参考書等のクレヨン、パスに関する項目を読み込む。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第4回	内容	素材体験4 グループワーク 粘土に触る	予習	参考書等の粘土に関する記述について読む。			
				復習	体験内容をノートにまとめる。			
	第5回	内容	素材体験5 グループワーク シート系素材を理解する	予習	参考書等のハサミに関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第6回	内容	道具体験1 道具を理解する ハサミについて	予習	参考書等のステープラーに関する記述について、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第7回	内容	道具体験2 道具を理解する ステープラーについて	予習	参考書等の接着に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
	第8回	内容	応用1 構成遊びについて1 色画用紙を使った構成遊び制作を体験する	予習	構成遊びについて調べる。			
				復習	体験内容を記録ノートにまとめる。			
第9回	内容	応用2 構成遊びについて2 与えられたきっかけから画面構成をする1	予習	構成遊びについて調べる。				
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。				
第10回	内容	応用3 構成遊びについて3 与えられたきっかけから画面構成をする2(発表)	予習	構成遊びについて調べ、まとめたノートを持参する。				
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。				
第11回	内容	応用4 様々な技法遊び デカルコマニー/スクラッチの制作体験をする	予習	技法遊びについて5つの種類とその方法を調べ、まとめたものを持参する。				
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。				
第12回	内容	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	予習	参考書の紙立体に関する記述について、ノートにまとめ持参する。				
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。				
第13回	内容	生活素材を使った制作を体験する	予習	造形素材として使用できる可能性のあるものを集めておく。				
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。				
第14回	内容	工作体験をする「動きを楽しむ紙工作」	予習	参考書の紙工作に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する				
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。				
第15回	内容	振り返り ドキュメンテーション作成をする	予習	ドキュメンテーションについて調べ、まとめたノートを持参する。(60分)				
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。								
課題へのフィードバック	各提出課題に対し採点をする。返却の際に保育現場においての実践方法や、注意点を伝える。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（20%）、作品・発表（40%）、授業態度【積極的な取り組み】（40%）							
教科書	『遊んで育て！表現の力-保育で使える活動例と指導法-』（塩崎みづほ 長谷川恭子 小口偉、推敲舎）							
補足事項	作品の出来映えは重視しません。積極的に取り組むこと。 ※ 作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。(1,200円を徴収します。)							

科目名	音楽・身体表現		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はせがわ しおぎ 長谷川・塩崎
ナンバリングコード	CHS22113		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また、ICTを活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。							
到達目標	1. 見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができる。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができる。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができる。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(1・2・4) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	「表現とは」 領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる	復習	本時の内容についてノートにまとめる	
	第2回	内容	「リズムカルなダンス」 リズムカルなダンスの実践と、グループで創作し、発表をする。	予習	教科書43ページを読んでくる。	復習	グループ討議やまとめの内容をノートまとめる	
	第3回	内容	「架空の世界」を題材にした運動会作品の実践と、グループ創作、発表を行う。	予習	宇宙についての導入を考えてくる。	復習	創作過程、発表後の振り返りを行う	
	第4回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ	予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を2つ探してくる	復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる	
	第5回	内容	「絵本と身体表現」 絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる	復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる	
	第6回	内容	「自然と身体表現」 自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ創作・発表、討議をする。発表作品を動画で撮影する。	予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる	復習	本時の発表作品を動画にまとめる。	
	第7回	内容	「生活の中での身体表現」 生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身表現の題材について考えてくる	復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する	
	第8回	内容	「ICTを使った身体表現」 ICTを活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICTの意味について調べ活用方法について考えてくる	復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする	
	第9回	内容	音楽の応用1 多様な音楽表現の方法	予習	授業で指示した資料を確認する	復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする	
	第10回	内容	音楽の応用2 アレンジによる音楽表現の応用	予習	コードネームについて確認する	復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする	
	第11回	内容	音楽表現の展開1 幼児の豊かな表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択	予習	授業で指示した資料を確認する	復習	教材選択の観点について考察し記録する	
	第12回	内容	音楽表現の展開2 童謡を用いた総合的な表現活動の展開	予習	授業で支持した課題に取り組む	復習	経験した総合的な表現活動について記録する	
	第13回	内容	音楽と身体表現の出会い 音と体を使って表現を楽しむ、工夫する	予習	発表の題材について考えてくる	復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる	
	第14回	内容	様々な表現方法を用いて 様々な表現を集めて小作品を創作する	予習	音楽、動きについて考えてくる	復習	発表作品の練習課題についてまとめる	
	第15回	内容	学習のまとめを発表する	予習	発表作品の練習をする	復習	ノートのまとめをし、考察する	
予習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね25分を目安とする。								
課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/ (○)しない 成績評価の方法： レポート・課題(30%)、作品・発表(30%)、実技(20%)、授業態度【積極的参加、出席状況】(20%)							

教科書	『遊んで育て！表現の力ー保育で使える活動例と指導法』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎）
参考文献	『乳幼児・児童の運動あそび・表現あそび からだとところを育む指導法』（宮下恭子編著、大学図書出版）
補足事項	身体表現の授業では、学校指定のジャージを着用のこと。 塩崎（9回）、長谷川（9回）

科目名	音楽 I		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナンバリングコード	EDS22101		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な知識や理論、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を組み合わせた形で行う。ピアノ個人レッスンとクラス授業を各 45 分受講する。							
到達目標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1. 2 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について	予習	事前にシラバスを読んでおく			
				復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく			
	第2回	内容	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 大学ピアノ教本 No. 1～8	予習	大学ピアノ教本 No. 1～8 の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No. 1～8 の復習			
	第3回	内容	分散和音の伴奏形②・③ 大学ピアノ教本 No. 9～16	予習	大学ピアノ教本 No. 9～16 の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No. 9～16 の復習			
	第4回	内容	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 大学ピアノ教本 No. 17～24	予習	大学ピアノ教本 No. 17～24 の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No. 17～24 の復習			
	第5回	内容	ハ長調の下属和音 大学ピアノ教本 No. 25～26	予習	大学ピアノ教本 No. 25～26 の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No. 25～26 の復習			
	第6回	内容	ハ長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本 No. 27～32	予習	大学ピアノ教本 No. 27～32 の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No. 27～32 の復習			
	第7回	内容	ト長調の主和音・下属和音・属和音 大学ピアノ教本 No. 33～38	予習	大学ピアノ教本 No. 33～38 の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No. 33～38 の復習			
	第8回	内容	中間発表会（個人発表） いろいろな伴奏形①～④ 大学ピアノ教本 No. 39～42	予習	大学ピアノ教本 No. 39～42 の予習			
				復習	大学ピアノ教本 No. 39～42 の復習			
第9回	内容	高い音の練習 大学ピアノ教本 No. 43～46	予習	大学ピアノ教本 No. 43～46 の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No. 43～46 の復習				
第10回	内容	3/8 拍子と 6/8 拍子 大学ピアノ教本 No. 47～48 生活のうたの弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No. 47～48 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No. 47～48 他の復習				
第11回	内容	付点 4 分音符を用いたリズム 大学ピアノ教本 No. 49～54 生活のうたの弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No. 49～54 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No. 49～54 他の復習				
第12回	内容	ハ長調の音階 大学ピアノ教本 No. 55～58 生活のうたの弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No. 55～58 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No. 55～58 他の復習				
第13回	内容	ハ長調の音階 大学ピアノ教本 No. 59～61 生活のうたの弾き歌い④	予習	大学ピアノ教本 No. 59～61 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No. 59～61 他の復習				
第14回	内容	ト長調の音階 大学ピアノ教本 No. 62～67 生活のうたの弾き歌い⑤	予習	大学ピアノ教本 No. 62～67 他の予習				
			復習	大学ピアノ教本 No. 62～67 他の復習				
第15回	内容	これまでの授業のまとめと発表	予習	発表曲の予習				
			復習	指導を受けた点を復習する				
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）、作品・発表（30%）、実技（60%）、授業態度〔積極的な取り組み〕（10%）							
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた 100』（小林美実 他、チャイルド本社）							
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。							
補足事項								

科目名	音楽Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナバリングコード	EDS22102		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のための個人レッスンと、楽典をはじめとする音楽に関する基礎的な知識や理論、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を組み合わせた形で行う。ピアノ個人レッスンとクラス授業を各45分受講する。							
到達目標	1. 基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 2. 幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 3. 保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1. 2 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	臨時記号と半音階 大学ピアノ教本 No. 68～69 季節のうた（春）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No. 68～69 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 68～69 他の復習	
	第2回	内容	16分音符を用いたリズム 大学ピアノ教本 No. 70～72 季節のうた（春）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No. 70～72 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 70～72 他の復習	
	第3回	内容	イ短調の主要三和音 大学ピアノ教本 No. 73～76 季節のうた（春）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No. 73～76 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 73～76 他の復習	
	第4回	内容	6度・3度の重音 大学ピアノ教本 No. 77～78 季節のうた（夏）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No. 77～78 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 77～78 他の復習	
	第5回	内容	3連符 大学ピアノ教本 No. 79～80 季節のうた（夏）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No. 79～80 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 79～80 他の復習	
	第6回	内容	へ長調よりハ長調への転調 大学ピアノ教本 No. 81 季節のうた（夏）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No. 81 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 81 他の復習	
	第7回	内容	3度の重音と8度の跳躍 大学ピアノ教本 No. 82 季節のうた（秋）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No. 82 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 82 他の復習	
	第8回	内容	弱起の曲 大学ピアノ教本 No. 83～84 中間発表会（個人発表）	予習	大学ピアノ教本 No. 83～84 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 83～84 他の復習	
	第9回	内容	ニ長調・ニ短調の主要三和音 大学ピアノ教本 No. 85～86 季節のうた（秋）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No. 85～86 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 85～86 他の復習	
	第10回	内容	装飾音 大学ピアノ教本 No. 87～90 季節のうた（冬）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本 No. 87～90 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 87～90 他の復習	
	第11回	内容	複付点音符 大学ピアノ教本 No. 91 季節のうた（冬）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本 No. 91 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 91 他の復習	
	第12回	内容	大学ピアノ教本 No. 92～94 季節のうた（冬）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本 No. 92～94 他の予習	復習	大学ピアノ教本 No. 92～94 他の復習	
	第13回	内容	マーチ、その他① 大学ピアノ教本 No. 95～98	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No. 95～98）の予習	復習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No. 95～98）の復習	
	第14回	内容	マーチ、その他② 大学ピアノ教本 No. 99～102 園生活のうたの発表 その1	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No. 99～）の予習	復習	マーチ曲（大学ピアノ教本 No. 99～）の復習	
	第15回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	発表曲の予習	復習	発表曲の復習	
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（％）、作品・発表（30％）、実技（60％）、授業態度〔積極的な取り組み〕（10％）							
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』（小林美実 他、チャイルド本社）							
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。							
補足事項								

科目名	音楽Ⅲ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	しかと かずのり 鹿戸 一範 他
ナンバリングコード	EDS22201		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	音楽Ⅰ、音楽Ⅱで学んだ子どもの音楽活動を支える基礎技能をもとに、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。クラスを担当する複数の教員より指導を受ける。							
到達目標	1. 音楽Ⅰ、音楽Ⅱで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができている。 2. コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1, 2 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	事前にシラバスを読んでおく			
				復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく			
	第2回	内容	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	予習	「おはよう」「おはようのうた」の予習			
				復習	「おはよう」「おはようのうた」を復習			
	第3回	内容	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	予習	「おべんとう」「おかえりのうた」の予習			
				復習	「おべんとう」「おかえりのうた」の復習			
	第4回	内容	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」「おかたづけ」「おむねをはりましょ」	予習	「さよならのうた」の予習			
				復習	「さよならのうた」の復習			
	第5回	内容	季節のうた 4月① 他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	予習	「あくしゅでこんにちは」他の予習			
				復習	「せんせいとおともだち」他の復習			
	第6回	内容	季節のうた 4月② 「チューリップ」「ちょうちょう」 小グループに分かれて弾き歌いの発表	予習	「チューリップ」「ちょうちょう」他の予習			
				復習	「ちょうちょう」「めだかの学校」他の復習			
	第7回	内容	季節のうた 5月① 「こいのぼり」「手をたたきましよう」他	予習	「手をたたきましよう」「こいのぼり」他の予習			
				復習	「手をたたきましよう」「こいのぼり」他の復習			
	第8回	内容	季節のうた 5月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他	予習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の予習			
				復習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の復習			
第9回	内容	季節のうた 6月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」他	予習	「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」の予習				
			復習	「あめふりくまのこ」「あまだれぼったん」の復習				
第10回	内容	季節のうた 6月②「とけいのうた」「すてきなパパ」 小グループに分かれて弾き歌いの発表	予習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の予習				
			復習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の復習				
第11回	内容	季節のうた 7・8月① 「たなばたさま」「うみ」「アイスクリームのうた」他	予習	「たなばたさま」「うみ」の予習				
			復習	「たなばたさま」「うみ」の復習				
第12回	内容	季節のうた 7・8月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	予習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の予習				
			復習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の復習				
第13回	内容	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	予習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の予習				
			復習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の復習				
第14回	内容	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	予習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の予習				
			復習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の復習				
第15回	内容	これまでのまとめと演奏発表	予習	課題曲の予習				
			復習	課題曲の復習				
	予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね20分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： 作品・発表（ 70 %）、実技（ %）、授業態度 [積極的な取り組み]（ 30 %）							
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた100』（小林美実 他、チャイルド本社）							
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。							
補足事項								

科目名	ソルフェージュ		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナバリンコード*	ASA22201		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	この授業では、保育者に必要な音楽の基礎能力の向上を図ることを目的とする。保育の場面で楽しい音楽の活動を計画するためには、保育者が音楽の基礎能力を持っている必要がある。ここでいう音楽の基礎能力とは、単に音楽活動を行うための基礎ではなく、子どもが音楽活動を楽しむ中で基礎能力を育成することができるための活動を行う、保育者のスキルを指している。そのため、この授業で行うソルフェージュは音楽学習の経験の深さは関係なく、初心者でも上級者でも必要な学びを行うのであり、基礎能力育成の訓練とは異なるものである。具体的には、子どもでも楽しめる活動を学生が経験することで、学生の音楽的な能力と保育技術が向上することを目指す。							
到達目標	1. 音楽の基礎を楽しみながら学ぶことで、子どもの音楽能力の育成を目指した保育技術を身につけている 2. 音楽活動のねらいを設定した音楽活動ができる音楽の基礎能力を獲得する 3. 今後の音楽に関する学びの基礎となる知識・技能を身につけている							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 1、2、5 ) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：音楽を使ってコミュニケーションを楽しむ	予習	シラバスを読む。			
				復習	授業の内容をノートにまとめる。			
	第2回	内容	音楽の基礎1：拍とリズムを感じる①身体で表現	予習	拍とリズムについて、教科書を確認しておく。			
				復習	授業で行った活動を整理し、ノートにまとめる。			
	第3回	内容	音楽の基礎2：拍とリズムを感じる②音符と休符を理解してアンサンブル（グループワーク）	予習	音符と休符について、教科書を確認しておく。			
				復習	音符と休符を応用した活動について、ノートにまとめる。			
	第4回	内容	音楽の基礎3：楽譜を理解する	予習	楽譜の決まり事について、教科書を理解しておく。			
				復習	楽譜の決まり事の理解を深め、ノートにまとめる。			
	第5回	内容	音楽の基礎4：音階と調①構造を知る	予習	音階と調について教科書を確認し、構造を確認しておく。			
				復習	音階と調を応用した活動について、ノートにまとめる。			
	第6回	内容	音楽の基礎5：音階と調②いろいろな調を経験する	予習	前回の学びをふまえ、音階と調について教科書を確認しておく。			
				復習	音階と調を応用した活動について、ノートにまとめる。			
	第7回	内容	音楽の基礎6：音階と調③調を使ってイメージで遊ぶ（グループワーク）	予習	前回の学びをふまえ、音階と調について理解を深める。			
				復習	移調について理解を深め、移調の練習をする。			
	第8回	内容	音楽の基礎7：和音とコード①基本の三和音を理解する	予習	基本の三和音について確認しておく。			
復習				基本の三和音について理解を深め、ノートにまとめる。				
第9回	内容	音楽の基礎8：和音とコード②さまざまな和音を理解する	予習	前回の学びをふまえ、和音について理解を深める。				
			復習	さまざまな和音について理解を深め、ノートにまとめる。				
第10回	内容	音楽の応用1：和音を使って伴奏①基本の和音で伴奏	予習	和音を再確認しておく。				
			復習	基本の和音で伴奏を弾く復習をする。				
第11回	内容	音楽の応用2：和音を使って伴奏②移調をして和音で伴奏	予習	調性の確認をしておく。				
			復習	移調して和音で伴奏をする復習をする。				
第12回	内容	音楽の発展1：発表の準備①計画（グループワーク）	予習	発表の計画の案を考えておく。				
			復習	グループワークの内容をまとめる。				
第13回	内容	音楽の発展2：発表の準備②リハーサル（グループワーク）	予習	発表の個人練習をしておく。和音をピアノで弾く練習をしておく。				
			復習	リハーサルで確認した改善点について、練習をしておく。				
第14回	内容	音楽の発展3：発表（グループ発表）	予習	発表の個人練習をしておく。				
			復習	発表をふまえ、反省点をまとめる。				
第15回	内容	音楽の発展4：ふりかえり・子どもと音楽の基礎を学びながら楽しむには（グループ討議）	予習	これまでの授業での学びを確認しておく。				
			復習	グループ討議をもとに、子どもに必要な音楽の基礎についてまとめる。				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	ノートや課題の提出時は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。							

成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的な参加】（30%）
教科書	『音楽の基礎と楽しい伴奏 入門編 幼稚園教諭・保育士・小学校教諭・養成校のために』（中里南子/長谷川恭子（編著）、中村昭彦/小野隆司（著）、スタイルノート）
参考文献	
補足事項	出欠も評価の対象とする。五線のノートを用意すること（12段）。

科目名	教育社会学		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	のぶた りな 信田 理奈
ナンバリングコード	SOE22201		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	ChatGPTなどのAIがデジタルアシスタントとして日常生活に浸透するなか、2020年度からプログラミング教育が始まった。しかしその一方で、いじめ、虐待、不登校、ブラック校則、教育格差、ネット依存、性自認と性的指向など、子どもたちが直面している複雑な状況は看過できない。本講義では変動する社会との関係から教育事象を捉え、いかなる社会的要因が教育問題の発生や増減に影響しているのか、について考える。							
到達目標	1. 保育者として現代の教育事象を社会的視点から説明できる。 2. 子どもを取り巻く生活環境と教育的課題について理解している。 3. 実証的に教育を捉え、保育の現場で適用可能な社会的思考力を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1, 2, 4, 5 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス：ルーブリック、教育社会学とは何か	予習	教育社会学を学ぶ理由と目的について考える	復習	教育社会的思考の特徴について理解する	
	第2回	内容	家族の機能と子どもの社会化	予習	子どものくしつけと実態について調べる	復習	家庭の教育力と問題点をノートにまとめる	
	第3回	内容	成育環境としての地域とコミュニティ	予習	地域の変容と子どもへの影響について調べる	復習	地域の教育力と問題点をノートにまとめる	
	第4回	内容	子どもの非行・逸脱・不適応① 暴力、いじめ	予習	いじめの定義と認知件数について調べる	復習	いじめ問題の捉え方についてノートにまとめる	
	第5回	内容	子どもの非行・逸脱・不適応② 不登校、自殺	予習	不登校の定義と認知件数について調べる	復習	不登校の背景と対応についてノートにまとめる	
	第6回	内容	子どもの非行・逸脱・不適応③ ブラック校則	予習	校則の目的と教育的意義について調べる	復習	生徒指導とパワハラの違いをノートにまとめる	
	第7回	内容	子どもの貧困と居場所づくり：子ども食堂	予習	子どもの居場所の定義と意義について調べる	復習	子ども食堂の課題と機能をノートにまとめる	
	第8回	内容	グローバリゼーションと教育格差① 途上国の子どもたち	予習	途上国の識字率と就学状況について調べる	復習	貧困がもたらす負の連鎖をノートにまとめる	
	第9回	内容	グローバリゼーションと教育格差② 先進国の子どもたち	予習	日本の子どもの相対的貧困について調べる	復習	子どもの幸福度と各指標について理解する	
	第10回	内容	ICTと教育のデジタル化① 学びのイノベーション	予習	知識基盤社会に必要な学力観について調べる	復習	ICT教育の可能性と問題点をノートにまとめる	
	第11回	内容	ICTと教育のデジタル化② ネット依存、スマホ育児	予習	情報化の光と影、SNSの功罪について調べる	復習	電子メディアの影響と対応についてまとめる	
	第12回	内容	教育とジェンダー① 男/女を二分化する学校文化	予習	幼稚園における性別分化の事例について調べる	復習	隠れたカリキュラムの弊害について理解する	
	第13回	内容	教育とジェンダー② 高等教育における男女格差	予習	大学進学率と専攻分野の男女差について調べる	復習	機会の平等と結果の平等について理解する	
	第14回	内容	教育とジェンダー③ LGBTQの子どもたちと人権	予習	LGBTQの子どもが抱える困難について調べる	復習	多様な性の在り方と人権について理解する	
	第15回	内容	持続可能な社会と教育：多様性の尊重に向けて	予習	SDGsの理念と成立の背景について調べる	復習	SDGsにおける教育の役割をノートにまとめる	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google クラスルームを通じて、アンケートや課題（小テストを含む）の提示・採点・返却（コメント付き）を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法： レポート・課題（100%）							
教科書	使用しない。レジュメ（講義資料）を配布する。							
参考文献	『新版 教育の社会学』（荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗、有斐閣アルマ） 『シリーズ現代の教職7 新しい時代の教育社会学』（加野芳正・越智康詞、ミネルヴァ書房）							
補足事項	毎回Google クラスルームより「課題」を提示し、5～10分程度のグループワークを導入する。							

科目名	教育方法・技術論		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	こまきね たけし 駒木根 剛
ナバリングコード	EDU22107		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	幼児が成長するなかで育むべき資質と能力を身につけられるよう、周囲がどのように働きかけるとよいか、指導方法を学ぶと共に指導の立案について検討する。							
到達目標	1. 身体、言葉、表現、科学や算数的理解など幼児が学ぶべき領域や内容について理解している。 2. 1を幼児が身につけるために具体的な指導方法について理解している。 3. 総合学習やICT（情報通信技術）教育の内容について理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1、2、4 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	子どもの特徴を脳の仕組みや心理学の視点から理解する。	予習	シラバスをよく読むこと。	復習	子どもの特長について教科書を読み返す。	
	第2回	内容	子どもの身近な環境を取りあげ、幼児の発達を促すための環境指導法について学ぶ。	予習	子どもの環境とは何か調べる。	復習	自ら環境指導法について再度考える。	
	第3回	内容	造形表現の特質と課題を理解し、造形表現の指導方法について学ぶ。	予習	造形表現の特質と課題について調べる。	復習	自ら造形表現や指導法について再度考える。	
	第4回	内容	子どもの発達に伴う身体表現について理解するとともに、子どもの表現を引き出す指導方法について学ぶ。	予習	身体表現について調べる。	復習	子どもの表現を引き出す指導方法を考える。	
	第5回	内容	新しい時代を生きるための音楽表現や幼児の感性について理解し、指導法を学ぶ。	予習	幼児の感性とは何か調べる。	復習	新しい時代の音楽表現について再度考える。	
	第6回	内容	幼児期に発達する言葉の能力、現代における言葉の習得および発達の課題について理解する。	予習	幼児期の言葉の発達について調べる。	復習	言葉の習得および発達の課題を読み返す。	
	第7回	内容	幼児の算数的活動の内容について理解し、発達に応じた算数的理解を促すための指導法について学ぶ。	予習	幼児の算数的活動について調べる。	復習	算数的理解を促す指導法について考える。	
	第8回	内容	幼児教育における科学の指導の必要性と小学校教育への橋渡し（連携）について学ぶ。	予習	幼児教育における科学とは何か調べる。	復習	小学校教育への連携の意義を読み返す。	
	第9回	内容	総合学習の理論と実践について学び、指導法を立案し、その立案した指導法をひとに発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの指導法について読み返す。	復習	自ら総合学習の指導法について再度考える。	
	第10回	内容	ICT教育の内容について学び、支援や指導の方法について立案し、立案した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	ICT教育とは何か調べる。	復習	自らICT教育の指導法について再度考える。	
	第11回	内容	外国諸国の他文化を取り入れたICT保育および教育について学ぶ。	予習	他文化保育とは何か調べる。	復習	他文化保育についての自らの考えをまとめる。	
	第12回	内容	発達の気になる子ども、障害を抱える子どもへの教育や支援の方法（インクルーシブ教育）について学ぶ。	予習	インクルーシブ教育とは何か調べる。	復習	インクルーシブ教育について考えをまとめる。	
	第13回	内容	児童虐待について学び、虐待を受けた子どもへの支援方法について学ぶ。	予習	児童虐待の現状について調べる。	復習	虐待を受けた子どもへの支援について考える。	
	第14回	内容	幼稚園、保育園、小学校教育の連携の必要性を学び、連携の方法について学ぶ。	予習	小学校教育への連携の意義について調べる。	復習	小学校教育との連携の方法について考える。	
	第15回	内容	保育者として幼児教育の方法と技術をどのように捉えるか検討し、検討した指導法を発表できるものに仕上げる。	予習	これまでの理論や指導法について読み返す。	復習	保育者として幼児教育の方法と技術についての重要箇所をまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね 30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google classroomから行います。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（ ）％、レポート・課題（ 50 ）％、作品・発表（ ）％、実技（ ）％ 授業態度【動画視聴後の感想や意見】（ 50 ）％							
教科書	『実践につながる 新しい幼児教育の方法と技術』（大浦賢治 編著、野津直樹 編著、ミネルヴァ書房、2020年）							
参考文献	『ICTを使って保育を豊かに ワクワクが広がる＆広がる28の実践』（秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子編著、中央法規出版、2022年）							
補足事項	授業ノートを作成することをとめます。ルーブリーフよりも、針金等が入っていないキャンパスノートを使用することを推奨します。							

科目名	教育相談		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	かがや みよし 加賀谷・三好
ナバリンクコード	EDP22201		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	幼稚園や学校における教育相談は、心理学の専門家や一部の教師が担うものではなく、学級運営と同じように全ての教師が担当する教育活動の一環として位置づけられている。本講義では、教育相談の理論、技術、キンダー（スクール）カウンセラーの位置づけなどについて概説し、幼稚園や学校（教育現場）における教育相談の役割を理解することを目的とする。							
到達目標	1. 教育現場での生徒指導上の問題に応じ、適切に対応できる。 2. カウンセリングの基本的な理論と態度技術を身につけている。 3. 集団指導に有益な心理的技術について理解している。 4. 教育相談における保護者や地域との連携と関わり、キンダー（スクール）カウンセラー等との連携を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1, 2, 4 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーションとガイダンス：教育相談とは何か	予習	教育相談についてのイメージを膨らませる	復習	教育相談の日本における位置づけを整理する	
	第2回	内容	子どもを支えるために必要な教師の資質とカウンセリングマインド	予習	教師の資質について考えておく	復習	カウンセリングマインドを整理する	
	第3回	内容	子ども理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解	予習	教育相談に心理学が必要な理由を考える	復習	自分の事前の考えと照合して考える	
	第4回	内容	子ども理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための発達心理学的基礎知識	予習	子ども家庭支援の心理学などのノートを確認	復習	発達理論に基づき各世代について理解整理する	
	第5回	内容	子ども理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための臨床心理学的基礎知識	予習	臨床心理学を漠然とで良いので下調べしておく	復習	臨床心理学の有用な技法を整理しておく	
	第6回	内容	発達障害をめぐる諸問題	予習	発達障害について下調べしておく	復習	学修した後のギャップを整理しておく	
	第7回	内容	アセスメント——多面的に子どもを理解する視点と方法	予習	子どもに利用するアセスメントツールを調べる	復習	アセスメントについての自分の考えをまとめる	
	第8回	内容	心理テスト体験実習	予習	心理テストについて調べる	復習	測定されたものについて詳しく調べる	
	第9回	内容	カウンセリング——信頼関係を築き、子どもを援助する方法	予習	カウンセリングについて下調べしておく	復習	カウンセリング技法について整理する	
	第10回	内容	コンサルテーション——よりよい指導・援助のための協働	予習	コンサルテーションとは何かを調べる	復習	コンサルテーションにおける連携を整理する	
	第11回	内容	ソーシャルスキル教育やストレスマネジメント教育	予習	自分のストレスマネジメントについて整理する	復習	SSTについて整理する	
	第12回	内容	学級経営と学校のリスクマネジメント	予習	学校や園のリスクについて考えておく	復習	多くのリスクについて整理しておく	
	第13回	内容	教育相談を成立させる現実条件（目標の立て方や進め方） 「チーム学校」にみる支援体制（他職種連携）	予習	保幼小連携について大切なことを考えておく	復習	他職種連携と保幼小連携について整理する	
	第14回	内容	相談事例の検討：不登校・不登園などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく	復習	ディスカッションした内容をまとめておく	
	第15回	内容	相談事例の検討：対人コミュニケーションの問題、発達障害を伴う問題などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく	復習	ディスカッションした内容をまとめておく	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（100%）							
教科書	使用しない							
参考文献	絶対役立つ教育相談：学校現場の今に向き合う 藤田哲也他 2017 ミネルヴァ書房 教師のための教育相談の技術 吉田圭吾 2007 金子書房 ほか							
補足事項	毎回小テストや課題を行う。その他、特別教材として別途500円（予価）を授業中に集金します。 第1回：加賀谷、第2回～第15回：三好							

科目名	保育指導法 I		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	おがわ かつとし 小川 勝利
ナバリングコード	EDU22110		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	私たち人類(ホモサピエンス)は、個々の力は、他の動物とは比べものにならない程、弱々しいものです。しかし、社会を形成し協力する能力を持ったことで、この地球上に繁栄をもたらしています。そのような人類の特性を理解したうえで、乳幼児が社会の一員として育まれるために必要な環境設定について概説する。なお、授業は5〜6名前後のグループで毎回出題されるテーマについて、スマートフォンやタブレットを使って、WEBから情報を収集し、それをもとにグループディスカッション後、発表を行う。							
到達目標	<p>1. 私たち人類は、乳幼児期から人との関わりが必要であることを理論的に他者に伝えることができる。</p> <p>2. 乳幼児教育の目的は、愛着形成ではなく、愛着を起点として様々な人や物と関わり学んでいくことを理解し、その内容を理論的に他者に伝えることができる。</p> <p>3. 人類の子育ての特徴を理解し、乳幼児教育における環境(人・物・空間)設定について、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>4. 乳幼児期の身体的な特性を理解し、自分の考えを他者に伝えることができる。</p>							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(1.2.3.4.5) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	担当教員の自己紹介と本授業の趣旨を説明する。全ての授業においてグループワーク、発表を行うのでそのグループ分けを行う。本科目は、これから子どもたちが人生を充実させるために必要な力は何か?それを達成するための保育方法を考える授業であることを知る。	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	本授業の進め方及び習得すべきことを理解する。本授業に望む事柄をまとめる。			
	第2回	内容	「アタッチメント」についてグループで話し合い、更にそれを大切に保育とは、どのような保育方法になるか、発表後、解説する。	予習	「アタッチメント」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「アタッチメント」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第3回	内容	「脳の臨界期」とはどのような時期に起こり、どのような現象をいうのか、グループで調査検討し発表する。その後、解説する。	予習	「脳の臨界期」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「脳の臨界期」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第4回	内容	「人間関係の形成」の発端はいつ頃だと思えるか?また、保育における「ソーシャルネットワーク」とは何を意味するか?グループで話し合い、その後解説する。	予習	「人間関係の形成」「ソーシャルネットワーク」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「人間関係の形成」「ソーシャルネットワーク」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第5回	内容	乳幼児が「おしゃぶり」を使うことに対して、成長発達にどのような意味があるのか?調査発表後、解説する。	予習	「おしゃぶり」を使うことについて、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の自身の考えの変容をまとめる			
	第6回	内容	保育園や幼稚園で行う行事、今回は「運動会」を例にして、その目的をグループで話し合い発表後、概説する。	予習	「運動会」の目的について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「おしゃぶり」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第7回	内容	我が国の「心の教育」について考えるために、保育士さんが子どもたちに「みんな仲良くしなさい」という言葉がけについて、それが将来の子どもたちに役立つものか否か、グループで話し合い発表後、概説する。	予習	保育士さんが子どもたちに「みんな仲良くしなさい」という言葉がけについて、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「みんな仲良くしなさい」という声かけに関する自身の考えの変容をまとめる			
	第8回	内容	保育所保育指針等が存在するにもかかわらず、日本の保育方法は、様々な形態がとられている。「担当制保育」、「チーム保育」について、その形態とそれぞれが持つ意味をグループで話し合い発表後、概説する。	予習	「担当制保育」、「チーム保育」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「担当制保育」、「チーム保育」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第9回	内容	「人類は協力し合う動物なのか、競い合う動物なのか」考えを話し合い、その理由を含めてグループで発表後、解説を行う。	予習	「人類は協力し合う動物なのか、競い合う動物なのか」について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「人類は協力し合う動物なのか、競い合う動物なのか」に対する自身の考えの変容をまとめる			
	第10回	内容	「世田谷区の保育」を調査し、個々の考えを議論する。その後、解説を加える。	予習	「世田谷区の保育」について、世田谷区のホームページで調査後、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「世田谷区の保育」に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第11回	内容	「赤ちゃんにハチミツを与えてはいけません」といわれているが、どうして大人は問題なく、乳児はだめなのか?両者の身体的な違いを調査発表し、その後解説する。	予習	赤ちゃんにハチミツを与えてはいけない理由を調査し、発表できるように自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「乳児にはちみつを与えてはいけない」理由に関する自身の考えの変容をまとめる			
	第12回	内容	保育園や幼稚園で行う行事、今回は「生活発表会、学芸会、お楽しみ会」を例にして、その目的をグループで調査話し合い発表後、概説する。	予習	「生活発表会、学芸会、お楽しみ会」の目的について、自身の考えをまとめておく			
				復習	授業後の「生活発表会、学芸会、お楽しみ会」の目的に関する自身の考えの変容をまとめる			

	第13回	内容	秋草学園保育指導法1学会と題し、それぞれのグループで興味を持ったテーマについて、パワーポイントにまとめ学会形式で発表後、質疑応答し、講評する。	予習	今までの授業の中で興味をもったテーマについて、発表できるようにパワーポイントで資料を作成しておく
				復習	発表したチームの内容をまとめる
	第14回	内容	秋草学園保育指導法1学会と題し、それぞれのグループで興味を持ったテーマについて、パワーポイントにまとめ学会形式で発表後、質疑応答し、講評する。	予習	今までの授業の中で興味をもったテーマについて、発表できるようにパワーポイントで資料を作成しておく
				復習	発表したチームの内容をまとめる
	第15回	内容	第13回、14回で発表できなかったチームが出た場合、その発表を行い、その後、教員から示されるテーマについて、自身の考えをまとめる。	予習	今までの授業で考察したテーマについて振り返り、自身の考えを記述できるようにしておく
				復習	教員から示されたテーマについて、過去の授業を振り返りまとめる。
予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。					
課題へのフィードバック	基本的に、授業時間内に解説する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（80%）、作品・発表（20%）				
教科書	2冊 『0・1・2歳の「保育」』（藤森平司、世界文化社）、『保育における「行事」』（藤森平司、世界文化社）				
参考文献	保育の起源 保育を巡る今日的論考 （藤森平司、世界文化社）				
補足事項	教科書は、来年度受講する「保育者論」でも使用します。				

科目名	保育指導法Ⅱ		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	つつい まさと 筒井 正人
ナンバリングコード	EDU22207		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	さまざまな保育現場の実際の環境の写真や活動実態を記録した動画を通して、保育施設での子どもの育ちを支える保育環境について具体的に知り、グループワークを通して自らの思考の整理と他者受容、チームワークを通して協働的問題解決能力を養い、保育者として必要な環境構成力と感性を身に付ける。							
到達目標	1. 保育現場の実際の環境を見ることを通して、子どもにとっての「環境」の意味を理解している 2. 提示された保育環境に対して話し合い、自分なりの思いを持ち、他者の思いを受け止めることができる 3. 話し合いの経験をもとに、チームで「自分たちが考えた」望ましい保育環境をデザインできる							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 2 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	保育における環境構成について	予習	ユニセフ HP「カードで学ぼう！ 子どもの権利条約」の第2条のカードを読み保育との関連を考える。(以下同ページを閲覧)			
				復習	保育環境の重要性について考える			
	第2回	内容	物的環境①0.1.2歳児	予習	第3条のカードを読み保育との関連を考える			
				復習	オススメの0.1.2歳児の玩具について			
	第3回	内容	物的環境②3・4・5歳児	予習	第5条のカードを読み保育との関連を考える			
				復習	オススメの3.4.5歳児の玩具を選ぶ			
	第4回	内容	物的環境③屋外・遊具	予習	第6条のカードを読み保育との関連を考える			
				復習	自分が好きだった屋外環境・遊び			
	第5回	内容	グループワーク①玩具・教材を選ぶ	予習	第12条のカードを読み保育との関連を考える			
				復習	グループワークの感想			
	第6回	内容	物的環境④絵本	予習	第13条のカードを読み保育との関連を考える			
				復習	自分が好きだった(好きな)絵本			
	第7回	内容	物的環境④月刊絵本	予習	第14条のカードを読み保育との関連を考える			
				復習	どんな月刊絵本を使いたい？			
	第8回	内容	グループワーク②月刊絵本の読み聞かせ	予習	第15条のカードを読み保育との関連を考える			
				復習	グループワークを振り返る			
第9回	内容	行事	予習	第17条のカードを読み保育との関連を考える				
			復習	自分が好きだった行事				
第10回	内容	グループワーク③行事を企画する	予習	第23条のカードを読み保育との関連を考える				
			復習	グループワークを振り返る				
第11回	内容	空間的環境①空間的環境とは何か～ゾーニング	予習	第24条のカードを読み保育との関連を考える				
			復習	好きだった遊びの場、つくりたい遊びの場				
第12回	内容	物的環境・空間的環境まとめ	予習	第27条のカードを読み保育との関連を考える				
			復習	環境について考えたこと				
第13回	内容	グループワーク③保育室のゾーニング	予習	第28条のカードを読み保育との関連を考える				
			復習	ゾーニングの工夫について考える				
第14回	内容	グループワーク③保育室のゾーニング	予習	第29条のカードを読み保育との関連を考える				
			復習	ゾーニングの工夫について考える				
第15回	内容	グループワーク③保育室のゾーニング 発表	予習	第31条のカードを読み保育との関連を考える				
			復習	グループワークを振り返る				
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業毎にレスポンスシートのやりとりをし、考えを引き出しながら振り返る							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、授業態度【参加姿勢】（40%）							
教科書	オリジナルのpptスライドを使用（適宜配布）							
参考文献	『まなびのデザイン～空間』（藤森平司、世界文化社）『見守る保育③行事』（藤森平司、世界文化社） 日本ユニセフ協会HP「カードで学ぼう！ 子どもの権利条約」 <a href="https://www.unicef.or.jp/crc/card/">https://www.unicef.or.jp/crc/card/</a>							
補足事項	感じ取り、学び取る感性を重視します。授業への取り組み・協働的な姿勢を最重視します。							

科目名	総合演習 I		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	はしもとようこ ほしのおさむ しみずすみこ 橋本洋子・星野治・清水澄子
ナバリングコード	CHS22208	授業形態	演習	実務経験				
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	少子社会が進む中、様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が十分に整えられているとはいえない。そこで、本演習では、3グループに分かれて子どもを取り巻く実状を様々な視点から捉え、理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養う。また、次年度に開講される総合演習Ⅱ(卒業研究)の研究テーマの選択、研究方法を習得する。							
到達目標	1. 文献検索や発表を通して、保育者として必要な知識・情報を得るための適切な手段を身につけている。(知識・理解・技能) 2. 弱者を守ることを意味を考えながら、防災に対する知識を習得している。(知識・理解・判断) 3. 社会問題をはじめ保育に関係する様々な問題に向き合い、保育者として考える力を身につけている。(知識・思考・判断)							
学位授与方針	地域保育学科(1・2・4・5)							
授業計画	第1回	内容	合同授業 ガイダンス:本演習のねらい、進め方			予習	シラバスに目を通し授業形態を理解する	
			復習	配布資料の内容を確認し理解しておく				
	第2回	内容	橋本① 保育に関する資料の検索 J-SATAGE等から資料を検索する	星野①	清水①	予習	保育に関する新聞記事などを読んでおく	
						復習	研究テーマを考えておく	
	第3回	内容	橋本② 論文の検索、研究テーマの選択	星野②	清水②	予習	資料の検索方法を確認する	
						復習	研究テーマをキーワードに資料を収集する	
	第4回	内容	橋本③ 文献調査(1) 論文・資料の読み方	星野③	清水③	予習	取寄せた論文、資料を精読する	
						復習	取寄せた論文、資料をまとめる	
	第5回	内容	橋本④ 文献調査(2) 発表準備・スライド作成	星野④	清水④	予習	図書館で研究テーマに必要な資料を収集する	
						復習	研究発表に必要な資料を整理する	
	第6回	内容	橋本⑤ 文献調査(3) 発表レジュメの提出・発表準備	星野⑤	清水⑤	予習	研究発表の内容をまとめる	
						復習	研究発表の準備①レジュメを作成し提出する	
	第7回	内容	橋本⑥ 研究発表(1) グループディスカッション	星野⑥	清水⑥	予習	研究発表の準備②作成したスライドを確認する	
						復習	発表者の内容をまとめる	
	第8回	内容	橋本⑦ 研究発表(2) グループディスカッション	星野⑦	清水⑦	予習	発表予定学生のレジュメを確認する	
						復習	発表者の内容をまとめ、整理する	
	第9回	内容	橋本⑧ 研究発表(3) グループディスカッション まとめ	星野⑧	清水⑧	予習	発表予定学生のレジュメを確認する 既発表者の評価をまとめる	
						復習	研究方法・発表を振り返り、自己評価する	
	第10回	内容	合同授業 学外授業のオリエンテーション			予習	各教員の指示に従い準備する	
			復習	学外授業の意義と目的を理解する				
	第11回 第12回	内容	合同授業 学外授業(2回分)			予習	学外授業配布資料を確認する	
復習			レポートにまとめる					
第13回	内容	星野① 防災の基礎知識	清水①	橋本①	予習	シラバスを読んでおく		
					復習	配布資料の内容を理解する		
第14回	内容	星野② 文芸作品と防災(1) 文字作品の紹介と鑑賞	清水②	橋本②	予習	文字作品のあらすじをまとめる		
					復習	文字作品に対する鑑賞文を作成する		
第15回	内容	星野③ 文芸作品と防災(2) 劇画作品の紹介と鑑賞	清水③	橋本③	予習	劇画作品のあらすじをまとめる		
					復習	劇画作品に対する鑑賞文を作成する		
第16回	内容	星野④ 保育と防災	清水④	橋本④	予習	必要な参考資料を通読しておく		
					復習	保育と防災の関連をまとめる		
第17回	内容	星野⑤ 文芸作品と防災(3) 映像作品の紹介と鑑賞	清水⑤	橋本⑤	予習	映像作品のあらすじをまとめる		
					復習	映像作品に対する鑑賞文を作成する		
第18回	内容	星野⑥ 文芸作品と防災(4) 自然災害と人為災害	清水⑥	橋本⑥	予習	必要な参考資料を通読しておく		
					復習	自然災害・人為災害の各々への対策をまとめる		
第19回	内容	星野⑦ 防災関連の最新情報	清水⑦	橋本⑦	予習	作業内容を予め確認する		
					復習	ネットサーフィンの実施結果をまとめる		
第20回	内容	星野⑧ 演習まとめ	清水⑧	橋本⑧	予習	これまでの学習内容全般を振り返る		
					復習	防災に関する各自の見解をまとめる		
第21回	内容	清水① 少子化を考える 原因・現状・対策	橋本①	星野①	予習	少子化問題を考えてみる		
					復習	将来の日本について少子化の視点から考える		

	第22回	内容	清水② 変わる日本の家庭・親子関係	橋本②	星野②	予習	家庭って何だろう、自分への影響を考える
						復習	自分の問題としてもう一度考えてみる
	第23回	内容	清水③ 子どもへの虐待問題 その変遷と対策	橋本③	星野③	予習	インターネットで児童虐待事件を読んでみる
						復習	保育士として「できること」を考えてみる
	第24回	内容	清水④ 子どもの貧困問題 現状と影響と対策	橋本④	星野④	予習	子ども食堂について調べてみる
						復習	社会は、自分は何ができるのかを考える
	第25回	内容	清水⑤ 様々な職業と日本人の賃金	橋本⑤	星野⑤	予習	自分のアルバイトの賃金を考えてみる
						復習	就職コーナーに足を運んで求人票をみてる
	第26回	内容	清水⑥ 日本の税金 どこから集めて何に使っているのか	橋本⑥	星野⑥	予習	所沢市の税金の歳入・歳出をみておく
						復習	自分なら何に使うかを考えてみる
	第27回	内容	清水⑦ 様々な絵本や児童文学が伝えたいこと	橋本⑦	星野⑦	予習	日ごろから「子ども向きの本」を読んでおく。
						復習	自分が著したい絵本や児童文学を考えてみる。
	第28回	内容	清水⑧ 世界の子どもたちは何を考 えどう生きているのか	橋本⑧	星野⑧	予習	ネットで好きな国の子どもについて調べる。
						復習	「幸福って何？」というテーマで考えてみる。
	第29回	内容	合同授業 保育者に求められていること（ビデオ）			予習	女性が働く社会（環境）について調べる
						復習	女性の社会進出について考えレポートにまとめる
	第30回	内容	合同授業・まとめ 保育者としての心構え ビデオ「みんなの夢まもるため」			予習	1年間の学びを振り返る
						復習	保育者となる責任と自覚についてまとめる
予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。							
課題へのフィードバック	課題提出・発表後に課題を確認し、講評（返却）する。						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題・発表（80%）、授業態度【積極的参加】（20%）						
教科書	必要に応じて随時紹介する						
参考文献	必要に応じて随時紹介する						
補足事項	※この演習はAおよびBクラスを3グループに分け、グループ毎に演習8回を1ラウンドとするオムニバス形式が中心となる。 ※3グループは同時進行となり1ラウンド毎に2/3以上の出席が必要となる。（合同授業、3教員別の授業、それぞれ2/3以上の出席が必要） ※校外学習を実施する場合がある。 ※授業回数 橋本30回、星野30回、清水30回						

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文
ナバリンクコード	CHS22209		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。							
到達目標	1. 自分自身の興味がある分野について理解している。 2. 客観的な判断を行うための、研究法を理解している。 3. 得られたデータから考察することができる。 4. 自分の意見を論理的に表現することができる。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 1,2 ) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	研究テーマを考える	予習	自分の興味あるテーマを考える			
				復習	検討した内容を整理する			
	第2回	内容	過去の卒業研究を読み込む	予習	自分の研究をイメージする			
				復習	参考になりそうな研究を読み込む			
	第3回	内容	具体的な研究内容を検討する	予習	自分の研究したい内容を考える			
				復習	検討した内容を整理する			
	第4回	内容	研究法を学ぶ	予習	研究の具体的な内容を考える			
				復習	自分のテーマと研究法を考える			
	第5回	内容	先行研究を検索する	予習	文献検索の方法を知っておく			
				復習	手に入れた文献に目を通す			
	第6回	内容	先行研究を読み込む	予習	文献を読む			
				復習	文献を読みなおす			
	第7回	内容	先行研究を読み込む	予習	新たな文献を読む			
				復習	先行研究をまとめる			
	第8回	内容	先行研究の発表	予習	発表資料を作成する			
				復習	指摘された点を整理する			
	第9回	内容	先行研究の発表	予習	発表資料を作成する			
				復習	指摘された点を整理する			
	第10回	内容	研究テーマの決定	予習	研究テーマを考える			
				復習	指摘された点を整理する			
第11回	内容	研究の具体的方法を考える	予習	研究テーマを理解しておく				
			復習	指摘された点を整理する				
第12回	内容	研究内容の決定	予習	研究内容を考える				
			復習	研究内容を整理する				
第13回	内容	参考文献を検索する	予習	足りない知識を理解する				
			復習	参考文献に目を通す				
第14回	内容	参考文献を読み込む	予習	参考文献の読み込み				
			復習	参考文献の読みなおし				
第15回	内容	参考文献を読み込む	予習	新たな参考文献の読み込み				
			復習	新たな参考文献の読みなおし				
第16回	内容	データを取る	予習	調査法を考える				
			復習	調査を行う				
第17回	内容	データを取る：不足分	予習	さらに調査を行う				
			復習	不足分の調査を行う				
第18回	内容	データの入力	予習	データを見直す				
			復習	データの入力作業				
第19回	内容	データの入力:確認作業	予習	データの入力作業の続き				
			復習	データの入力作業の見直し				
第20回	内容	データの分析	予習	不足分のデータの入力作業				
			復習	分析作業				

	第 21 回	内容	データの分析：統計	予習	分析作業の続き
				復習	統計作業
	第 22 回	内容	方法の執筆	予習	統計の見直し
				復習	論文執筆
	第 23 回	内容	結果の執筆	予習	方法執筆
				復習	結果執筆
	第 24 回	内容	はじめにの執筆	予習	結果執筆を終わらせる
				復習	はじめにの執筆
	第 25 回	内容	考察の執筆	予習	はじめにの執筆を終わらせる
				復習	考察執筆
	第 26 回	内容	引用文献等の執筆	予習	考察執筆を終わらせる
				復習	引用文献執筆
	第 27 回	内容	発表について	予習	自分の論文を読み込む
				復習	発表内容を考える
	第 28 回	内容	パワーポイントの作成	予習	発表準備
				復習	パワーポイント準備
	第 29 回	内容	発表原稿の作成	予習	パワーポイント準備を終わらせる
				復習	発表原稿準備
	第 30 回	内容	発表	予習	発表に必要な事柄の準備
				復習	指摘された内容を整理する
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	随時指導の中で行っていく				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（80%）、作品・発表（10%）、授業態度【積極的参加、研究への熱意】（10%）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
補足事項	講義時間以外にも積極的に研究を行うこと。				

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
ナバリンコード*	CHS22209		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会、ディスカッションを行い、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマは食や健康など日常生活全般にわたり、研究方法は①フィールドワーク、②質問紙調査、③文献研究等がある。P (plan、計画) D (do 実行) C (check 評価、振り返る) A (act 改善) サイクルで効果的に学習する方法を学ぶ。							
到達目標	1. 子どもを取り巻く生活環境を理解している。(知識・理解) 2. 主体的に研究テーマをみつけ多様な角度から情報を収集し検証する力を身につけている。(知識・理解・技能) 3. 調査結果等から疑問を解決し、まとめる力を身につけている。(知識・理解・技能) 4. 適切な表現を用いて聞き手に分かりやすく説明するスキルを身につけている。(理解・表現・技能)							
学位授与方針	地域保育学科(2・3・4・5)							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス 授業の進め方と年間計画の立案	予習	シラバスをよく読んでおく			
				復習	研究テーマを考える			
	第2回	内容	健康について考える(DVD)	予習	健康に関する資料を収集する			
				復習	レポートをまとめる			
	第3回	内容	研究テーマを考える① 保育制度について・グループディスカッション	予習	保育制度について調べる			
				復習	保育制度についてレポートにまとめる			
	第4回	内容	研究テーマを考える② 子ども・保育者を取り巻く環境	予習	保育内容の授業を復習しておく			
				復習	保育環境についてレポートをまとめる			
	第5回	内容	文献・資料収集、観察① Keywordをもとに先行研究を調べる	予習	研究の keyword を選定する			
				復習	調べた論文を整理する			
	第6回	内容	文献・資料収集、観察② 専門書・資料の検索	予習	論文を読む			
				復習	専門書・資料を読む			
	第7回	内容	文献・資料収集、観察③ 先行研究をまとめる	予習	専門書・資料をまとめる			
				復習	先行研究の文献をまとめる			
	第8回	内容	先行研究の発表① グループディスカッション	予習	発表の準備をする			
				復習	ディスカッションの内容をまとめる			
	第9回	内容	先行研究の発表② グループディスカッション	予習	発表の準備をする			
				復習	助言にもとづき研究テーマを選定しておく			
	第10回	内容	研究テーマの決定・研究内容の方向付け	予習	研究テーマに必要な論文・資料を収集する			
				復習	研究テーマを決める			
	第11回	内容	論文執筆の説明 研究計画の立案と必要資料の確認	予習	研究の方法を考える			
				復習	論文執筆に関する配布資料をよく読む			
	第12回	内容	論文の執筆 研究目的	予習	先行文献から導入を考える			
				復習	研究目的を書き進める			
	第13回	内容	論文の執筆 研究内容	予習	研究目的をまとめる			
				復習	研究内容の詳細を立案する			
	第14回	内容	論文の執筆 研究方法	予習	研究方法を考える(①～③より選択)			
				復習	研究方法の決定			
	第15回	内容	学外授業	予習	学外授業の目的を理解する			
				復習	学外授業の学びをレポートにまとめる			
	第16回	内容	研究計画の見直し	予習	選択した研究方法をまとめ、計画を立案する			
				復習	論文執筆に必要な資料を準備する			
	第17回	内容	研究方法に合わせてすすめる ディスカッション (論文執筆・質問紙作成・フィールドワーク)	予習	先行研究をベースに研究方法を確認する			
				復習	質問紙の作成・フィールドワークを記録する			
	第18回	内容	研究方法に合わせてすすめる ディスカッション (論文執筆・質問紙作成・フィールドワーク)	予習	質問紙の修正・フィールドワークをまとめる			
				復習	質問紙の準備・フィールドワークを記録する			
	第19回	内容	研究方法に合わせてすすめる ディスカッション (論文執筆・質問紙作成・フィールドワーク)	予習	調査への配慮を確認する・記録を整理する			
				復習	研究方法をまとめる			

第20回	内容	研究方法に合わせてすすめる ディスカッション (論文執筆・質問紙作成・フィールドワーク)	予習	調査の依頼をする
			復習	研究方法をまとめる
第21回	内容	論文執筆 質問紙およびフィールドワークのデータ整理	予習	データ入力準備をする・記録を整理する
			復習	回収した質問紙の確認・記録を整理する
第22回	内容	論文執筆 質問紙およびフィールドワークのデータ入力	予習	研究方法の詳細および対象者を執筆する
			復習	回収した質問紙データおよび記録の確認
第23回	内容	論文執筆 質問紙およびフィールドワークのデータ解析	予習	データおよび記録の入力
			復習	入力したデータの確認
第24回	内容	論文執筆・修正 質問紙およびフィールドワークのデータをまとめる	予習	結果を執筆する
			復習	結果・考察をまとめる
第25回	内容	論文の修正 データの確認	予習	文献を確認する
			復習	研究結果を図表にまとめる
第26回	内容	論文の修正 文献の確認	予習	執筆した部分を読み返す
			復習	論文の内容確認(データ、図表の数値など)
第27回	内容	研究論文の提出	予習	考察をまとめる・ページ設定を確認する
			復習	研究発表準備・資料の整理
第28回	内容	研究発表の準備・発表レジュメの提出	予習	研究発表のレジュメを作成する
			復習	研究発表の練習・内容確認
第29回	内容	研究発表・グループディスカッション①	予習	研究発表の練習をする
			復習	ディスカッションをレポートにまとめる
第30回	内容	研究発表・グループディスカッション② まとめ	予習	研究発表の練習・内容確認
			復習	研究を振り返り保育者に必要な知識を確認する
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。				
課題へのフィードバック	提出レポートおよびディスカッション内容について都度、講評を行う 研究論文の執筆、修正を通してフィードバックを行う			
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/(○)しない 成績評価の方法：論文・制作(70%)、課題(10%)、発表・ディスカッション(10%)、授業態度【積極的参加】(10%)			
教科書	必要に応じて紹介する			
参考文献	必要に応じて紹介する			
補足事項	<p>※2年次の「総合演習Ⅰ」で修得した研究方法を確認しておきましょう。</p> <p>※保育者としての視点から「食」「保育」「健康」等の研究テーマをみつけ、自ら文献研究や観察研究をすすめ、論文としてまとめます。演習生それぞれが自分の研究テーマに向かって綿密な計画を立て、積極的に取り組むことを期待します。</p> <p>※先行論文や白書などから情報を収集する習慣を身につけましょう。</p> <p>※同じゼミに所属する仲間を大切に、お互いに助け合う協調性を求めます。</p>			

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナバリングコード*	CHS22209		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>主な研究テーマとしては、「保育内容(表現)」「音楽教育」「音・音楽を伴う遊び」などである。乳幼児期の音楽活動や、音楽的な感性の育成についての質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめる。</p>							
到達目標	<p>1. 乳幼児を対象とした音楽教育について、興味のあるテーマを設定し、課題について理解している。</p> <p>2. 自ら選んだテーマについて文献を読み、問題の所在を明らかにし、考察することができる。</p> <p>3. 論文作成を通して、保育における音楽教育の意義を理解している。</p>							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(1、2、5) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読む。			
				復習	一年間の研究のスケジュールを考える。			
	第2回	内容	研究の基礎1:研究とは	予習	配布資料を読む。			
				復習	研究について学んだことをまとめる。			
	第3回	内容	研究の基礎2:論文のルール①	予習	配布資料を読む。			
				復習	論文のルールについてまとめ、理解する。			
	第4回	内容	研究の基礎3:論文のルール②	予習	配布資料を読む。			
				復習	論文のルールについてまとめ、理解する。			
	第5回	内容	研究の基礎4:論文執筆のための思考方法	予習	配布資料を読む。			
				復習	論文執筆のための思考方法についてまとめ、理解する。			
	第6回	内容	文献の検索と検討1:検索の方法	予習	配布資料を読む。			
				復習	授業で学んだ方法で、文献検索を行う。			
	第7回	内容	文献の検索と検討2:文献の整理	予習	配布資料を読む。			
				復習	授業で学んだことをふまえ、文献の整理をする。			
	第8回	内容	文献の検索と検討2:文献の検討	予習	収集した文献を読む。			
				復習	授業を踏まえ、文献の整理をする。			
	第9回	内容	研究テーマの選定	予習	研究テーマを考える。			
				復習	授業をもとに研究テーマを絞る。			
	第10回	内容	研究テーマの研究方法的検討1	予習	研究テーマについての研究方法を考える。			
				復習	授業をもとに研究方法を整理する。			
	第11回	内容	研究テーマの研究方法的検討2	予習	研究方法の詳細を考える。			
				復習	授業をもとに研究方法を修正する。			
	第12回	内容	研究計画の検討	予習	研究計画を考える。			
				復習	授業をもとに研究計画を修正する。			
	第13回	内容	研究計画の発表と討議	予習	研究計画の発表準備をする。			
				復習	討議をもとに研究計画を修正する。			
	第14回	内容	フィールドワーク1:準備	予習	配布資料を読む。			
				復習	授業をもとにフィールドワークの準備をする。			
	第15回	内容	フィールドワーク2:実践	予習	フィールドワークの内容の確認をする。			
				復習	フィールドワークの整理をする。			
	第16回	内容	フィールドワーク3:実践のふりかえり	予習	フィールドワークのまとめをする。			
				復習	授業をもとにフィールドワークの理解を深める。			
	第17回	内容	先行研究の検討	予習	先行研究をまとめる。			
				復習	授業をもとに先行研究の理解を深める。			
	第18回	内容	問題の所在と研究の目的の検討	予習	問題の所在と研究の目的を考える。			
				復習	授業をもとに問題の所在と研究の目的を再検討する。			
第19回	内容	論文の執筆1	予習	論文執筆				
			復習	論文修正				

	第20回	内容	論文の執筆2	予習	論文執筆
				復習	論文修正
	第21回	内容	論文の執筆3	予習	論文執筆
				復習	論文修正
	第22回	内容	論文の執筆4	予習	論文執筆
				復習	論文修正
	第23回	内容	論文の執筆5	予習	論文執筆
				復習	論文修正
	第24回	内容	論文の修正1	予習	論文を再検討し修正する。
				復習	指導をもとに論文を修正する。
	第25回	内容	論文の修正2	予習	論文を再検討し修正する。
				復習	指導をもとに論文を修正する。
	第26回	内容	論文の発表の準備1	予習	論文の発表準備をする。
				復習	授業をもとに修正をする。
	第27回	内容	論文の発表の準備2	予習	論文の発表準備をする。
				復習	授業をもとに修正をする。
	第28回	内容	論文発表1：前半	予習	発表の練習をする。
				復習	発表をもとにまとめをする。
	第29回	内容	論文発表2：後半	予習	発表の練習をする。
				復習	発表をもとにまとめをする。
第30回	内容	まとめ	予習	振り返りをまとめる。	
			復習	他者の意見をふまえ自己評価する。	
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
課題へのフィードバック	毎回の研究状況についてコメントをする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：論文（70%）、発表（20%）、授業態度【意欲】（10%）				
教科書	なし				
参考文献	適宜紹介する				
補足事項	授業時間以外でも積極的に研究に取り組むこと				

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナバリンクコード	CHS22209		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	理論と実践をむすびつけながら、3年間学んだことの総括をするのが本授業の目的である。自分の興味のある分野に、社会的な意義を見出しながら、先行研究や実践研究をもとに、研究活動を行う。							
到達目標	1. 3年間の学びの総括をするプロセスで、自己表現力を身につけている。 2. 自分の興味のあることを突き詰める楽しさを通して、学びの楽しさを実感している。 3. 課題を提出するプロセスで自立した社会人としての基礎力を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(1, 2, 3, 4, 5) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	課題設定			予習	自分の興味のある課題を考える。	
					復習	取り組む課題をまとめる。		
	第2回	内容	研究倫理①盗用・改ざん・情報漏洩 (グループワーク・討議・発表)			予習	研究倫理について読んでくる	
					復習	研究倫理について理解したことをまとめる		
	第3回	内容	研究倫理②捏造・著作権 (グループワーク・討議・発表)			予習	倫理違反について読んでくる	
					復習	倫理違反について理解したことをまとめる		
	第4回	内容	参考文献の概略① (グループワーク・討議・発表)			予習	参考文献を探す	
					復習	参考文献をリストアップする		
	第5回	内容	参考文献の概略② (グループワーク・討議・発表)			予習	参考文献をまとめる	
					復習	学びの点をまとめる		
	第6回	内容	参考文献の概略③ (グループワーク・討議・発表)			予習	参考文献をまとめる	
					復習	学びの点をまとめる		
	第7回	内容	参考文献の概略④ (グループワーク・討議・発表)			予習	参考文献をまとめる	
					復習	学びの点をまとめる		
	第8回	内容	研究方法の設定① 図表 (グループワーク・討議・発表)			予習	研究の進め方について考えてくる	
					復習	研究の方法を決める		
	第9回	内容	研究方法の設定② 絵本 (グループワーク・討議・発表)			予習	研究の方法の実践の仕方を考える	
					復習	研究の方法を実践する		
	第10回	内容	研究方法の設定③ 映像 (グループワーク・討議・発表)			予習	研究の方法をまとめる	
					復習	研究の方法の多様性について考える		
	第11回	内容	研究方法の設定④ URL (グループワーク・討議・発表)			予習	著作権について考える	
				復習	引用の仕方をまとめる			
第12回	内容	研究方法の設定⑤ 写真 (グループワーク・討議・発表)			予習	著作権について考える		
				復習	引用の仕方をまとめる			
第13回	内容	研究内容① 先行研究のレビュー (グループワーク・討議・発表)			予習	先行研究を調べる		
				復習	先行研究をまとめる			
第14回	内容	研究内容② 研究実施のための配慮 (グループワーク・討議・発表)			予習	先行研究を調べる		
				復習	先行研究をまとめる			
第15回	内容	研究内容③ 研究への責任 (グループワーク・討議・発表)			予習	自分の意見を考える		
				復習	自分の意見をまとめる			
第16回	内容	研究内容④ 情報管理の遵守 (グループワーク・討議・発表)			予習	自分の意見を考える		
				復習	自分の意見をまとめる			
第17回	内容	研究内容⑤ 抵触懷疑への対応 (グループワーク・討議・発表)			予習	自分の意見を管変える		
				復習	自分の意見をまとめる			
第18回	内容	考察・省察① 研究成果への責任 (グループワーク・討議・発表)			予習	データの取り扱いを読んでくる		
				復習	自己のデータの活用を考える			
第19回	内容	考察・省察② 研究成果の責任 (グループワーク・討議・発表)			予習	自分の意見とデータとの関連を考える		
				復習	学んだ点を改善する			
第20回	内容	考察・省察③ 自己研鑽への義務 (グループワーク・討議・発表)			予習	自己の意見とデータとの関連を考える		
				復習	学んだ点を改善する			
第21回	内容	考察・省察④ 自己研鑽への義務 (グループワーク・討議・発表)			予習	自己の意見とデータとの関連を考える		
				復習	学んだ点を改善する			

	第 22 回	内容	考察・省察⑤ 自己研鑽への義務 (グループワーク・討議・発表)	予習	事故の意見とデータとの関連を考える
				復習	学んだ点を改善する
	第 23 回	内容	全体把握① (グループワーク・討議・発表)	予習	論旨を通すことを考える
				復習	論旨が通るように全体を整える
	第 24 回	内容	全体把握② (グループワーク・討議・発表)	予習	表現の誤謬に気を付けてみってくる
				復習	表現が洗練されるよう改善する
	第 25 回	内容	序・結の作成① (グループワーク・討議・発表)	予習	結の在り方を考える
				復習	結をまとめる
	第 26 回	内容	序・結の作成② (グループワーク・討議・発表)	予習	序の在り方を考える
				復習	序をまとめる
	第 27 回	内容	修正・改善① 自己研鑽 (グループワーク・討議・発表)	予習	全体を読み返してくる
				復習	改善点を修正する
	第 28 回	内容	修正・改善② 自己研鑽 (グループワーク・討議・発表)	予習	全体を読み返してくる
				復習	改善点を修正する
	第 29 回	内容	修正・改善 ③自己研鑽 (グループワーク・討議・発表)	予習	全体を読み返してくる
				復習	改善点を修正する
	第 30 回	内容	まとめ	予習	自己表現したものをまとめてくる
				復習	自己表現したものを発表する
予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	授業内にコメントをつけて返却する				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（50%）、作品・発表（50%）				
教科書	『保育学研究倫理ガイドブック』編集：一般社団法人日本保育学会 フレーベル館				
参考文献					
補足事項	毎回の授業にノート提出をもとめ評価することから、出席をすることが必須である。				

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナバリンクコード	CHS22209		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他( )							
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。研究テーマとしては、「地域における健全育成」、「現代における子どもの居場所」等のキーワードを中心とする。							
到達目標	1. 論文の作成方法を習得している。 2. 少人数のゼミナール形式で協調性を身につけている。 3. 論文作成を通して、保育者として必要な専門的知識を習得している。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 1・5 ) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	授業の進め方	予習	自分の関心あるテーマを探す			
				復習	自身の生活を考える			
	第2回	内容	文献による基礎研究	予習	文献を探す			
				復習	探した文献をまとめる			
	第3回	内容	視聴覚教材による基礎研究	予習	関連資料を探す			
				復習	教材から学んだことをまとめる			
	第4回	内容	テーマの設定	予習	テーマを考えてくる			
				復習	テーマを細かく分解してくる			
	第5回	内容	テーマの確定	予習	細分化したテーマを書き出してくる			
				復習	テーマについて調べてくる			
	第6回	内容	文献・資料の収集方法	予習	テーマに関して検索してくる			
				復習	学んだことをプリントにまとめる			
	第7回	内容	文献の収集	予習	文献の検索			
				復習	収集した文献の整理			
	第8回	内容	資料の収集	予習	資料の検索			
				復習	収集した資料の整理			
	第9回	内容	研究論文の読み方	予習	資料をまとめてくる			
				復習	集めた資料・文献を読む			
	第10回	内容	調査、研究の方法	予習	読んだ資料をまとめる			
				復習	学んだことをプリントにまとめる			
	第11回	内容	論文の執筆について	予習	課題論文を読んでくる			
復習				学んだことをプリントにまとめる				
第12回	内容	中間発表 前半グループ	予習	発表用レジュメづくり				
			復習	発表の振り返り				
第13回	内容	中間発表 後半グループ	予習	発表用レジュメづくり				
			復習	発表の振り返り				
第14回	内容	論文の組み立て	予習	配布プリントを読んでくる				
			復習	学んだことをプリントにまとめる				
第15回	内容	研究方法の検討	予習	研究方法の案を考えてくる				
			復習	研究方法を練り直す				
第16回	内容	調査票の作り方	予習	先行研究を分析する				
			復習	学んだことをプリントにまとめる				
第17回	内容	調査票の作成	予習	論文作成上の疑問を整理する				
			復習	論文執筆を進める				
第18回	内容	研究論文の執筆 ① 研究動機	予習	論文作成上の疑問を整理する				
			復習	論文執筆を進める				
第19回	内容	研究論文の執筆 ② 用語整理・定義・動向	予習	論文作成上の疑問を整理する				
			復習	論文執筆を進める				
第20回	内容	研究論文の執筆 ③ 研究調査等	予習	論文作成上の疑問を整理する				
			復習	論文執筆を進める				
第21回	内容	研究論文の執筆 ④ 情報整理	予習	論文作成上の疑問を整理する				
			復習	論文執筆を進める				

	第22回	内容	研究論文の執筆 ⑤ 研究内容整理	予習	論文作成上の疑問を整理する
				復習	論文執筆を進める
	第23回	内容	研究論文の執筆 ⑥ 提出前確認	予習	論文作成上の疑問を整理する
				復習	論文執筆を進める
	第24回	内容	中間発表	予習	論文作成上の疑問を整理する
				復習	論文執筆を進める
	第25回	内容	論文の修正 ① 形式の整理	予習	論文作成上の疑問を整理する
				復習	論文執筆を進める
	第26回	内容	論文の修正 ② 文献の整理	予習	論文作成上の疑問を整理する
				復習	論文執筆を進める
	第27回	内容	論文の修正 ③ 内容修正	予習	論文作成上の疑問を整理する
				復習	論文執筆を進める
	第28回	内容	論文発表 準備	予習	論文作成上の疑問を整理する
				復習	論文をまとめる
	第29回	内容	論文発表	予習	論文全体の振り返りを行う
				復習	発表用資料を作成する
	第30回	内容	まとめ	予習	論文内容をまとめ発表準備をする
				復習	他者の研究から学んだことをまとめる
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
課題へのフィードバック	作成した論文、及び論文を元にした発表の講評を伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：論文（70%）、発表（20%）、授業態度【積極的参加】（10%）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
補足事項	なし				

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	ほしの おさむ 星野 治
ナンバリングコード	CHS22209		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業研究(論文もしくは作品の作成)を行う。 講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。 卒業研究成果物の提出後は、各ゼミナール単位での発表会が行われる。							
到達目標	1. “保育・幼児教育の専門家”としての将来の自分自身を想定した、「災害サバイバルシミュレーション」の実行を通して、いつ現実化するかわからない災害に遭遇した際の心構えを身につけている。 2. 上記シミュレーションの結果を卒業研究成果物として整理することにより、特に防災の観点からみて保育者に必要とされる知識を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 1,2,3,4,5 ) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	前期ガイダンス 演習の目的や授業の進めかた等々についての説明	予習	シラバス全体に目を通しておく。			
				復習	今後一年間の授業の流れを意識し理解する。			
	第2回	内容	研究の前準備① 大学での学びの意味、ノート作成のノウハウ	予習	参考書の「第0講～第2講」の概要を把握する。			
				復習	以後第6回までの授業の流れを把握する。			
	第3回	内容	研究の前準備② テキストの読みかた、要約のノウハウ	予習	参考書の「第3講～第4講」の概要を把握する。			
				復習	授業時に指定された演習を、授業時間内に行う。			
	第4回	内容	研究の前準備③ 思考展開と意見表明、図書館の利用	予習	参考書の「第5講～第6講」の概要を把握する。			
				復習	図書館等で選んだ資料に関する見解を整理する。			
	第5回	内容	研究の前準備④ レポート・論文の書きかた	予習	参考書の「第7講～第8講」の概要を把握する。			
				復習	第4回復習時に整理した見解を文章化する。			
	第6回	内容	研究の前準備⑤ レジュメの作成および発表のノウハウ	予習	参考書の「第9講～第10講」の概要を把握する。			
				復習	第5回復習時の見解に対するレジュメを作る。			
	第7回	内容	過去の卒業研究例の閲覧 本学科卒業生の論文・作品の鑑賞	予習	第1回授業時の配布資料を熟読する。			
				復習	卒業研究のイメージを各自なりに把握する。			
	第8回	内容	研究の前準備⑥ 既存資料(教員が準備する)の通解	予習	事前に配布された文字資料の概要を把握する。			
				復習	取り扱った文字資料に関する見解を文章化する。			
	第9回	内容	研究の前準備⑦ 既存資料(教員が準備する)の通解	予習	事前に通告された映像資料の概要を把握する。			
				復習	取り扱った映像資料に関する見解を文章化する。			
	第10回	内容	研究の前準備⑧ 既存資料(教員が準備する)の通解	予習	事前に指定された過去の災害の概要を把握する。			
			復習	取り扱った災害に関する見解を文章化する。				
第11回	内容	研究の前準備⑨ 既存資料(履修者が準備する)の検索	予習	第10回授業時に指示された準備を行う。				
			復習	図書館等で既存資料を検索する。				
第12回	内容	研究の前準備⑩ 既存資料(履修者が準備する)の内容理解	予習	第11回復習時の検索資料を各自持参する。				
			復習	各自が選択した資料を精読して見解を整理する。				
第13回	内容	研究の前準備⑪ 既存資料(履修者が準備する)の発表準備	予習	各自が選択した資料に関する見解を文章化する。				
			復習	文章化した見解に対するレジュメを作成する。				
第14回	内容	研究の前準備⑫ 既存資料(履修者が準備する)の見解発表	予習	第13回復習時に作成したレジュメを持ち寄る。				
			復習	他履修者の発表に対する見解を文章化する。				
第15回	内容	授業前半(第1回～第14回)のまとめ これまでの演習内容の総括および整理	予習	第14回授業までの配布資料類を概観しておく。				
			復習	授業前半部の学習内容を整理し文章化する。				
第16回	内容	後期ガイダンス 演習目的の確認、シミュレーションの意義	予習	再度、シラバス全体に目を通しておく。				
			復習	今後半年間の授業の流れを意識し理解する。				
第17回	内容	研究の前準備⑬ 到達目標を意識した資料(教員が準備する)の通解	予習	前もって配布された文字資料の概要を把握する。				
			復習	取り扱った文字資料に関する見解を整理する。				
第18回	内容	研究の前準備⑭ 到達目標を意識した資料(教員が準備する)の通解	予習	前もって通告された映像資料の概要を把握する。				
			復習	取り扱った映像資料に関する見解を整理する。				
第19回	内容	研究の前準備⑮ 到達目標を意識した資料(教員が準備する)の通解	予習	事前に示された過去の防災例の概要を把握する。				

			復習	過去の防災例に関する各自の見解を整理する。
第20回	内容	前期ガイダンス 演習の目的や授業の進めかた等々についての説明	予習	前もって配布された資料類に目を通しておく。
			復習	シミュレーションの目的や意義を理解する。
第21回	内容	研究の前準備⑩ シミュレーションの条件設定	予習	第20回授業時の指示内容について理解する。
			復習	シミュレーションの条件設定を各自で行う。
第22回	内容	研究の前準備⑪ シミュレーションの実施	予習	第21回復習時の条件設定を持ち寄る。
			復習	シミュレーションの実行結果を整理する。
第23回	内容	卒業研究① 本番シミュレーションのための準備	予習	シミュレーションの実施方法を再度確認する。
			復習	シミュレーションの詳細な条件設定を行う。
第24回	内容	卒業研究② 本番シミュレーションの開始	予習	第23回復習時の条件設定を持ち寄る。
			復習	シミュレーションを実施し、条件設定を見直す。
第25回	内容	卒業研究③ 本番シミュレーションの継続	予習	第24回シミュレーションの結果や見直された条件設定を持ち寄る。
			復習	シミュレーションを再実施し、全体の内容および結果をより一層充実させる。
第26回	内容	卒業研究④ 本場シミュレーション結果の中間発表	予習	第25回復習時のシミュレーション結果に関して整理し、発表できるようにしておく。
			復習	他の履修者のシミュレーション結果を参考にし、各自のシミュレーションを増補改訂する。
第27回	内容	卒業研究⑤ 本番シミュレーションの完成	予習	第26回のシミュレーション結果およびそれに対する各自の見解を整理する。
			復習	各自のシミュレーションの決定版を完成する。
第28回	内容	卒業研究⑥ 卒業研究成果物の作成	予習	各自のシミュレーションの決定版を持ち寄る。
			復習	各自のシミュレーションの決定版を所定の様式で卒業研究成果物に仕上げ、大学あて提出する。
第29回	内容	卒業研究⑦ 各自の研究発表および質疑応答	予習	提出済み成果物に対するレジュメを作成し、持ち寄る。
			復習	自他のシミュレーションに対する各自の見解を文章化する。
第30回	内容	全体のまとめ 通年の演習内容の総括および整理	予習	授業開始以後のすべての配布物や各自の卒業研究に再度、目を通しておく。
			復習	幼児教育・保育に対する本授業の学習意義を文章化して、提出する。
予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。				
課題へのフィードバック	資料類の通解を行う際、必要な確認テストおよび解説を行う。 履修者各自の見解を文章化したもの（レポート、レジュメ、その他）は随時提出が求められ、必要な添削指導を経て再度返却される。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70%）、作品・発表（20%）、授業態度【積極的参加】（10%）			
教科書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために』（藤田哲也ほか、北大路書房） 注意：上記テキストは、一年生向け授業「短大基礎講座」で使ったものを再利用する（所持している場合は再購入しなくてよい）。			
参考文献	必要に応じて紹介する。			
補足事項	1. 上記「授業計画」に示す授業のうち第2回～第6回の授業は、教科書の内容に即して開講する。 2. 架空イベントの詳細を頭の中で想起し整理するには、豊かな想像力および強い精神力が求められる。 3. 卒業研究成果物（本番シミュレーション結果）は、「作品」として扱われる。 4. 提出期限後に成果物の修正を求められた場合、その修正作業に対する評価は「発表」に含まれる。			

科目名	総合演習Ⅱ(卒業研究)		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナバリンクコード	CHS22209		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	研究テーマとして、医療・保健の分野、病児、女性のライフサイクル(妊娠・出産などを含めた)サポートなどのキーワードを取り扱う。保育・幼児教育に関する疑問や興味、関心のあるテーマを研究課題として、論文を作成する。							
到達目標	1. 論文を執筆する意義が見出せる。 2. 論文作成を通して、自らの問題を提起し、客観的分析およびその解決策をみつけることができる。 3. ゼミでの協調性を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科(1、2、5) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション ～授業の進め方～ 年間計画			予習	自分の興味あるテーマをさがす	
					復習	日頃の疑問を考える		
	第2回	内容	<b>研究の意義</b> 卒業研究とは			予習	日頃、疑問に思うテーマについて考える	
					復習	研究の意義についてまとめる		
	第3回	内容	研究における倫理的配慮 これだけは知っておきたい研究用語			予習	倫理的配慮とは何かについて考える	
					復習	教材から学んだことことをまとめる		
	第4回	内容	テーマの設定 興味あることまたは疑問から研究課題へ			予習	研究テーマについて考えてくる	
					復習	テーマを細かくしてみる		
	第5回	内容	先行研究検索			予習	先行研究について調べてくる	
					復習	テーマについて検討する		
	第6回	内容	テーマの確定			予習	研究計画とは何か調べてくる	
					復習	学んだことをプリントにまとめる		
	第7回	内容	<b>研究計画</b> ① 研究プロセスについて			予習	文献の検索方法について調べてくる	
					復習	収集した文献の整理		
	第8回	内容	② 文献検索と検討			予習	研究の方法を考えてくる	
					復習	研究方法を検討する		
	第9回	内容	③ 研究方法を決める データ収集法			予習	データ収集法について調べる	
					復習	集めた資料・文献を読む		
	第10回	内容	④ データ分析法			予習	データ分析法について調べる	
					復習	学んだことをプリントにまとめる		
	第11回	内容	⑤ 研究計画書立案			予習	研究デザインについて考えてくる	
				復習	研究デザインについてまとめる			
第12回	内容	研究デザイン 報告会			予習	報告用レジュメ作成		
				復習	報告会振り返り			
第13回	内容	研究デザイン 報告会			予習	報告用レジュメ作成		
				復習	報告会振り返り			
第14回	内容	<b>研究の実施</b> 研究協力依頼について			予習	研究協力依頼がなぜ必要か考えてくる		
				復習	研究協力依頼の方法についてまとめる			
第15回	内容	研究結果の解釈			予習	研究計画書を振り返る		
				復習	研究を練り直す			
第16回	内容	研究論文の種類とまとめ方			予習	先行研究を分析する		
				復習	学んだことをまとめる			
第17回	内容	図・表・資料の作成、参考文献の書き方			予習	研究における効果的表記について考えてくる		
				復習	表記の方法についてまとめる			
第18回	内容	<b>研究論文の執筆</b> ① 研究動機			予習	論文作成する上での疑問を整理する		
				復習	論文の執筆を進める			
第19回	内容	② キーワード・定義・動向			予習	論文作成する上での疑問を整理する		
				復習	論文の執筆を進める			
第20回	内容	③ 研究調査			予習	論文作成する上での疑問を整理する		
				復習	論文の執筆を進める			
第21回	内容	④ 情報整理			予習	論文作成する上での疑問を整理する		
				復習	論文の執筆を進める			

	第22回	内容	⑤ 研究内容	予習	論文作成する上での疑問を整理する
				復習	論文の執筆を進める
	第23回	内容	⑥ 論文提出前 事前チェック	予習	論文作成する上での疑問を整理する
				復習	論文の執筆を進める
	第24回	内容	⑦ 論文提出前 事前チェック	予習	論文作成する上での疑問を整理する
				復習	論文の執筆を進める
	第25回	内容	<b>論文修正</b> ① 形式	予習	論文作成する上での疑問を整理する
				復習	論文の執筆を進める
	第26回	内容	② 文献	予習	論文作成する上での疑問を整理する
				復習	論文の執筆を進める
	第27回	内容	③ 内容	予習	論文作成する上での疑問を整理する
				復習	論文の執筆を進める
	第28回	内容	論文発表準備 (パワーポイント作成)	予習	プレゼンテーション方法について調べる
				復習	発表用資料作成を行う
	第29回	内容	<b>論文発表</b>	予習	発表の構想を練り、準備を行う
				復習	発表の振り返り
	第30回	内容	まとめ	予習	自己の卒業研究の振り返り
				復習	ゼミでの論文作成・関わりの振り返り
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。					
課題へのフィードバック	論文内容・発表についての講評を、具体的に伝える				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：論文（70%）、発表・質疑応答力（20%）、授業態度【積極性・協調性】（10%）				
教科書	なし				
参考文献	なし				
注意事項	なし				

科目名	カウンセリング論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文
ナンバリングコード	CLP22202		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話しを如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。 <u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u>							
到達目標	1. カウンセリングの技法を習得している。 2. 実際に悩んでいる人の相談相手になることができる 3. ピアヘルピングの理論を理解している。 4. ピアヘルピングを行うことができる							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（2,3,5） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	カウンセリングの定義	予習	教科書 p.16-21 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
	第2回	内容	構成的グループエンカウンター	予習	教科書 p.10-15 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
	第3回	内容	現代社会とカウンセリング	予習	教科書 p.16-21 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
	第4回	内容	カウンセリングと近接領域	予習	教科書 p.22-32 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
	第5回	内容	ピアヘルピングの基本	予習	教科書 p.33-39, 46-51 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
	第6回	内容	リレーションの作り方	予習	教科書 p.33-45 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
	第7回	内容	問題の把握	予習	教科書 p.33-45 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
	第8回	内容	援助法について	予習	教科書 p.52-64 を読んでおく。			
				復習	授業で扱った内容を覚える。			
第9回	内容	問題の解決法	予習	教科書 p.65-97 を読んでおく。				
			復習	授業で扱った内容を覚える。				
第10回	内容	青年期の諸問題	予習	教科書 p.98-121 を読んでおく。				
			復習	授業で扱った内容を覚える。				
第11回	内容	グループの動かし方	予習	教科書 p.122-142 を読んでおく。				
			復習	授業で扱った内容を覚える。				
第12回	内容	ゲシュタルトセラピー	予習	ゲシュタルトセラピーとは何か調べておく。				
			復習	ゲシュタルトセラピー理論を再確認する。				
第13回	内容	論理療法	予習	論理療法とは何か調べておく。				
			復習	論理療法理論を再確認する。				
第14回	内容	ロールプレイ	予習	ロールプレイの設定を考えておく。				
			復習	相談実践場面を考える。				
第15回	内容	保育者とカウンセリング	予習	ここまでの授業内容を振り返っておく。				
			復習	保育現場での相談全般を考える。				
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	授業を理解しているか、常に質問を行っていく。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（90%）、授業態度【積極的参加】（10%）							
教科書	『新版 ピアヘルパーハンドブック』（日本教育カウンセラー協会、図書文化社） 『ピアヘルパーワークブック』（日本教育カウンセラー協会、図書文化社）							
参考文献	なし							
補足事項	ピアヘルパー資格受験希望者は必ず受講すること。							

科目名	保育施設経営論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	SWS22211		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	保育所を経営するという事は、保育実践の“価値”を生み出し続けることであるという真理を理解する。そのために、経営の条件、経営者の条件を学び、「経営品質」の考え方を獲得し、身につけることを目的とする。							
到達目標	1. 学生1人1人が経営者としてばかりではなく、保育実践者としての倫理観を習得できる 2. 保育施設を経営する観点から、保育実践を磨いていくフレームワークを習得できる 3. 自分の良さを発見し、職場で輝く働き方を習得できる 4. 組織人としての心構えを習得できる							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1, 2, 3, 5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	保育所経営の条件	予習	シラバスを読んでくる			
				復習	人生の第一歩シートをまとめる			
	第2回	内容	価値を生み出す保育所経営活動	予習	経営者の条件を考える			
				復習	経営理念と方針を考える			
	第3回	内容	保育所におけるリーダーシップ	予習	リーダーシップとは何かを考える			
				復習	経営の本質と認識をまとめる			
	第4回	内容	保育所における社会的責任	予習	社会的責任とは何かを考える			
				復習	保育士に守らせたい倫理観をまとめる			
	第5回	内容	保育業界市場の理解と対応	予習	保育業界とはどんなものか考える			
				復習	保育致傷とその理由をまとめる			
	第6回	内容	保育所戦略の策定と展開	予習	保育所とはどんな所か考える			
				復習	保育所の役割とあるべき姿をまとめる			
	第7回	内容	保育士の能力向上（グループワーク、発表、討議）	予習	保育士に必要な能力を考える			
				復習	理想とする職場環境をまとめる			
	第8回	内容	保育所の能力向上（グループワーク、発表、討議）	予習	人材育成とは何かを考える			
				復習	保育士資質向上の必然性をまとめる			
第9回	内容	保育環境という職場環境	予習	職場とは何かを考える				
			復習	職場内コミュニケーションをまとめる				
第10回	内容	保育価値創造のプロセス	予習	子ども、保護者、保育士の関係性を考える				
			復習	顧客価値とは何かをまとめる				
第11回	内容	情報マネジメント（グループワーク、発表、討議）	予習	保育に必要な情報とは何かをまとめる				
			復習	情報コントロールの必然性をまとめる				
第12回	内容	保育所経営活動結果分析（グループワーク、発表、討議）	予習	顧客とは何かを考える				
			復習	顧客満足の見点をまとめる				
第13回	内容	人事・労務管理①：自己啓発 （グループワーク、発表、討議）	予習	労務管理とは何かを考える				
			復習	自己分析を行いまとめる				
第14回	内容	人事・労務管理②：自己育成 （グループワーク、発表、討議）	予習	人事管理とは何かを考える				
			復習	他己分析を行いまとめる				
第15回	内容	経営するという事	予習	経営者とはどうあるべきか考える				
			復習	経営と人生とを考える				
予習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	毎授業ごとの課題レポートにコメントし、返却する							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（100%）							
教科書	なし							
参考文献	『日本経営品質アセスメント基準書』（日本経営品質委員会、日本経営品質）、 『社会福祉施設・事業者の為の経営ハンドブック』（東京都社会福祉協議会）							
補足事項	なし							

科目名	地域福祉		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22210		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。							
到達目標	1. 地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解している。 2. 行政組織と民間組織の役割を理解している。 3. 現代における地域福祉の課題を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1・5 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	新しい社会福祉システム	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	地域福祉の基本的な考え方	予習	教科書「子ども支援」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に子ども支援についてまとめる			
	第3回	内容	地域福祉の主体と福祉教育	予習	教科書「教育と福祉制度」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に福祉制度についてまとめる			
	第4回	内容	行政組織と民間組織の役割と実際	予習	教科書「児童・地域福祉」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に地域組織についてまとめる			
	第5回	内容	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割	予習	教科書「相談援助」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に相談援助についてまとめる			
	第6回	内容	住民の参加と方法	予習	教科書「地域福祉理解」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に地域福祉理解の内容をまとめる			
	第7回	内容	地域子育て支援の施設を見学	予習	子育て支援施設について理解を深める			
				復習	見学から学んだことを整理する			
	第8回	内容	地域子育て支援の課題	予習	理解したことをレポートにして提出			
				復習	支援課題を整理する			
第9回	内容	地域における社会資源	予習	教科書「地域福祉関連機関」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に関連機関についてまとめる				
第10回	内容	社会資源の活用・調整	予習	教科書「ボランティア」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心にボランティアについてまとめる				
第11回	内容	民生委員とは	予習	教科書「民生委員」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に民生委員についてまとめる				
第12回	内容	地域における福祉サービスの実際	予習	居住地域の福祉サービスを調べる				
			復習	調べた内容をレポートにまとめる				
第13回	内容	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方	予習	日本の福祉サービスの章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に福祉サービスの内容をまとめる				
第14回	内容	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション	予習	教科書「地域ケア」の章を読んでおく				
			復習	プリントを中心に地域ケアの内容をまとめる				
第15回	内容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する				
			復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る				
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	・課題・提出物等について確認を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70%）、授業態度【積極的参加】（30%）							
教科書	『新版子育てとケアの原理』（高橋貴志監修、望月雅和編著、北樹出版）							
参考文献	なし							
補足事項	なし							

科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22104		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	児童館は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。そして、放課後児童クラブは、同法に基づき小学生のうち、保護者が昼間家庭にいないものに、適切な遊び及び生活の場を与え、健全な育成を図る事業である。授業では、児童館・放課後児童クラブの歴史、目的、役割、利用状況、現状・課題を学んでいく。							
到達目標	1. 児童館・放課後児童クラブの機能や地域における役割を理解している。 2. 児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援や児童の健全育成を理解している。 3. 児童館が小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っていることを理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	児童厚生員とその資格の説明	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	この科目で習得すべき内容を理解する			
	第2回	内容	児童館・放課後児童クラブの説明	予習	教科書「児童館の概要」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に児童館の概要をまとめる			
	第3回	内容	現代の子どもたちの遊び環境	予習	教科書「児童館の施設特性」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に遊び環境についてまとめる			
	第4回	内容	法的根拠・事業目的	予習	教科書「事業目的」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に事業目的についてまとめる			
	第5回	内容	児童館・放課後児童クラブの種別及び機能	予習	教科書「施設規模別特徴」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に種別と機能をまとめる			
	第6回	内容	小型児童館・児童センター・大型児童館の設置及び運営	予習	教科書「施設特性」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に施設特性についてまとめる			
	第7回	内容	児童館ガイドライン	予習	教科書「ガイドライン」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心にガイドラインを整理する			
	第8回	内容	職員の役割	予習	教科書「児童厚生員の役割」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に職員の役割についてまとめる			
	第9回	内容	放課後児童健全育成事業の概要と実態	予習	教科書「放課後児童クラブ」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に児童クラブについてまとめる			
	第10回	内容	放課後児童クラブの現状と課題	予習	教科書「クラブの現状」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に現状と課題についてまとめる			
	第11回	内容	小学生・中学生・高校生の対応	予習	教科書「児童館の機能」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に中高生対応の内容をまとめる			
	第12回	内容	児童館の活動内容と事例	予習	教科書「児童館プログラム」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に活動内容をまとめる			
	第13回	内容	放課後児童クラブの活動内容と事例	予習	教科書「実践事例」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に事例から学んだことをまとめる			
	第14回	内容	子育て支援	予習	教科書「子育て支援」の章を読んでおく			
				復習	プリントを中心に子育て支援の内容をまとめる			
	第15回	内容	これまでのまとめ	予習	教科書・プリントの内容を整理する			
				復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る			
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	・小テストを行い、試験後に解答を示し、解説をおこなう。 ・提出物等について確認を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：筆記試験（50%）、課題（20%）、授業態度【積極的参加】（30%）※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。							
教科書	『児童館論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）							
参考文献	なし							
補足事項	児童館実習参加者は必修となる。							

科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いがき としろう 井垣 利朗
ナンバリングコード	SWS22105		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	児童館・放課後児童クラブの活動概要、行事の企画立案法、利用者への対応、地域とのかかわり等、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を理解する。授業の中で児童館活動事例の映像と子どもの遊びを紹介し、実践的な指導スキルが身につくことを目的とする。							
到達目標	1. 児童館・放課後児童クラブの機能と役割、活動の概要を提示することができる。 2. 地域の子育て支援のエキスパートとして、児童のソーシャルワークスキルを身につけている。 3. 現場における実践可能なプログラムの企画立案ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科(2,4 ) 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション（児童館・放課後児童クラブの一日、年間の流れ）	予習	シラバスを読む。	復習	児童館の一日について理解をする。	
	第2回	内容	児童館の概要（児童館の歴史と設置目的、法的根拠、児童館ガイドライン等）	予習	児童館ガイドラインの第1章を読む。	復習	児童館の機能と役割を整理する。	
	第3回	内容	子どもの発達と遊びの支援の実際（グループワーク）	予習	小学生の好きな遊びを調査する。	復習	子どもの発達と遊びについてまとめる。	
	第4回	内容	子どもの遊びを通じた健全育成（グループワーク）	予習	子どもの現状を表すキーワードを調査する。	復習	子どもの遊びの効用を理解する。	
	第5回	内容	子どもの居場所づくりと保護者への子育て支援（発表）	予習	児童館の活動についてレポートを作成する。	復習	居場所づくりの必要性について考える。	
	第6回	内容	ボランティアの育成と地域連携（グループワーク）	予習	ボランティア体験の感想を整理する。	復習	ボランティアと地域連携の必要性を理解する。	
	第7回	内容	放課後児童クラブの概要（法的根拠、活動内容、育成支援の内容、放課後児童クラブ運営指針等）	予習	放課後児童クラブのレポートを作成する。	復習	放課後児童クラブ運営指針を読む。	
	第8回	内容	子育て支援を行う乳幼児活動（発表）	予習	児童館の乳幼児活動の事例を調査する。	復習	子育て支援における配慮する点を理解する。	
	第9回	内容	体験・自己実現を目指す小学生活動（グループワーク）	予習	児童館の小学生活動の事例を調査する。	復習	小学生活動の配慮する点を理解する。	
	第10回	内容	地域社会と結びつける中高生活動（グループワーク）	予習	児童館の中高生活動の事例を調査する。	復習	中高生活動の配慮する点を理解する。	
	第11回	内容	子どものニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（プレゼンテーション）	予習	イベント企画立案の課題を作成する。	復習	イベント企画立案の手法を整理する。	
	第12回	内容	グループ企画発表会と講評（プレゼンテーション）	予習	グループ企画発表の事前準備をする。	復習	イベント企画の留意点を理解する。	
	第13回	内容	児童厚生員の職務と子どもの接し方（ロールプレイング）	予習	児童館ガイドライン第5章を読む。	復習	児童厚生員の職務を理解する。	
	第14回	内容	児童館・放課後児童クラブの運営（倫理、安全管理、防犯防災対策等）	予習	子どもの安全管理について考える。	復習	児童館の運営について理解する。	
	第15回	内容	児童館・放課後児童クラブに求められる社会的課題（ディスカッション・発表）	予習	児童館の必要性のレポートを作成する。	復習	児童館の社会的課題と必要性を整理する。	
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。							
課題へのフィードバック	作成したレポート、発表内容、プレゼンテーション内容に対して、コメント等のフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（15%）、作品・発表（15%）、実技（15%）、授業態度【積極的参加】（55%）							
教科書	使用しない。毎回、資料を配布する。							
参考文献	『児童館論』（一般財団法人児童健全育成推進財団）、『健全育成論』（一般財団法人児童健全育成推進財団） 『子どもは歴史の希望-児童館理解の基礎理論-』（一般財団法人児童健全育成推進財団 フレーベル館）							
補足事項	なし							

科目名	児童文化（感受性開発を含む）	単位数	2	授業時間数	60	担当教員	はまな なな 浜名 那奈
ナンバリングコード	CHS22114	授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）						
授業の内容	児童文化財（わらべうた、手遊び、絵本、パネルシアター、おもちゃ等）を子どもたちに手渡す保育者として、まず自らがそれらに触れることを楽しみ、感受性を磨いていってほしい。この授業では、児童文化全般にわたって知識を深め、優れた児童文化財を見抜く力を養い、それらをどのように子どもたちに手渡していくかを学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童文化に触れることを楽しみ、それによって自らの感受性を磨くことができる。</li> <li>2. 児童文化財を制作、実演することができる。</li> <li>3. 児童文化の知識を習得している。</li> <li>4. 優れた児童文化財を選び取り、子どもたちに手渡すことができる。</li> </ol>						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1, 2, 3, 4 ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	第1回	内容	読み聞かせの経験をふり返る 手遊びを調べる（グループワーク）	予習	シラバスを読んでおく。	復習	調べた手遊びを練習する。
	第2回	内容	講義：児童文化の概念と成立	予習	児童文化の概念について調べる。	復習	児童文化の概念についてまとめる。
	第3回	内容	講義：子ども観の変遷	予習	子ども観とは何かを調べる。	復習	子ども観の歴史をまとめる。
	第4回	内容	講義：子どもの文化財①：無形の文化財	予習	無形の文化財には何があるか調べる。	復習	無形の文化財についてまとめる。
	第5回	内容	講義：子どもの文化財②：有形の文化財	予習	有形の文化財には何があるか調べる。	復習	有形の文化財についてまとめる。
	第6回	内容	講義：絵本とは何か	予習	絵本とは何か調べる。	復習	絵本とは何かまとめる。
	第7回	内容	ミトンくま①制作：前半	予習	制作の準備をし、まつり縫いの仕方を調べる。	復習	制作の手順を理解する。
	第8回	内容	ミトンくま②制作：後半	予習	制作の手順を整理しておく。	復習	ミトンくまを演じる練習をする。
	第9回	内容	講義：発達に応じた絵本の選び方	予習	自分が絵本を選ぶときの基準は何か考える。	復習	発達に応じた絵本の選び方をまとめる。
	第10回	内容	読み聞かせの実践①（グループワーク）	予習	読み聞かせする絵本を選び、練習する。	復習	グループ練習をふり返り、自宅でも練習する。
	第11回	内容	読み聞かせの実践②（グループワーク）	予習	読み聞かせする絵本を選び、練習する。	復習	グループ練習をふり返り、自宅でも練習する。
	第12回	内容	発表：絵本の読み聞かせ①	予習	発表する絵本を読んで練習する。	復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
	第13回	内容	発表：絵本の読み聞かせ②	予習	発表する絵本を読んで練習する。	復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
	第14回	内容	発表：絵本の読み聞かせ③	予習	発表する絵本を読んで練習する。	復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
	第15回	内容	パネルシアターとは何か	予習	パネルシアターについて調べる。	復習	制作したい作品を選び、型紙のコピーを取る。
	第16回	内容	パネルシアターまたはエプロンシアター制作① ：Pペーパーに型どり、またはエプロン作り	予習	プリントをよく読み、制作の手順を理解する。	復習	Pペーパーの型どりを完成させる。
	第17回	内容	パネルシアターまたはエプロンシアター制作② ：Pペーパーにペン入れ、彩色、またはエプロン作り	予習	製作に必要なものを準備する。	復習	くるりら組はペン入れを完成させる。
	第18回	内容	パネルシアターまたはエプロンシアター制作③ ：Pペーパーに彩色、または人形作り	予習	製作に必要なものを準備する。	復習	絵の具組は彩色を完成させる。
	第19回	内容	パネルシアターまたはエプロンシアター制作④ ：彩色またはペン入れ、または人形作り	予習	製作に必要なものを準備する。	復習	絵の具組はペン入れを完成させる。
	第20回	内容	パネルシアターまたはエプロンシアター制作⑤ ：裏打ち・糸留めなどの仕掛け作り、仕上げ、練習	予習	自分の作品に仕掛けがあるか確認する。	復習	制作をふり返り、練習する。

第21回	内容	発表：パネルシアターまたはエプロンシアター①	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第22回	内容	発表：パネルシアターまたはエプロンシアター②	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第23回	内容	発表：パネルシアターまたはエプロンシアター③	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第24回	内容	紙芝居の実演練習①（グループワーク）	予習	紙芝居を1作品選び、演じる練習をしておく。
			復習	授業をふり返り、くり返し練習する。
第25回	内容	紙芝居の実演練習②（グループワーク）	予習	紙芝居を2作品選び、演じる練習をしておく。
			復習	授業をふり返り、くり返し練習する。
第26回	内容	発表：紙芝居を演じる①	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第27回	内容	発表：紙芝居を演じる②	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第28回	内容	発表：紙芝居を演じる③	予習	発表の準備をする。
			復習	自分やクラスメイトの発表をふり返る。
第29回	内容	伝統的な季節の行事・遊び①調べる（グループワーク）	予習	日本の季節の行事や遊びに何があるか調べる。
			復習	担当する季節の行事や遊びをまとめる。
第30回	内容	伝統的な季節の行事・遊び②発表（グループワーク）	予習	グループごとに発表の準備をする。
			復習	日本の伝統的な行事や遊びを通年でまとめる。
予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。				
課題へのフィードバック	小テストの解説を行い、リフレクション・ペーパーにコメントを付す。 発表に対して講評を行う。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない ※講義回には、ふり返りの小テストを行う 成績評価の方法： 作品・発表（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）			
教科書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）			
参考文献	配布プリントで、その都度紹介する。			
補足事項	プリント収納用のA4サイズのファイル、ミトンくまキット代1,200円、Pペーパー代1,100円、画材700～1,600円（いずれも予定価格）を用意すること。ミトンくま制作は、別の制作に変更する可能性がある。			

科目名	地域活動 I		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	みた のりこ 味田 徳子
ナバリングコード	SWS22108		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	本授業では、なぜ、ボランティア活動が必要なのか、日本におけるボランティアの歴史及びボランティア活動を実施するうえでの注意点について学ぶ。また、グループ活動を主とし、ボランティアを受け入れる現場(所沢市など)やボランティア活動に携わる人の声を多面的に聞き、ボランティア実践への理解を深める。さらに自立した市民としての判断力と実践力を備え、社会貢献の意識やボランティア活動への取り組みに力を入れるための礎を築いていく。							
到達目標	1. ボランティア活動について、その必要性を身に着け、かつ他者に説明できる。 2. 自らの考えを他者に説明し、理解させる技術を身に着けている。 3. 地域のボランティアに対するニーズを理解して、自身もボランティア活動を行う事ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 2、3、5 ) 文化表現学科( )							
計画	第1回	内容	オリエンテーション 主活動のグループ作成	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	説明を整理する			
	第2回	内容	ボランティア活動の歴史と概念	予習	最近の新聞からボランティア活動の例をピックアップし、その行動背景について理解しておく。			
				復習	授業で学んだ内容について、疑問点などをまとめ、次回の授業で質問する。			
	第3回	内容	現在の日本の社会について知り、なぜボランティア活動が必要かについて学ぶ	予習	最近の新聞からボランティア活動の例をピックアップし、その行動背景について理解しておく。			
				復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする			
	第4回	内容	生涯学習とボランティア ボランティア体験を言葉にする意義	予習	最近の新聞からボランティア活動の例をピックアップし、その行動背景について理解しておく。			
				復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする			
	第5回	内容	ボランティア活動のリサーチ ボランティア活動を進める上で、必要な情報、挨拶、マナー、安全などについて話し合うグループ発表	予習	最近の新聞からボランティア活動の例をピックアップし、その行動背景について理解しておく。			
				復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。			
	第6回	内容	ボランティア活動全般及び災害ボランティア、環境ボランティアなど種々のボランティア活動において注意すべき点を学ぶ	予習	最近の新聞からボランティア活動の例をピックアップし、その行動背景について理解しておく。			
				復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。			
	第7回	内容	学生のボランティア活動 他大学のボランティアの例	予習	最近の新聞からボランティア活動の例をピックアップし、その行動背景について理解しておく。			
				復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。			
第8回	内容	地域と関わるボランティア活動① 地域を知る(航空公園見学)	予習	航空公園について調べておく。				
			復習	航空公園の現状について整理する。				
第9回	内容	地域と関わるボランティア活動② 航空公園を見学した内容のまとめ・発表	予習	航空公園での気付きについてまとめる。				
			復習	発表の振り返りを行う。				
第10回	内容	人と関わるボランティア活動 幼児から高齢者まで、生きることに関わるボランティア活動の種類と意義を学ぶ	予習	最近の新聞からボランティア活動の例をピックアップし、その行動背景について理解しておく。				
			復習	授業で学んだ内容について、よく理解できなかった点をノートに記述し、次回の授業で質問をする。				
第11回	内容	司法からみたボランティア(外部講師)	予習	司法とは何か、調べておく。				
			復習	気づいたことをメモしておく。				
第12回	内容	司法からみた社会	予習	司法と社会の接点について考えておく。				
			復習	気づいたことをメモしておく。				
第13回	内容	校内ボランティア活動 活動計画作成、準備	予習	学校内で必要なボランティア内容について考える。				
			復習	他のグループからの意見をもとに計画を修正する。				
				予習	グループ活動の内容を確認しておく			

	第14回	内容	校内ボランティア活動 グループ活動、活動報告作成・発表	復習	活動の振り返りを行い、改善点を考える。
	第15回	内容	夏休みの課題について	予習	前期に行った授業内容の振り返りを行い、疑問や不明点などを考える。
				復習	夏休みの過ごし方、後期に行う大規模ボランティアについて調べておく。
	第16回	内容	地域と関わるボランティア活動③ 課題説明（所沢子どもと福祉の未来館について）	予習	所沢子どもと福祉の未来館について調べる。
				復習	他のグループからの意見をもとに活動内容を考える。
	第17回	内容	地域と関わるボランティア活動④ ボランティア実施計画の作成 発表内容について他のグループとの質疑	予習	発達年齢を考えた活動内容を調べてくる。
				復習	他のグループからの意見をもとに計画を修正する。
	第18回	内容	障害者に寄り添う地域ボランティア（1） （出前授業）所沢市・福祉課	予習	障害には、どのような内容があるか調べてくる。
				復習	気づいたことをまとめておく。
	第19回	内容	大規模ボランティア活動のための事前指導（2） 市民フェスティバル説明 所沢市・地域づくり推進課	予習	所沢市民フェスティバルについて調べておく。
				復習	気づいたことをまとめておく。
	第20回	内容	企業・行政における社会貢献活動 大規模ボランティア活動への参加（1） 西武鉄道・所沢市役所共催「駅ボランティア講習会」	予習	配布資料を通して、当日の講習内容を確認する。
				復習	気づいたことをまとめておく。
	第21回	内容	地域と関わるボランティア活動⑤ 「所沢子どもと福祉の未来館」見学	予習	グループ内で、質問事項をまとめておく。
				復習	気づいたことをまとめておく。
	第22回	内容	大規模ボランティア活動への参加（2） 「所沢市民フェスティバル」（予定）	予習	配布資料を通して、当日の各自の役割を確認する。
				復習	各自の活動報告を作成する。
	第23回	内容	地域と関わるボランティア活動⑥ 「未来館」発表準備	予習	発達年齢を踏まえた活動内容を準備する。
				復習	他のグループからの意見をもとに活動内容を修正・改善する。
	第24回	内容	地域と関わるボランティア活動⑦ 「未来館」発表 第1グループ	予習	決められた時間内で発表できるように、準備する。
				復習	イベント当日の各自の活動内容を振り返る。
	第25回	内容	地域と関わるボランティア活動⑧ 「未来館」発表 第2グループ	予習	決められた時間内で発表できるように、準備する。
				復習	イベント当日の各自の活動内容を振り返る。
	第26回	内容	地域と関わるボランティア活動⑨ 「未来館」発表 第3グループ	予習	決められた時間内で発表できるように、準備する。
				復習	イベント当日の各自の活動内容を振り返る。
	第27回	内容	地域と関わるボランティア活動⑩ 「未来館」発表振り返り	予習	各自の活動報告を作成しておく。
				復習	各自の活動報告をまとめ、共有する。
	第28回	内容	大規模ボランティア活動のための事前指導（3） 「サンタを探せ」	予習	大規模ボランティア「サンタを探せ（予定）」について概要を調べておく
				復習	配布資料等を通して当日の各自の役割を確認する。
	第29回	内容	大規模ボランティア活動への参加（3） 「サンタを探せ」	予習	配布資料等を通してイベント当日の各自の役割を再度確認し、必要な準備を行う
				復習	各自の活動報告を作成する。
	第30回	内容	まとめ・レポート作成	予習	今年度全般の活動内容を振り返る。
				復習	今年度全般の各自の活動報告を作成する。
	予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。				
課題へのフィードバック	Google Classroom 上でコメントをつけていく				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（70%）、発表（10%）授業態度【 積極的参加・ボランティア精神 】（20%）				
教科書					
参考文献					
補足事項	・授業は、ペアワークやグループワークを行いながら能動的に学ぶ（アクティブラーニング）。 ・所沢市の現状を調べ所沢市の子育てに関する地図作りを行っていく。その上で、ボランティア実施計画を作成し、他の学生の前で発表し質疑応答をする。				

科目名	地域活動Ⅱ		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	かがや たかふみ 加賀谷 崇文
ナンバリングコード	SWS22213		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	「地域活動Ⅱ」は「地域活動Ⅰ」での学びと実践を基礎にして第2年次に行うものである。今年度は所沢地域を中心にボランティア活動を行っていく。また、それと並行してSNSを利用したボランティア活動も行う。							
到達目標	1. 「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、地域の子育ての実態を理解している。 2. 地域の子育てのニーズを理解している。 3. 活動に関わる、あるいは参加する大人との交流による経験と学びを積むことができる。 4. 活動を通して、課題を発見し考察を行える力の養成。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 2,3,5 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	ニュースや新聞を通して、社会の動きなど問題意識を養うこと。			
				復習	授業内容を理解する。			
	第2回	内容	SNSを利用したボランティアの説明	予習	自分居住地区の自治体HPを閲覧する。			
				復習	授業で学んだ内容について理解し、不明な点は次回の授業で質問をする。			
	第3回	内容	親子活動のスケジュール決め	予習	親子活動を考える。			
				復習	準備をする。			
	第4回	内容	親子活動のリハーサル	予習	遊びの準備をする。			
				復習	うまくいかなかったところを修正する。			
	第5回	内容	SNSを用いた子育て支援について	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。			
				復習	話し合った内容について理解し、自身の地域貢献に生かすことを考える。			
	第6回	内容	子育て支援内容のディスカッション	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。			
				復習	授業内容の理解を図り、グループ内での他者との協力関係を育む。			
	第7回	内容	グループ作業準備	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。			
				復習	必要な素材の確認。			
	第8回	内容	グループ活動①	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。			
				復習	製作を行う。			
	第9回	内容	グループ活動②	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。			
				復習	製作を行う。			
	第10回	内容	グループ活動③	予習	今回の授業テーマについて理解し、考えをまとめておく。			
				復習	製作物を提出する。			
	第11回	内容	地域行事について	予習	地域イベントの意義を考える			
				復習	授業内容の整理			
	第12回	内容	地域行事当番表の作成	予習	活動のイメージを持つ			
				復習	予定の確認			
	第13回	内容	現地見学	予習	活動のイメージを整理する			
				復習	注意事項の整理			
	第14回	内容	地域行事確認事項	予習	予定の見直し			
				復習	準備確認			
	第15回	内容	まとめ	予習	前期で学んだことを復習しておく。			
				復習	前期活動の見直し			
	第16回	内容	[後期開始] オリエンテーション	予習	前期の復習と課題提出準備。			
				復習	授業内容を理解しておく。			
	第17回	内容	事後指導(提出書類の書き方や活動先調べの方法等)	予習	活動先の種類、内容等について整理する。			
				復習	授業内容をしっかり理解する			
	第18回	内容	外部講演	予習	講演者の活動についての事前調べ。			
				復習	学びの整理とレポート作成。			
第19回	内容	外部講演	予習	講演者の活動先の事前調べ。				
			復習	学びの整理とレポート作成。				

第20回	内容	活動先スタッフ(企画者等)の話①(企画意図、内容、活動学生へのメッセージ等と質疑応答)内容は未定	予習	活動についての事前調べ。
			復習	学びの整理とレポート作成。
第21回	内容	活動先スタッフ(企画者等)の話②	予習	活動についての事前調べ。
			復習	学びの整理とレポート作成。
第22回	内容	事前指導：活動先と活動内容についての事前調べと書類準備。	予習	改めて活動先意義等について確認する。
			復習	最終チェックをおこなう。
第23回	内容	実際の活動	予習	活動先への理解と体調面を含めた準備を整えておく。
			復習	実際の活動での反省等をする。
第24回	内容	実際の活動	予習	活動先への理解と体調面を含めた準備を整えておく。
			復習	実際の活動での反省等をする。
第25回	内容	実際の活動	予習	活動先への理解と体調面を含めた準備を整えておく。
			復習	実際の活動での反省等をする。
第26回	内容	事後指導：活動レポートの作成指導	予習	実際の活動で内容を整理しておく。
			復習	レポートの作成。
第27回	内容	各グループによる発表会①：発表と質疑応答	予習	発表準備と聴く姿勢を整える。
			復習	他者からの学びを整理する。
第28回	内容	各グループによる発表会②：発表と質疑応答	予習	発表準備と聴く姿勢を整える。
			復習	他者からの学びを整理する。
第29回	内容	まとめレポートの作成①：社会貢献とは何か/これまでの活動を今後にどのように生かすか等	予習	課題の内容を理解し、吟味する。
			復習	より深い考察を丁寧におこないレポートを作成する。
第30回	内容	まとめレポートの作成②と将来に向けて	予習	課題の内容を理解し、吟味する。
			復習	より深い考察を丁寧におこないレポートを作成する。
予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。				
課題へのフィードバック	レポートや発表について講評を行う。			
成績評価	試験期間における定期試験：実施しない 成績評価の方法：レポート・課題（70%）、授業態度【積極的参加、ボランティア精神】（30%）			
教科書	特に指定しない。			
参考文献	授業内で随時紹介する。			
補足事項	この科目は、地域保育学科の必修科目である。 ボランティア活動の実施および内容については、諸事情により変更される場合がある。 ボランティア活動の参加に当たっては、ボランティア活動依頼事業体関係者とのホウレンソウ（報告・連絡・相談）に留意すること。 また、活動にはGoogle Classroomを用いたアクティブラーニングが前提となるので通信量などに注意する事。			

科目名	インターンシップ I		単位数	2	授業時間数	90	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
ナバリングコード	SWS22107		授業形態	実習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他( )							
授業の内容	インターンシップ(就業体験)は学外実習のひとつとして、保育実習では体験できない一般企業をはじめ様々な事業体での就業体験である。様々な分野の企業等の就業体験を通して社会人マナーを身につけるとともに、職業理解を深め、キャリア選択への広い視野をもつことができる。この授業は夏季および春季の長期休業期間等を利用して実施されるインターンシップ実習、および事前事後指導からなる。実務体験を通して、自身の職業適性、社会人に求められる基礎学力、キャリア形成を考える絶好の機会である。							
到達目標	1. 授業を通して社会人として必要な教養、ビジネスマナーを習得している。 2. 就業体験を通して仕事への責任感を持つことができる。 3. 就業体験を通して自己の課題に気づき自主的に行動することができる。							
学位授与方針	地域保育学科(2・3・5)							
授業計画	第1回	内容	ガイダンス① インターンシップ実習の意義と概要	予習	インターンシップとは何か考える			
				復習	インターンシップの意義を理解する			
	第2回	内容	ガイダンス② インターンシップ報告会(前回参加学生の体験発表)	予習	インターンシップで学ぶ内容を考える			
				復習	先輩等の体験報告をまとめる			
	第3回	内容	インターンシップへの心構え(グループワーク) 受入事業体の職種・業務内容の理解	予習	事業体の職種、仕事内容を調べておく			
				復習	希望する実習先について調べる			
	第4回	内容	インターンシップ実習への申込手続き 事業体の選定・実習申込書の作成、手続き	予習	実習で学びたいことを考える			
				復習	必要書類をまとめて提出する			
	第5回	内容	学内選考(書類提出・面談)、実習先の決定	予習	選定した実習先について調べ面談の準備をする			
				復習	配布資料を精読する			
	第6回	内容	事前指導① インターンシップの意義 必要書類の配布、業種および職種の理解	予習	実習先の職務内容を理解し書類を作成する			
				復習	必要書類を確認する			
	第7回	内容	事前指導② 必要書類の作成 調査書、承諾書の作成および提出	予習	必要書類の下書き			
				復習	必要書類の清書、提出			
	第8回	内容	事前指導③ 社会人としての基本マナーを学ぶ グループワーク・ディスカッション	予習	配布資料を精読する			
復習				基本マナーを確認する				
第9回	内容	事前指導④ オリエンテーション、日誌の書き方 グループワーク・ディスカッション	予習	配布資料を精読し実習計画を立案する				
			復習	巡回教員の確認、配布資料を精読する				
第10回	内容	事前指導⑤ グループワーク・ディスカッション 実習中の注意事項	予習	実習記録について確認する				
			復習	実習先への連絡方法、必要書類を確認する				
第11回～ 第14回	内容	就業体験(現場での実務体験)5～14日間 (事業体によって実習時期・期間は異なる)	予習	実習先からの注意事項を確認する				
			復習	実習内容を記録する				
第15回	内容	事後指導 グループディスカッション 記録提出、報告書の作成、面談、	予習	実習を振り返り報告書にまとめる				
			復習	面談を通して学びを振り返る				
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題について授業で確認し説明する。学外実習の事前・事後指導にて講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/ (○)しない 成績評価の方法：実習・記録(60%)、課題・ディスカッション(20%)、授業態度【積極的参加】(20%)							
教科書	指定テキストはなく、必要に応じて資料を配布します							
参考文献	『ワークで学ぶ インターンシップ・リテラシー』(長谷川文代(編者)、西文社) 『信頼される保育者のための コミュニケーション・スキル』(藤田利久(編者)、西文社)							
補足事項	学外実習および学外実習のための事前・事後指導を含めた実習科目です。キャリア選択の視野を広げるためにも積極的にチャレンジしましょう。事業体によって実習の時期や期間が異なるため、詳細は授業内で説明します。 1. 学外でのインターンシップ実習にはこの授業を履修し、出席することが条件です。 2. 実習に必要な手続きをはじめ事前・事後指導を行うので授業の無断欠席は派遣を中止する場合があります。 3. 実習の派遣は、書類の提出および面談の上、決定します。 4. 履修態度、必要書類の提出等に問題がある場合は履修を取り止めることもあります。							

科目名	インターンシップⅡ		単位数	2	授業時間数	90	担当教員	はしもと ようこ 橋本 洋子
ナバリングコード	SWS22212		授業形態	実習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業は、「インターンシップⅠ」修了学生のみ履修することができる、様々な分野の企業等での就業体験であり、夏季および春季休暇を利用して実施する。「インターンシップⅠ」の実習内容を振り返るとともに、社会人として必要なマナーや責任感を習得することを目標とする。実際の体験を通して、自らの視野を広げるだけではなく、課題に直面した際の解決能力やコミュニケーション能力のスキルアップをはかる貴重な体験となる							
到達目標	1. 就業体験を通して社会人に求められるマナーと責任感を身につけている。 2. 就業体験を通して主体的に学び、自己の資質向上に取り組むことができる。 3. 就業体験を通して自らのキャリアプランやライフプランを考えることができる。 4. 就業体験を報告書としてまとめ発表、および質疑応答に適切に対応する力を身につけている。							
学位授与方針	地域保育学科（ 2・3・5 ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション インターンシップⅠを振り返る、報告会準備	予習	インターンシップⅠでの学びを振り返る			
				復習	発表準備			
	第2回	内容	報告会での発表	予習	発表の事前練習			
				復習	配布資料の確認			
	第3回	内容	インターンシップ実習への申し込み手続き 事業体の選定、実習申込書の作成	予習	実習の目的を明確にする			
				復習	実習申込書を確認する			
	第4回	内容	学内選考（書類提出・面談）、実習先の決定	予習	実習申込内容を確認し、面談の準備をする			
				復習	書類を精読する			
	第5回	内容	事前指導① 必要書類の配布、実習先について調べる グループワーク・ディスカッション	予習	実習先の職務内容を理解し書類を作成する			
				復習	実習先の概要をまとめる			
	第6回	内容	事前指導② 実習の目的・目標設定、書類の作成 グループワーク・ディスカッション	予習	書類の準備			
				復習	書類の提出			
	第7回	内容	事前指導③ 社会人に必要なマナーの確認 グループワーク・ディスカッション	予習	配布資料を精読する			
				復習	課題に取り組む			
	第8回	内容	事前指導④ オリエンテーション、実習日誌 グループワーク・ディスカッション	予習	配布資料を精読する			
復習				実習準備				
第9回	内容	事前指導⑤ 実習中の注意事項 グループワーク・ディスカッション	予習	配布資料を精読する				
			復習	実習中の注意事項を確認する				
第10回～ 第14回	内容	就業体験（現場での実務体験）5～14日間 （事業体によって実習時期・期間は異なる）	予習	オリエンテーション内容を確認する				
			復習	就業体験 学びを日誌に記録し考察する				
第15回	内容	事後指導 記録、報告書の提出、面談 グループワーク・ディスカッション	予習	記録を整理する 実習日誌の提出				
			復習	面談を通して学びを振り返る				
予習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	課題について授業で確認し説明する。学外実習の事前・事後指導にて講評を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習・記録（60%）、課題・ディスカッション（20%）、授業態度【積極的参加】（20%）							
教科書	指定テキストはなく、必要に応じて資料を配布します							
参考文献	『ワークで学ぶ インターンシップ・リテラシー』（長谷川文代（編者）、西文社） 『信頼される保育者のための コミュニケーション・スキル』（藤田利久（編者）、西文社）							
補足事項	インターンシップⅡは、インターンシップⅠを修了した学生のみが履修できる、様々な事業体での2度目の就業体験です。インターンシップⅠでの学びをもとに、自己の課題と向き合い、社会人として必要なマナーや実務、コミュニケーション力のスキルアップを目指しましょう。実習に必要な手続きは授業内で行います。学外実習への派遣は、この授業を履修し、出席することが条件となっています。							

科目名	レクリエーション論		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	こやま りょうじ 小山 亮二
ナンバリングコード	HES22101		授業形態	講義	実務経験			
授業方式	○対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	現代の社会課題から、心身を元気にするためにレクリエーションの果たす役割を理解し、援助するための基礎理論を学ぶ。また、組織としてのレクリエーションの各協会等の事業や役割を理解し、教育・保育・福祉の現場はもとより、広く市民にとって魅力ある事業を行うための企画や運営の仕方について具体的に学ぶことを目的としている。							
到達目標	1：心身を元気にするレクリエーション支援の社会的役割に関心を持つことができる。 2：コミュニケーション・ワーク理論に基づいた援助技術の基礎的能力を身に付けている。 3：対象に合わせた簡単なレクリエーション事業企画ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1.2.3 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	テキスト熟読 4～8P			
				復習	レクリエーションインストラクター資格について理解できたか			
	第2回	内容	レクリエーション概論 ・レクリエーションの主旨を理解する	予習	テキスト熟読 10P～14P			
				復習	レクリエーションを学ぶ主旨の振り返り			
	第3回	内容	レクリエーション概論 ・レクリエーションインストラクターの役割を理解する	予習	テキスト熟読 15P～17P			
				復習	レクリエーションインストラクターの役割の理解			
	第4回	内容	楽しさと心の健康作りの理論 ・楽しさを感じる心の仕組みを理解する	予習	テキスト熟読 20P～28P			
				復習	700-理論についてまとめる			
	第5回	内容	楽しさと心の健康作りの理論 ・ライフステージと心の元気作り	予習	テキスト熟読 29P～36P			
				復習	心の元気の必要性を理解する			
	第6回	内容	レクリエーション支援理論 ・レクリエーション支援におけるコミュニケーション	予習	テキスト熟読 37P～43P			
				復習	ホスピタリティの理解			
	第7回	内容	レクリエーション支援理論 ・良好な集団、および良好な集団作り	予習	テキスト熟読 44P～49P			
				復習	良好な集団作りのためのコミュニケーション・ワーク			
	第8回	内容	レクリエーション支援理論 ・自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ力	予習	テキスト熟読 50～53P			
				復習	段階設定が理解できたか			
第9回	内容	レクリエーション支援理論 ・成功体験を支え合う対象者のかかわりあい	予習	テキスト熟読 54P～56P				
			復習	自己効力感と成功体験の理解				
第10回	内容	レクリエーション支援のプログラム ・リスマネジメントの方法	予習	レクリエーション活動におけるリスマネジメントとは				
			復習	リスマネジメントの方法の理解				
第11回	内容	レクリエーション支援のプログラム ・プログラムの立案方法	予習	楽しいプログラムの構想を立ててくる				
			復習	プログラム立案方法の復習				
第12回	内容	レクリエーション支援のプログラム ・プログラムの立案Ⅰ	予習	イベントプログラム計画を考える				
			復習	プログラムの立案を振り返る				
第13回	内容	レクリエーション支援のプログラム ・プログラムの立案Ⅱ	予習	プログラムの立案				
			復習	プログラムの立案を進める				
第14回	内容	レクリエーション支援のプログラム ・プログラムの立案・発表	予習	プログラムの立案を進める				
			復習	プログラムの発表				
第15回	内容	まとめ ・レクリエーション活動の必要性の確認	予習	子どもの遊びとレクリエーションの関係について考えてくる				
			復習	レクリエーションの良さが理解できたか				
予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。								
課題へのフィードバック	授業中に行う小テストの解説							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（40%）、作品・発表（20%）、授業態度【積極的参加】（40%）							
教科書	『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』（日本レクリエーション協会）							
参考文献	なし							
補足事項	なし							

科目名	レクリエーション実技		単位数	2	授業時間数	60	担当教員	こやま りょうじ 小山 亮二
ナバリングコード	HES22102		授業形態	実技	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	信頼関係が構築される心理的な仕組みを根拠としたホスピタリティを身につける。 良好な集団が形成される仕組みを根拠としたアイスブレイキングを身につける。 動機付けの心理的な仕組みを根拠とした自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法を身につける。							
到達目標	1.子どもの指導者として様々なケースに対応できるレクリエーション実技を理解している。 2.個人との良好な関係をつくるスキルや集団をまとめるスキルを身につけている。 3.指導者として、レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムと、様々なレクリエーション活動ができる。 4.子どもの成長や発達に対応できるように、創意工夫して製作や実技ができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 1.2.3 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション ・レクリエーション支援の方法について)	予習	レクリエーション支援についてどんなものがあるか調べておく			
				復習	支援の方法の振り返り			
	第2回	内容	温かくもてなすという意識と配慮 ・ホスピタリティ・トレーニング	予習	温かくもてなすことについて考える			
				復習	ホスピタリティについて理解できたか			
	第3回	内容	対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術（コミュニケーション・ワーク）	予習	コミュニケーション・ワークについて調べてくる			
				復習	コミュニケーション・ワークを習得する			
	第4回	内容	対象者との意思疎通を促進する技術 ・コミュニケーション・ゲーム	予習	コミュニケーション・ゲームを調べてくる			
				復習	実技の体得			
	第5回	内容	集団がまとまる仕組みを活かすプログラム	予習	集団について考えてくる			
				復習	実技の体得			
	第6回	内容	アイスブレイキングモデルⅠ ・アイスブレイキング各種	予習	手遊びを調べる			
				復習	実技の体得			
	第7回	内容	アイスブレイキングモデルⅡ ・アイスブレイキング各種	予習	アイスブレイキングについて調べる			
				復習	実技の体得			
	第8回	内容	アイスブレイキングの効果を高める支援技術 ・アイスブレイキングのテクニック	予習	アイスブレイキングの効果について調べる			
				復習	実技の体得			
	第9回	内容	ひとつの活動の中で複数回の成功体験をたのしむための目標設定の方法（ハードル設定）	予習	自分の成功体験について考える			
				復習	実技の体得			
	第10回	内容	段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用	予習	成功体験について調べる			
復習				実技の体得				
第11回	内容	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法Ⅰ（CSSプロセス）	予習	CSSプロセスについて調べる				
			復習	実技の体得				
第12回	内容	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法Ⅱ（コミュニケーション・ワーク）	予習	コミュニケーション・ワークについて調べる				
			復習	実技の体得				
第13回	内容	目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実施	予習	表現について調べる				
			復習	実技の体得				
第14回	内容	レクリエーション支援のためのゲームⅠ（じゃんけんゲーム各種・ご当地ビンゴ）等	予習	郷土の特徴について調べる				
			復習	実技の体得				
第15回	内容	レクリエーション支援のためのゲームⅡ（シンメンコ）	予習	昔あそびについて調べる				
			復習	実技の体得				
第16回	内容	レクリエーション支援のためのゲームⅢ（集団遊び・ネチャーゲーム）	予習	ネチャー（自然遊び）について調べる				
			復習	実技の体得				
第17回	内容	世界のあそびⅠ（世界のあそび）	予習	世界のあそびについて調べる				
			復習	実技の体得				
第18回	内容	世界のあそびⅡ（世界のあそび）	予習	世界のあそびについて調べる				
			復習	実技の体得				
	内容		予習	世界のあそびについて調べる				

	第19回		世界のあそびⅢ (世界のあそび)	復習	実技の体得
	第20回	内容	レクリエーション支援のための様々な活動Ⅰ (ニュースポーツ)	予習	ニュースポーツについて調べる
				復習	実技の体得
	第21回	内容	レクリエーション支援のための様々な活動Ⅱ (ニュースポーツ)	予習	ニュースポーツについて調べる
				復習	実技の体得
	第22回	内容	レクリエーション支援のための様々な活動Ⅲ (ニュースポーツ)	予習	チャレンジゲームについて調べる
				復習	実技の体得
	第23回	内容	レクリエーション支援のための様々な活動Ⅳ (クラフト)	予習	素材の準備
				復習	製作技術の修得。素材を工夫して製作できたか
	第24回	内容	レクリエーション支援のための様々な活動Ⅴ (あそびをクリエイトする)	予習	素材の準備
				復習	クリエイトしたあそびの体得
	第25回	内容	レクリエーション支援のための様々な活動Ⅵ (あそびをクリエイトする)	予習	素材の準備
				復習	クリエイトしたあそびの体得
	第26回	内容	レクリエーション支援のための様々な活動Ⅶ (あそびをクリエイトする)	予習	素材の準備
				復習	クリエイトしたあそびの体得
	第27回	内容	レクリエーション支援の実施Ⅰ	予習	発表する素材の研究
				復習	実施の振り返り
	第28回	内容	レクリエーション支援の実施Ⅱ	予習	発表する素材の研究
				復習	実技発表の反省
	第29回	内容	プログラムの評価および改善(ふりかえり)	予習	プログラムの改善について考えてくる
				復習	実技授業を振り返っての感想
	第30回	内容	まとめ (レクリエーションインストラクター資格取得に向けて)	予習	都道府県レクリエーション協会のHP確認
				復習	レクリエーションインストラクター資格取得について、理解
	予習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね90分を目安とする。				
課題へのフィードバック	実技に関する講評等は、授業の最後に実施				
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/ (○)しない 成績評価の方法： レポート・課題(20%)、実技(60%)、授業態度【積極的参加】(20%)				
教科書	『楽しさをおとした心の元気づくり』(日本レクリエーション教会、日本レクリエーション協会)				
参考文献	なし				
補足事項	なし				

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		単位数	2	授業時間数	30	担当教員	はせがわ みた はまな 長谷川・味田・浜名
ナバリンコード	EDU22206		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他( )							
授業の内容	本授業は、保育者に必要な学びの集大成として総仕上げの学修を行い、資質・能力の向上を図るものである。これまでの学びを総括しながら自己の課題を確認し、将来の教員像や到達目標を明確にすることで、教職生活を円滑にスタートするための準備とする。この授業を通して、教員として求められる①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係、能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④教科・保育内容に関する事項などが修得されることが目的である。							
到達目標	1. 演習や発表に取り組み、教職生活についての具体的なイメージができています。 2. 学生間のディスカッションや協同を通して、子どもや教職員、保護者との関わりに繋がる視野の広さを持つことができています。 3. 学修を通して保育に対するさまざまな観点を持つことで、今日的課題を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科( ) 地域保育学科( 2.4.5 ) 文化表現学科( )							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスを読み、授業内容を理解する。			
				復習	授業を振り返り、確認事項をまとめる。			
	第2回	内容	子どもの発達を踏まえた保育について①：保育者の役割と職務(講義・グループ討議)	予習	実習をふまえ、保育者の役割と職務について考察しておく。			
				復習	グループ討議の内容をまとめ、授業を振り返る。			
	第3回	内容	子どもの発達を踏まえた保育について②：保育の計画の検討(グループワーク)	予習	保育の計画について考察しておく。			
				復習	グループワークからの学びをノートにまとめる。			
	第4回	内容	子どもの発達を踏まえた保育について③：子どもの理解と援助について考える(グループ討議)	予習	子どもの理解と援助について調べる。			
				復習	グループ討議からの学びをノートにまとめる。			
	第5回	内容	保育者としての家庭・地域との連携について①：地域活動(校外学習)	予習	家庭・地域との連携について、保育者の観点で考えておく。			
				復習	授業をふまえ、保育者として家庭・地域とどのように連携していけば良いか検討する。			
	第6回	内容	保育者としての家庭・地域との連携について②：地域活動の振り返り(グループ討議)	予習	前回のまとめをノートに記入しておく。			
				復習	グループ討議からの学びをノートにまとめる。			
	第7回	内容	保育と教材研究①教材研究の必要性	予習	実習で扱った教材について整理する。			
				復習	教材研究の必要性についてまとめる。			
	第8回	内容	保育と教材研究②題材の検討(グループ討議)	予習	題材を探す。			
				復習	グループ討議からの学びをまとめる。			
	第9回	内容	保育と教材研究③保育内容の実践に向けての計画(グループワーク)	予習	実践の案を考える。			
				復習	グループワークの内容をまとめる。			
	第10回	内容	保育と教材研究④保育内容の実践の準備(グループワーク)	予習	実践の準備に必要なものを調べる。			
				復習	準備の内容をまとめる。			
	第11回	内容	保育と教材研究⑤保育内容の実施と再検討(ロールプレイ)	予習	実施の内容を確認する。			
				復習	実践の結果をふまえ、改善点をまとめて再検討する。			
	第12回	内容	保育の質について①安全管理の理解	予習	保育に必要な安全管理について考えておく。			
				復習	授業をふまえ、保育に必要な安全管理についてまとめる。			
	第13回	内容	保育の質について②安全管理の検討(グループワーク)	予習	保育の場面で必要な安全管理について確認しておく。			
				復習	グループワークをふまえ、安全管理について理解しておくべきことをまとめる。			
	第14回	内容	保育における保育者の使命と責任について(実践による検討・校外学習)	予習	実践に向けて、保育者の使命と責任はどのようなことか考えておく。			
				復習	授業をふまえ、保育者の使命と責任について学んだことをまとめる。			
	第15回	内容	授業全体のまとめと振り返り	予習	これまでの学びを確認しておく。			
				復習	授業をふまえ、保育者になるにあたっての課題を整理し、まとめる。			
予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	話し合いの内容および方向性について助言する。また、発表の内容についてコメントする。 Google クラウドスルームを用いて課題などのフィードバックを行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施( )する/ (○)しない 成績評価の方法：発表(50%)、レポート・課題(40%)、授業態度【意欲】(10%)							

教科書	なし
参考文献	なし
補足事項	グループ活動への積極的な参加を求める。

科目名	保育所実習 I	単位数	2	授業時間数	90	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナンバリングコード	CHS22104	授業形態	実習	実務経験	有		
授業の内容	<p>保育所実習 I は前期実習にあたり、「見学・観察実習」を行うものである。この実習では、保育所の役割と機能を理解し、子どもの発達や援助への理解を深めるとともに、保育内容や環境への理解を深め、保育の計画や記録・省察による保育の実践への理解を深めるといった内容を中心に学ぶ。この実習を通して自己課題を見つけ、後期実習に繋げるものである。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの生活や遊び、発達過程を理解している。</li> <li>2. 保育内容や保育環境を理解している。</li> <li>3. 記録に基づく省察や自己評価ができています。</li> <li>4. 実習を通して、保育の意義や保育者の役割を理解している。</li> </ol>						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 2、4、5 ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	<p>前期保育所実習は、原則として2年次の2月に行う。実習の主な内容（見学・観察実習）は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子ども理解           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助やかかわり</li> </ol> </li> <li>3. 保育内容・保育環境           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画に基づく保育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画、観察、記録           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程と指導計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない          成績評価の方法： 実習園による評価（60%）、実習日誌（30%）、課題（10%）</p>						
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）						
参考文献	なし						
補足事項	<p>実習に参加するにあたり、心身ともに健康であり、学内での教科の履修状況・出席状況・学習態度が良好であることが必要である。保育を学ぶ努力を惜しまず、保育者にふさわしい人物になるように取り組むこと。</p>						

科 目 名	施設実習	単 位 数	2	授業時間数	90	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22204	授業形態	実習	実務経験	有		
授 業 の 内 容	施設実習は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習である。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがある。原則として、11日間施設に宿泊又は通勤し、利用者と生活をともにしながら実習を行う。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前準備をしっかりと行い、実習施設について理解している。</li> <li>2. 利用者一人一人への適切な支援のあり方を習得している。</li> <li>3. 施設の機能を理解している。</li> </ol>						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 2・4・5 ） 文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設の一日の生活の流れを知る。</li> <li>・保育者の一日の職務を知る。</li> <li>・利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。</li> <li>・自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。</li> <li>・衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。</li> <li>・日中活動における支援のあり方について学ぶ。</li> <li>・福祉施設における保育者の役割について学ぶ。</li> <li>・福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。</li> <li>・施設の機能について多様な視点から学ぶ。</li> <li>・福祉事務所、児童相談所など他機関との連携について学ぶ。</li> <li>・利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。</li> </ul> <p>以上11日間の学外実習をする。</p>						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法： 実習施設の評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）</p>						
教科書	なし						
参考文献	なし						
補足事項	なし						

科目名	保育所実習Ⅱ	単位数	2	授業時間数	90	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナンバリングコード	CHS22205	授業形態	実習	実務経験	有		
授業の内容	<p>保育所実習Ⅱは、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶとともに、保育所実習Ⅰで明らかになった自己課題に取り組む。「参加・責任実習」を通して、子どもの生活や発達への関わりを更に深め、保育の立案と実践について学び、保育者として職務内容や職業倫理についても理解を深めることが必要である。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの生活や発達、保育者の役割を理解している。</li> <li>2. 子どもの生活や発達に即した指導計画の立案方法を身につけている。</li> <li>3. 子どもの生活や発達に即し、指導計画に基づいた保育実践を行うことができる。</li> <li>4. 実習の省察・評価から、保育の過程を理解することができる。</li> </ol>						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 2、3、5 ） 文化表現学科（ ）						
授業計画	<p>後期保育所実習は、原則として3年次の8月に行う。実習の主な内容（参加・責任実習）は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>(2) 保育所の社会的役割と責任</li> </ol> </li> <li>2. 観察に基づく保育理解           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心身の状態や活動の観察</li> <li>(2) 保育士等の動きや実践の観察</li> <li>(3) 保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解</li> <li>(2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援</li> <li>(3) 地域社会との連携</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ol> </li> <li>6. 自己の課題の明確化</li> </ol>						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（ ○ ）しない          成績評価の方法： 実習園による評価（60%）、実習日誌（30%）、課題（10%）</p>						
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）						
参考文献	なし						
補足事項	<p>保育に関する知識を深め、教材や実践例などの情報を積極的に集めるなどの事前準備を計画的に行い、実習に意欲的に取り組むこと。</p>						

科 目 名	児童館実習	単 位 数	2	授業時間数	90	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22105	授業形態	実習	実務経験	有		
授 業 の 内 容	児童館において、約10日間の実習を行う。実習を通して、児童館・放課後児童クラブの現場で実際に業務を体験することで、児童館や放課後児童クラブの活動を理解するとともに、自分自身の適性を改めて見つめなおす。						
到 達 目 標	1. 児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解している。 2. 一日の活動プログラムを理解している。 3. 職員、児童の家族、地域社会の連携を理解している。						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 2・5 ） 文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	児童館実習の内容 ① 児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解 ② 一日の活動プログラムの理解 ・母親クラブの活動について ・館全体のプログラム ・放課後児童クラブのプログラム ③ 活動への参加 ・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習に入る。 ④ 職員、児童の家族、地域社会との関係の学習 ・職員集団等専門家集団のチームワーク ・児童の家庭、地域との関わり方 ・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ						
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習先評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）						
教科書	なし						
参考文献	なし						
補足事項	なし						

科目名	保育所実習指導 I		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナバリングコード	CHS22106		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	前期保育所実習（2年次2月）の事前事後指導を行う。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解し、実習課題を明確にする。また、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を踏まえて、後期保育所実習に向けての課題を明らかにする。これをもとに、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう、必要な準備を行う。							
到達目標	1. 保育所実習の意義や目標を理解している。 2. 子どもの観察や実習記録の意義や方法を理解している。 3. 実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けての準備ができています。 4. 実習を通して、自己課題を明らかにしている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（2、4、5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション	予習	教科書全体に目を通す。			
				復習	実習の手引き全体に目を通す。			
	第2回	内容	前期実習の理解1：保育所についての理解	予習	教科書の保育所について書かれている部分を読む。			
				復習	保育所について学んだことをノートにまとめる。			
	第3回	内容	前期実習の理解2：保育所実習の意義と目的を理解する	予習	教科書の保育所実習の意義と目的について書かれている部分を読む。			
				復習	保育所実習の意義と目的について学んだことをノートにまとめる。			
	第4回	内容	保育現場の実際を知る（外部講師）	予習	ノートを読み返し、保育に携わることの意義を考える。			
				復習	外部講師から学んだことをノートにまとめる。			
	第5回	内容	前期実習の理解3：前期実習の内容を理解する	予習	教科書の前期実習について書かれている部分を読む。			
				復習	前期実習について学んだことをノートにまとめる。			
	第6回	内容	前期実習の理解4：前期実習の心構えを理解する	予習	教科書の実習の心構えについて書かれている部分を読む。			
				復習	実習の心構えについて学んだことをノートにまとめる。			
	第7回	内容	前期実習への準備1：前期実習の抱負について	予習	教科書の前期実習の学びについて書かれている部分を読む。			
				復習	前期実習の抱負について学んだことをノートにまとめる。			
	第8回	内容	前期実習への準備2：実習に必要な書類の作成①	予習	前期実習の抱負を考える。			
				復習	調査書を仕上げる。			
	第9回	内容	前期実習への準備3：実習に必要な書類の作成②	予習	調査書の修正をする。			
				復習	修正を加えて調査書を仕上げる。			
	第10回	内容	前期実習への準備4：実習課題について	予習	実習課題を考える。			
				復習	実習課題を修正する。			
第11回	内容	日誌の書き方について①	予習	教科書の日誌の書き方についての部分を読む。				
			復習	日誌の書き方について学んだことをノートにまとめる。				
第12回	内容	日誌の書き方について②	予習	教科書の実習記録例を読む。				
			復習	実習日誌の記録の練習をする。				
第13回	内容	実習に必要な実技の確認と発表（グループワーク）	予習	保育内容について確認する。				
			復習	実技の練習をする。				
第14回	内容	実習のオリエンテーションと最終確認	予習	教科書のオリエンテーションの部分を読む。				
			復習	オリエンテーションの大事な内容をノートにまとめる。				
第15回	内容	実習内容の振り返りとまとめ（グループ討議）	予習	実習の振り返りを考える。				
			復習	他者の意見をもとに、自己課題をまとめる。				
予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。								
課題へのフィードバック	実習園からの評価表をもとに面談を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70%）、作品・発表（20%）、授業態度【意欲】（10%）							

教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『ワークシートで学ぶ保育所実習』（相浦雅子 他、同文書院）
参考文献	『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』（厚生労働省、フレーベル館）
補足事項	実習について必要な準備や説明を行う授業であるため、原則として欠席はしないこと。学んだことをノートにまとめるなどの意欲的な取り組みや、実習を踏まえて自己を見つめ直し課題を見つけることに積極的に取り組むことを求める。

科目名	施設実習指導		単位数	1	授業時間数	60	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22206		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	保育所を除く児童福祉施設を中心とした実習準備のための授業である。実習の目的や意義、実習内容等福祉施設実習に必要な知識や技能を学ぶ。また、福祉施設利用者の権利擁護、施設職員としての倫理観、実習生としての勤務のあり方についても学ぶ。実習に必要な書類の提出のほか実習施設から届けられる様々な情報も授業時に伝える。							
到達目標	1. 施設の種別、それぞれの機能について理解している。 2. 施設の種別ごとの利用者について理解している。 3. 施設実習に必要な知識や技能を身につけている。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（ 2・4・5 ）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	施設実習の位置づけについて、実習中の注意点の確認	予習	シラバスを読んでおく	復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	施設実習の意義について	予習	教科書「福祉施設」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に福祉施設の内容をまとめる	
	第3回	内容	実習施設の配当発表および各実習施設の理解	予習	配当の確認をする	復習	配当の施設について調べる	
	第4回	内容	福祉施設における実習	予習	福祉施設の特性を理解しておく	復習	各福祉施設における実習内容をまとめる	
	第5回	内容	障がい児支援施設について	予習	教科書「障害児施設」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に障害児施設の内容をまとめる	
	第6回	内容	障がい者支援施設について	予習	教科書「障害者施設」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に障害者施設の内容をまとめる	
	第7回	内容	乳児院・児童養護施設について	予習	教科書「養護系施設」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に養護系施設の内容をまとめる	
	第8回	内容	実習生調書の作成1	予習	実習生調書の下書きをする	復習	実習生調書を直す	
	第9回	内容	実習生調書の作成2	予習	実習生調書の下書きをする	復習	実習生調書の清書をする	
	第10回	内容	各施設への実習前訪問と諸注意	予習	実習先の概要を確認する	復習	実習先への交通経路を確認する	
	第11回	内容	障がい児・者支援施設における職員の役割と実習内容	予習	教科書で「職員の役割」の箇所を読んでおく	復習	プリントを中心に「職員の役割」をまとめる	
	第12回	内容	養護系福祉施設における職員の役割と実習内容	予習	教科書で「職員の役割」の箇所を読んでおく	復習	プリントを中心に「職員の役割」をまとめる	
	第13回	内容	実習日誌の書き方	予習	教科書「実習日誌」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に実習日誌内容をまとめる	
	第14回	内容	実習関係書類作成、細菌検査、実習課題について	予習	提出書類の記入及び準備をする	復習	書類の確認・実習課題の整理をする	
	第15回	内容	実習前最終確認と巡回指導について	予習	実習に向けての準備を整える	復習	諸注意の確認をする	
	第16回	内容	実習概要報告書の作成1	予習	報告書の下書きをする	復習	報告書の作成をする	
	第17回	内容	実習概要報告書の作成2	予習	報告書の見直しをする	復習	報告書の清書をする	
	第18回	内容	個人の実習の振り返り	予習	実習の反省を整理してくる	復習	振り返った内容をレポートにまとめ	
	第19回	内容	グループで実習の振り返りを行う	予習	グループ内で報告する内容を整理してくる	復習	メンバーの報告内容をレポートにまとめる	
	第20回	内容	グループごとに実習内容の報告を全体に向けて行う	予習	グループの報告内容を準備してくる	復習	全グループの報告内容をレポートにまとめる	
	内容		予習	資料作成準備をしてくる				

	第 21 回		実習報告会の資料作成	復習	資料作成をして報告の準備を行う
	第 22 回	内容	評価面談 1	予習	自己評価と省察を行う
				復習	評価を受けて実習の振り返りを行う
	第 23 回	内容	評価面談 2	予習	自己評価と省察を行う
				復習	評価を受けて実習の振り返りを行う
	第 24 回	内容	評価面談 3	予習	自己評価と省察を行う
				復習	評価を受けて実習の振り返りを行う
	第 25 回	内容	評価面談 4	予習	自己評価と省察を行う
				復習	評価を受けて実習の振り返りを行う
	第 26 回	内容	評価面談 5	予習	自己評価と省察を行う
				復習	評価を受けて実習の振り返りを行う
	第 27 回	内容	評価面談 6	予習	自己評価と省察を行う
				復習	評価を受けて実習の振り返りを行う
	第 28 回	内容	まとめ	予習	施設実習のまとめとして学んだことを整理する
				復習	実習評価・面談を受けて、学習成果を振り返る
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	提出物等の評価を実習後の面談により伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 課題（30%）、レポート（20%）、授業態度【積極的参加】（50%）				
教科書	『保育士養成課程 五訂 福祉施設実習ハンドブック』（喜多一憲、児玉俊郎／監修 吉村美由紀、吉村讓 編、株式会社みらい）				
参考文献	なし				
補足事項	なし				

科目名	保育所実習指導Ⅱ		単位数	1	授業時間数	60	担当教員	はせがわ きょうこ 長谷川 恭子
ナバリングコード	CHS22207		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	後期保育所実習（3年次10月）の事前事後指導を行う。事前指導は、前期実習での経験や学びを踏まえ、後期保育所実習の目的や内容を理解し、実習課題を明確にする。また、指導計画の作成や模擬保育を行い、実習に必要な準備を行う。事後指導では、実習の総括を通して自己評価をするとともに、実習報告会などの振り返りを通して、自己課題を明確にしていく。							
到達目標	1. 実習に関する必要な知識と心構えを身につけ、心身ともに実習に向けての準備を行うことができる。 2. 子どもの生活に即した指導案の立案をすることができる。 3. 実習記録を通して、考察や評価ができていく。 4. 実習を通して、自己課題を明らかにする。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（2、3、4、5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	オリエンテーション：前期実習のふりかえり（グループ討議） 自己評価	予習	前期実習の日記を確認する。	復習	授業を踏まえて自己課題をノートにまとめる。	
	第2回	内容	後期実習への準備1：目的と内容を理解する	予習	実習の手引きを読む。	復習	目的と内容を理解し、ノートにまとめる。	
	第3回	内容	後期実習への準備2：責任実習について理解する、後期実習の抱負について	予習	教科書を読む。	復習	責任実習についてノートにまとめる。	
	第4回	内容	後期実習への準備3：実習に必要な書類の作成①	予習	実習への心構えを考える。	復習	添削された書類を修正する。	
	第5回	内容	後期実習への準備4：実習に必要な書類の作成②	予習	後期実習の抱負を考える。	復習	添削された書類を修正する。	
	第6回	内容	後期実習への準備5：実習課題を明らかにする	予習	実習課題を考える。	復習	実習課題を修正する。	
	第7回	内容	指導案の立案1：作成の基本の確認	予習	教科書を読む。	復習	学んだことをノートにまとめる。	
	第8回	内容	指導案の立案2：実習に必要な実技の確認と指導案の立案	予習	指導案の内容・教材を準備する。	復習	指導案を作成する。	
	第9回	内容	指導案の立案3：模擬保育とふりかえり①（グループワーク）	予習	模擬保育の準備をする。	復習	模擬保育をもとに指導案を修正する。	
	第10回	内容	指導案の立案4：模擬保育とふりかえり②（グループワーク）	予習	模擬保育の準備をする。	復習	模擬保育をもとに指導案を修正する。	
	第11回	内容	実習記録の実際と方法	予習	教科書を読み、日記を確認する。	復習	実習記録を書く練習をする。	
	第12回	内容	実習内容の振り返りとまとめ（グループ討議）	予習	実習の内容を振り返る。	復習	授業をもとに、振り返りをノートにまとめる。	
	第13回	内容	実習報告会の準備	予習	報告する内容を整理する。	復習	発表する内容をまとめる。	
	第14回	内容	実習報告会（発表）	予習	発表の準備をする。	復習	発表をもとに、気づいたことをノートにまとめる。	
	第15回	内容	実習の総括	予習	実習の総括を考える。	復習	授業をもとに、これまでの学びをノートにまとめる。	
	予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。							
課題へのフィードバック	実習園からの評価票をもとに面談を行う。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（60%）、作品・発表（30%）、授業態度【意欲】（10%）							
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『ワークシートで学ぶ保育所実習』（相浦雅子 他、同文書院）							
参考文献	『保育所保育指針（平成29年告示）』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説 平成30年3月』（厚生労働省、フレーベル館）							
補足事項	実習について必要な準備や説明を行う授業であるため、原則として欠席はしないこと。学んだことをノートにまとめたり、指導案の立案に必要な教材集めを積極的に行ったりするなどの意欲的な取り組みや、実習を踏まえて自己を見つめ直し課題を見つけることに積極的に取り組むことを求める。							

科目名	児童館実習指導		単位数	1	授業時間数	30	担当教員	あきやま ひろこ 秋山 展子
ナンバリングコード	SWS22107		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	○対面○・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館・放課後児童クラブの実際の活動内容を理解するため、先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習調査書の作成をはじめ、実習の目的やねらいの理解、オリエンテーション、日誌の記入方法、実習手続き書類の作成等の指導を行う。							
到達目標	1. 児童館実習の意義を理解している。 2. 児童館実習に必要な知識と技能を習得している。 3. 児童館、放課後児童クラブの特性と実習における課題を理解している。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（ 1・4・5 ） 文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	児童厚生員一資格の説明と取得までの手順の説明	予習	シラバスを読んでおく	復習	この科目で習得すべき内容を理解する	
	第2回	内容	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出	予習	実習のしおりを読み要件を理解しておく	復習	実習準備についてまとめる	
	第3回	内容	児童館実習の意義、目的の理解	予習	実習の意義について教科書を読んでおく	復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第4回	内容	児童館実習参加者の体験談を聞き、実習内容を理解する	予習	教科書「実習内容」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第5回	内容	文章の書き方を学ぶ	予習	前回の体験談の感想を書いてくる	復習	添削結果を受けて反省点を考える	
	第6回	内容	調査書の作成ー下書き準備	予習	実習先について調べてくる	復習	注意事項を確認し、内容を考える	
	第7回	内容	調査書の作成ー下書き・証明写真説明	予習	調査書の下書きをしてくる	復習	書類の添削を受けて、訂正をする	
	第8回	内容	調査書の作成ー清書	予習	証明写真の注意事項を理解し、準備する	復習	清書を完成させる	
	第9回	内容	実習日誌の記入の意義について	予習	教科書「実習日誌の意義」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第10回	内容	実習日誌の記入方法	予習	教科書「実習日誌の注意」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第11回	内容	オリエンテーションについて	予習	教科書「オリエンテーション」の章を読む	復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第12回	内容	指導案の概要と作成	予習	教科書「指導案」の章を読んでおく	復習	指導案のための情報を集める	
	第13回	内容	細菌検査・個人情報誓約書について	予習	教科書「個人情報取り扱い」の章を読む	復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第14回	内容	実習後の対応-礼状等-について	予習	教科書「お礼状」の章を読んでおく	復習	プリントを中心に内容をまとめる	
	第15回	内容	実習直前指導（実習への心構え、緊急時への対応の確認等々）	予習	実習前の質問事項を確認してくる	復習	学習内容をまとめて、学習成果を振り返る	
	予習に要する学習時間：概ね15分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。							
課題へのフィードバック	提出物等の評価を面談により伝える。							
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（70%）、授業態度【積極的参加】（30%）							
教科書	『保育・教育・施設実習 子どもを理解し実践できる保育者を目指して』（福田真奈、五十嵐淳子、大学図書出版）							
参考文献	なし							
補足事項	なし							

科 目 名	教育実習 I	単 位 数	2	授業時間数	90	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	EDU22108	授業形態	実習	実務経験	有		
授 業 の 内 容	授業を通して学んだ知識や技能が、幼児教育の場でいかに活かされ応用することができるかということを、実践を通して学ぶ。また、保育の様子を観察する、子どもの活動に参加する、保育者の助手的立場をとる等の経験を通し、社会貢献できる力を身につけ保育者の職務理解に努める。前期実習を2年次11月に実施する。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発達を体験的に学び、子どもの実態に合った保育の営みについて理解している。</li> <li>2. 保育者の職務理解に努め、責任実習を通して指導方法、指導技術などを体得している。</li> <li>3. 幼稚園の地域における役割や社会的な機能について理解している。</li> </ol>						
学位授与方針	幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（ ）						
授 業 計 画	<p>①前期見学・観察実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園の概要を知る。</li> <li>・実習園の日課を理解する</li> <li>・配属クラスの子どもの名前を覚える</li> </ul> <p>②実習参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊びに参加する。</li> <li>・保育の進め方を観察する。</li> <li>・環境構成のあり方を学ぶ。</li> <li>・いざこざへの対応の仕方を学ぶ。</li> <li>・絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等、保育の営みの一部分を担当する。</li> <li>・子どもの興味・関心・思考傾向など、子どもの実態を知る。</li> </ul> <p>③後期見学・観察実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の職務について学ぶ。</li> <li>・前期実習を振り返り自己評価をする。</li> <li>・自己課題を明確にし、後期実習に向けた準備をする。</li> </ul>						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない</p> <p>成績評価の方法： 実習園の評価（50%）、実習日誌評価（50%）</p>						
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）						
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）						
補足事項	実習日誌等、必要書類の提出期限は厳守すること。						

科目名	教育実習Ⅱ	単位数	2	授業時間数	90	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	EDU22204	授業形態	実習	実務経験	有		
授業の内容	<p>前期実習での体験、大学で学んだ理論や技術をもとに、幼稚園教育の場を総合的に理解する。また、実習生が主体となって指導する実践経験を重ねることにより、社会貢献力を磨き、保育理論や指導技術の向上を図る。前期実習に引き続き、①見学・観察実習、②参加実習を行い、さらに加えて③指導実習を行う。</p>						
到達目標	<p>1. 幼稚園の機能や活動内容を理解している。 2. 大学で学んだ理論や技術と、実践の関連性を確認している。 3. 社会人としてのマナー、保育者としての使命感等を認識している。</p>						
学位授与方針	<p>幼児教育学科（ ） 地域保育学科（1・2・3・4・5） 文化表現学科（ ）</p>						
授業計画	<p style="text-align: center;">後期実習（観察・参加・指導実習）</p> <p>①見学・観察実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期実習で学んだことを確認する。</li> <li>・園環境や地域環境等、子どもが生活する場に対する観察を深める。</li> <li>・子どもの意欲や自発性を引き出す保育者の働きかけ、指導方法等を観察し、実践の場で応用できるようにする。</li> </ul> <p>②参加実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの活動に積極的に参加し、遊びの内容、遊びの中での人間関係等を学ぶ。</li> <li>・保育者の助手的立場で保育活動に参加し、保育の進め方、指導方法などを学ぶ。</li> <li>・教材の準備、保育開始前、保育終了後の環境整備、清掃活動に参加し、その意義を学ぶ。</li> <li>・正規時間外保育活動、子育て支援活動等の実際について学ぶ。</li> <li>・許されれば、会議、打ち合わせ等に参加させていただき、保育への取り組みの姿勢を学ぶ。</li> </ul> <p>③指導実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、参加実習で学んだことを基に指導案を作成し、指導を受けながら保育者として子どもの指導に当たる。</li> <li>・一日の日課を理解し、そのうちのある部分について、指導案を作成し指導を体験する。</li> <li>・自ら作成した指導案に基づいて1日の保育を担当し、保育者として必要な総合的な力を身につける。</li> <li>・部分或いは1日指導実習をした後、自らの保育を客観的に評価、反省し、また保育者からの助言を受ける。</li> </ul>						
成績評価	<p>試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 実習園の評価（ 50%）、実習日誌評価（ 50%）</p>						
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）						
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）						
補足事項	実習日誌等、必要書類の提出期限は厳守すること。						

科目名	教育実習指導 I		単位数	1	授業時間数	60	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	EDU22109		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業は、教育実習を効果的に進めることができるよう、実習に向けて事前に準備をするための強化である。実習に必要な書類を整えることや社会人としてのマナーを身に付けること、指導案の作成、自己課題の発見等学ぶ範囲も非常に広い。幼稚園現場に求められる保育内容や用地園、保育者及び要人の実態を具体的に理解し、学びの視点をもって実習に臨めるようにする。							
到達目標	1. 幼稚園の生活に関する基本的事項を理解している 2. 幼児の発達に応じた遊びの実践を体験している 3. 幼稚園における保育活動、保育内容を理解している							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（2, 4, 5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	教育実習の意義・目的	予習	シラバスを読んでおく。			
				復習	『実習の手引き』を読む			
	第2回	内容	教育実習のための手続き：個人情報保護	予習	実習の計画を確認する。			
				復習	提出書類を確認する。			
	第3回	内容	前期実習の目的と心得：児童憲章について	予習	『実習の手引き』を読む。			
				復習	学んだ内容をまとめる。			
	第4回	内容	教材研究① ～体を使ったあそび編～	予習	幼稚園の一日の生活を調べる。			
				復習	感想・気づきをまとめる。			
	第5回	内容	指導案作成 ～体を使ったあそび編～	予習	対象園の概要を調べておく。			
				復習	円見学の注意点を確認しておく。			
	第6回	内容	指導案の留意ポイント ～体を使ったあそび編～	予習	学びの視点を考える。			
				復習	感想をまとめる。			
	第7回	内容	教材研究② ～制作活動編～	予習	学びの視点を考える。			
				復習	感想をまとめる。			
	第8回	内容	指導案作成 ～制作活動編～	予習	視点に沿って感想をまとめる。			
				復習	他者の意見も整理する。			
	第9回	内容	指導案の留意ポイント ～制作活動編～	予習	必要なものをそろえる。			
				復習	留意点をまとめる。			
	第10回	内容	教材研究 絵本の読み聞かせ（プレゼンテーション）	予習	必要なものをそろえる。			
				復習	留意点をまとめる。			
第11回	内容	模擬保育（グループ発表）	予習	必要なものをそろえる。				
			復習	留意点をまとめる。				
第12回	内容	模擬保育（グループ発表）	予習	事前に作成した下書きを用意する。				
			復習	期日までに下書きを提出する。				
第13回	内容	提出書類の作成①：「学生調査書」下書き	予習	下書きの修正内容を確認する。				
			復習	「学生調査書」などの書類を提出する。				
第14回	内容	提出書類の作成②：「学生調査書」清書	予習	園生活の一日の流れを調べておく。				
			復習	生活を進めるポイントをまとめる。				
第15回	内容	保育における「記録」の意義：エピソード記述等	予習	幼児にとっての「あそび」の意味を考える。				
			復習	遊びを見る視点や参加する視点をまとめる。				
第16回	内容	オリエンテーションについて	予習	記録することの重要性を考える。				
			復習	記録の種類をまとめる。				
第17回	内容	実習日誌の書き方①：実習園の概況・環境等	予習	実習日誌を確認する。				
			復習	実習園の概況・環境等の書き方を確認する。				
第18回	内容	実習日誌の書き方②：保育の記録	予習	実習日誌を書く意義について確認する。				
			復習	保育の記録の書き方を確認する。				
第19回	内容	実習日誌の書き方③：1日の振り返りと自己評価	予習	実習日誌を書く目的について確認する。				
			復習	1日の振り返りの書き方を確認する。				
第20回	内容	実習日誌の書き方④：実習課題	予習	オリエンテーションの事前準備をする。				
			復習	オリエンテーションの報告書を作成する。				

	第 21 回	内容	実習日誌の書き方⑤：学びと反省	予習	課題をまとめる。
				復習	学びの視点をまとめる。
	第 22 回	内容	実習の振り返り① グループディスカッション	予習	視点に沿って学習成果をまとめる。
				復習	他者からの学びをまとめる。
	第 23 回	内容	実習の振り返り② グループディスカッション	予習	視点に沿って学習効果をまとめる。
				復習	他者からの学びをまとめる。」
	第 24 回	内容	自己評価	予習	自己評価を行う。
				復習	再考する。
	第 25 回	内容	事後面談①	予習	客観的に自己を見つめる。
				復習	他者視点を生かせるようにまとめる。
	第 26 回	内容	事後面談②	予習	客観的に自己を見つめる。
				復習	他者視点を生かせるようにまとめる。
	第 27 回	内容	実習のまとめ①	予習	実習全体の振り返りをする。
				復習	後期実習での学びをまとめる。
	第 28 回	内容	実習のまとめ②	予習	実習全体の振り返りをする。
				復習	後期実習での学びをまとめる。
	第 29 回	内容	実習報告会準備 グループワーク	予習	報告内容を考える
				復習	報告資料を作成する。
	第 30 回	内容	実習報告会	予習	報告内容の原稿を作成する。
				復習	報告会の感想をまとめる。
予習に要する学習時間：概ね 4 5 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 4 5 分を目安とする。					
課題へのフィードバック	レポートや課題にはコメントをつけて返却する。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： レポート・課題（40%）、作品・発表（30%）、実技（30%）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	追って指示する				
補足事項	毎回、提出物や課題などがあるため、欠席の際は自分でその分の穴埋めを他の時間にすること。ファイルを用意し、一年間資料を閉じていくこと。				

科目名	教育実習指導Ⅱ		単位数	1	授業時間数	60	担当教員	いのう けいこ 伊能 恵子
ナンバリングコード	EDU22205		授業形態	演習	実務経験			
授業方式	対面・遠隔・その他（ ）							
授業の内容	この授業は、教育実習を効果的に進めることができるよう、実習に向けて事前に準備するための教科である。実習に必要な書類を整えることや社会人としてのマナーを身につけること、或いは指導案の作成、自己課題の発見等学ぶ範囲も非常に広い。幼稚園現場に求められる保育の内容や、幼稚園及び保育者、幼児の実態を具体的に理解し、且つその視点を持って実習に臨めるようにする。							
到達目標	1. 幼稚園の生活に関する基本的事項を理解している。 2. 幼児の発達に応じたあそびの実践を体得している。 3. 幼稚園における保育活動、保育内容を理解している。 4. 教材研究、指導案作成をすることができる。							
学位授与方針	幼児教育学科（ ）地域保育学科（1・2・4・5）文化表現学科（ ）							
授業計画	第1回	内容	教育実習の意義・目的	予習	シラバスを読んでおく			
				復習	『実習の手引き』を読む			
	第2回	内容	部分実習と責任実習について	予習	『実習の手引き』を読んでおく			
				復習	ポイントをまとめる			
	第3回	内容	指導案とは	予習	指導案の書式を確認する			
				復習	活動と指導案の関係を確認する			
	第4回	内容	保育のねらいの設定 ～発達の概要～	予習	発達確保について調べておく			
				復習	発達をまとめる			
	第5回	内容	模擬保育（1）	予習	必要なものをそろえる			
				復習	留意点をまとめる			
	第6回	内容	模擬保育（2）	予習	必要なものをそろえる			
				復習	学んだことをまとめる			
	第7回	内容	指導案の作成	予習	指導案と実践を比較しておく			
				復習	改善点を見つける			
	第8回	内容	指導案の作成 ～制作活動編～ 評価基準作成及びグループワーク	予習	制作活動のアイデアを出しておく			
				復習	研究方法を確認する			
	第9回	内容	教材研究① 制作活動1	予習	指定された活動の要点を考えておく			
				復習	子どもにとっての魅力を確認する			
	第10回	内容	教材研究② 制作活動2	予習	実際に行うイメージをつくっておく			
				復習	案と実際のズレをおさえておく			
第11回	内容	教材研究③ 制作活動3	予習	予想できるトラブルを調べておく				
			復習	イメージと実際のズレを確認する				
第12回	内容	指導案の検討 ～評価・反省～	予習	対応の仕方を多角的に想像しておく				
			復習	他者の見方を取り入れる				
第13回	内容	指導案の作成 ～手あそび編～ 評価基準作成及びグループワーク	予習	指導案のイメージをつくっておく				
			復習	他の活動でも作成する				
第14回	内容	部分実習への導入技術：手あそび編	予習	対応の仕方を多角的に想像しておく				
			復習	他者の見方を取り入れる				
第15回	内容	指導案の検討 ～評価・反省～	予習	対応の仕方を多角的に想像しておく				
			復習	他者の見方を取り入れる				
第16回	内容	指導案の作成 ～体を使った遊び編～ 評価基準作成及びグループワーク	予習	ゲームをリストアップしておく				
			復習	留意点をまとめる				
第17回	内容	教材研究④ ～体を使った遊び編①～	予習	互いに重ならないように連携しておく				
			復習	イメージを共有する				
第18回	内容	教材研究⑤ ～体を使った遊び編②～	予習	必要なモノを準備しておく				
			復習	子どもにとっての魅力を確認する				
第19回	内容	指導案の検討 ～評価・反省～	予習	必要なモノを準備しておく				
			復習	気づいた点をまとめる				
	内容		予習	自己課題を考えておく				

	第20回		後期実習の課題と視点	復習	気づいた点をまとめる
		内容	実習の振り返り① グループ討議	予習	視点に沿って学習成果をまとめておく
				復習	他者からの学びをまとめる
	第22回	内容	実習の振り返り② グループ討議	予習	視点に沿って学習成果をまとめておく
				復習	他者からの学びをまとめる
	第23回	内容	自己評価	予習	自己評価を行っておく
				復習	再考する
	第24回	内容	事後面談①	予習	客観的に自己を見つめておく
				復習	他者視点を活かせるようまとめる
	第25回	内容	事後面談②	予習	客観的に自己を見つめておく
				復習	他者視点を活かせるようまとめる
	第26回	内容	実習のまとめ①	予習	実習全体の振り返りをする
				復習	後期実習での学びをまとめる
	第27回	内容	実習のまとめ②	予習	実習全体の振り返りをする
			復習	後期実習での学びをまとめる	
第28回	内容	実習報告会準備 グループワーク	予習	報告会のイメージをもっておく	
			復習	担当の報告内容を考える	
第29回	内容	実習報告会資料作成 グループワーク	予習	担当の報告内容を整理する	
			復習	報告会の資料を作成する	
第30回	内容	実習報告会	予習	報告内容の原稿を作成する	
			復習	報告会の感想をまとめる	
予習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね45分を目安とする。					
課題へのフィードバック	レポートや課題にはコメントを付けて返却する				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（40%）、作品・発表（30%）、実技（30%）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府、文部科学省、厚生労働省）				
補足事項	事前に十分な準備を行うことは、子どもや実習園の状況に応じた柔軟な対応を可能にする。受講生には、他者からも学ぶ姿勢が求められる。				

## 【地域保育学科】

### 「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

(シラバスリンク)

[https://www.akikusa.ac.jp/akitan/pdf/nursery\\_resume/ch\\_syllabus\\_2024.pdf](https://www.akikusa.ac.jp/akitan/pdf/nursery_resume/ch_syllabus_2024.pdf)

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	長谷川恭子	114
2	施設実習	2	実習	秋山展子	115
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	長谷川恭子	116
4	児童館実習	2	実習	秋山展子	117
5	教育実習Ⅰ	2	実習	伊能恵子	124
6	教育実習Ⅱ	2	実習	伊能恵子	125
	計	12			

注) 「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。